

**ANALISIS RAGAM YOUJIGO PADA ANIME AKACHAN  
TO BOKU EPISODE 1-9 KARYA MARIMO RAGAWA  
(マリモ・ラガバの「赤ちゃんと僕」のアニメエピソード  
第1から第9まで幼児語の分析)**

**SKRIPSI**

Diajukan untuk memenuhi salah satu syarat menempuh ujian sarjana sastra Jepang pada  
Program Studi Sastra Jepang STBA JIA Bekasi



**NURUL HASANAH**

**43131520143058**

**PROGRAM STUDI SASTRA JEPANG  
SEKOLAH TINGGI BAHASA ASING JIA  
BEKASI  
2018**

## LEMBAR PERSETUJUAN

ANALISIS RAGAM YOUJIGO PADA ANIME AKACHAN TO BOKU EPISODE 1-9

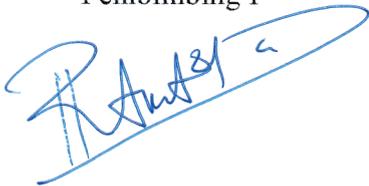
KARYA MARIMO RAGAWA

NURUL HASANAH

043131.52014.3058

Disetujui oleh:

Pembimbing I



Dr. Rainhard Oliver HW, S.S., M.Pd.

NIDN. 0401028102

Pembimbing II



Rosi Novisa Syarani, M.Pd.

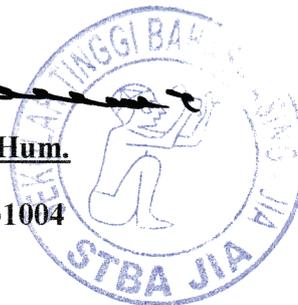
NIDN. 0422109002

Ketua STBA JIA



Drs. H. Sudjianto, M.Hum.

NIP. 195906051985031004



## HALAMAN PERNYATAAN KEASLIAN SKRIPSI

Nama : Nurul Hasanah  
Nomor Induk Mahasiswa : 043131.52014.3058  
Jurusan : Bahasa dan Sastra Jepang  
Judul : **ANALISIS RAGAM YOUJIGO PADA ANIME AKACHAN  
TO BOKU EPISODE 1-9 KARYA MARIMO RAGAWA**

Dengan ini menyatakan bahwa skripsi yang saya buat adalah asli bukan plagiat atau saduran. Apabila dikemudian hari terdapat kecurangan dalam penelitian, maka menjadi tanggung jawab saya dikemudian hari

Bekasi, 01 Agustus 2018



Nurul Hasanah

NIM. 043131.52014.3058

## LEMBAR PENGESAHAN

Nama : Nurul Hasanah  
Nomor Induk Mahasiswa : 043131.52014.3058  
Jurusan : Bahasa dan Sastra Jepang  
Judul : **ANALISIS RAGAM YOUJIGO PADA ANIME  
AKACHAN TO BOKU EPISODE 1-9 KARYA  
MARIMO RAGAWA**

Disahkan oleh:

Penguji I



**Drs. H. Sudjianto, M.Hum.**

**NIP. 195906051985031004**

Penguji II



**Elli Rahmawati Zulaeha, S.Pd., M.Si.**

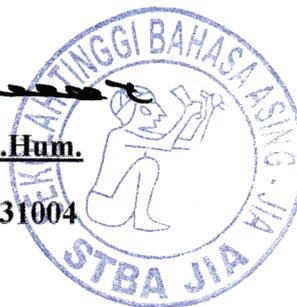
**NIDN. 0423077903**

Ketua STBA JIA



**Drs. H. Sudjianto, M.Hum.**

**NIP. 195906051985031004**



## SURAT KETERANGAN LAYAK UJIAN SIDANG

Saya Pembimbing I I Skripsi, dengan ini menyatakan bahwa mahasiswa berikut :

Nama : Nurul Hasanah  
Nomor Induk Mahasiswa : 043131.52014.3058  
Jurusan : Bahasa dan Sastra Jepang  
Judul : ANALISIS RAGAM YOUJIGO PADA ANIME AKACHAN  
TO BOKU EPISODE 1-9 KARYA MARIMO RAGAWA

Sudah layak untuk mengikuti ujian sidang skripsi yang akan diselenggarakan pada tanggal 10 – 11 Agustus, karena sudah menyelesaikan masa bimbingan dan mengikuti konsultasi – konsultasi lainnya. Selanjutnya untuk kesempurnaan hasil karya tulis yang sudah dibuat, maka saya menyerahkan sepenuhnya kepada Tim Penguji Sidang untuk menguji hasil karya dari mahasiswa

Bekasi, 01 Agustus 2018



**Rosi Novisa Syarani, M.Pd.**

**NIDN. 0422109002**

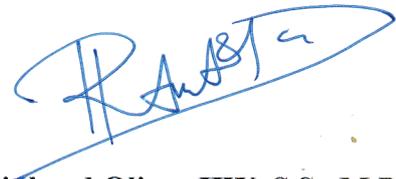
## SURAT KETERANGAN LAYAK UJIAN SIDANG

Saya Pembimbing I Skripsi, dengan ini menyatakan bahwa mahasiswa berikut :

Nama : Nurul Hasanah  
Nomor Induk Mahasiswa : 043131.52014.3058  
Jurusan : Bahasa dan Sastra Jepang  
Judul : ANALISIS RAGAM YOUJIGO PADA ANIME AKACHAN  
TO BOKU EPISODE 1-9 KARYA MARIMO RAGAWA

Sudah layak untuk mengikuti ujian sidang skripsi yang akan diselenggarakan pada tanggal 10 – 11 Agustus, karena sudah menyelesaikan masa bimbingan dan mengikuti konsultasi – konsultasi lainnya. Selanjutnya untuk kesempurnaan hasil karya tulis yang sudah dibuat, maka saya menyerahkan sepenuhnya kepada Tim Penguji Sidang untuk menguji hasil karya dari mahasiswa

Bekasi, 01 Agustus 2018



**Dr. Rainhard Oliver HW, S.S., M.Pd.**

**NIDN. 0401028102**

**ANALISIS RAGAM YOUJIGO PADA ANIME AKACHAN TO BOKU  
EPISODE 1-9 KARYA MARIMO RAGAWA**

**Nurul Hasanah**

**043131.52014.3058**

**ABSTRAK**

Penelitian ini berjudul Analisis Ragam Youjigo Pada Anime Akachan to Boku Episode 1-9 Karya Marimo Ragawa. Tujuan penelitian ini adalah untuk mengetahui ragam bahasa anak-anak dalam bahasa Jepang yang dituturkan oleh Minoru, salah satu tokoh dalam anime tersebut. Metode penelitian yang digunakan adalah kualitatif deskriptif dengan mengangkat aspek psikolinguistik dan sociolinguistik. Ada beberapa hal yang dihasilkan dari penelitian ini antara lain (1) mengetahui ragam youjigo yang dituturkan oleh tokoh Minoru (2) mengetahui faktor yang mempengaruhi pembentukan ragam youjigo (3) dan mengetahui perbandingan ragam youjigo antara anak laki-laki dan anak perempuan. Ditemukan sebanyak 33 data analisis yang dikategorikan sebagai ragam youjigo berdasarkan konteks atau situasi kata yang telah dituturkan.

Kata kunci : Anime, Youjigo

マリモ ラーガバの「赤ちゃんと僕」のアニメにおけるエピソード第 1 から第 9 まで幼児語の分析

**NURUL HASANAH**

**043131.52014.3058**

**STBA JIA**

**2018**

**ABSTRACT**

本研究のタイトルはマリモ ラーガバの「赤ちゃんと僕」のアニメにおけるエピソード第 1 から第 9 まで幼児語の分析である。本研究はみのるちゃんに日本語の幼児語使用されたのを知るためである。研究方法は心理言語学と社会言語学の側面を持ち上げることによる質的記述である。研究結果は（1）みのるちゃんによって日本語の幼児語使用された （2）幼児語の設立の影響要因知るため （3）幼児男の子と幼児女性の使用された幼児語を比較するためである。言葉が話される文脈または状況に基づいて誓いと分類される 33 データ分析言葉までが見出される。

キーワード：アニメ、幼児語

## 第 I 章

### はじめに

#### A. 背景

一般的に言語はコミュニケーション自体です。言語も知識として、思考と理解の形式である (Ohiutun: 2007: 14)。

Sudjanto によって (2007: 23) 年齢因子を決めて日本語を使う。字土語またわ幼児語と言う (バハサアナク一)、信吾と言う (ウンカパンバル) またわ流行語と言う (イスチラーポプレル)、多い若い好き、そして老人語またわシルバー言葉と言う (バハサオランチャア) これは年齢を話されるによって色々な言語があるになります。だから、この論文は幼児語について日本語で毎日使う。

言語習得またわアクイシシは母国語や母国語を取得したときに子どもの脳内で行われるプロセスである。著者取る日本のアニメ「赤ちゃんと僕」データソースとしてなぜなら著者見つける内部ドラマの対話多くの/誓いの言葉を使った作家が簡単にできるそれを調べる。

背景で筆者はマリモ ラーガバによって赤ちゃんと僕のアニメにエピソード第 1 から第 9 まで幼児語のスペクトルの分析を研究する。

## B. 研究の問題

背景によると、問題は :

1. どのような 幼児語アニメ「赤ちゃんと僕」のアニメの  
実文字によって話されている様々な?
2. どのような要因アニメの「赤ちゃんと僕の」のアニメ  
幼児語の様々な形成に影響?
3. 「赤ちゃんと僕」のアニメの幼児男の子と幼児女性の間  
幼児語 範囲の比較を僕にどのように?

## 第 II 章

### 理論的基礎

#### A. 心理言語学

理論的に目的の最初は心理言語学を受け取られて心理学的に言語の性質とその獲得を説明することができて言語の理論を探す。

Slobin の中 Chaer と友達（2009年：5）心理言語学は、コミュニケーションの際に聞いた文を話す場合に起こる心理学的プロセスを記述しようとして、人間にどのようなこの言語力を得られた。

#### B. 社会言語学

Wijana と Rohmadi の中に社会言語学の Wardaugh と Holmes によって（2013年：11－13）は話しての社会文化的要因と言語の構造または要素の実施形態と相関関係を説明しようとする言語科学の枝、形態、構文、意味的に識別し、彼の研究の対象となった現象を説明、すなわち、社会や地域の多種多様な言語である。

#### C. 日本語の音韻論

Sutedi（2008年：11）日本語の発音学と言うのは音声学、その意味はコミュニケーション手段とし言語の音について科学を信用されれます。

## D. 言語習得

### 1. 言語獲得の理解と言うのは

Ikou Koike によって特に第一言語による（2004年：3）第一言語取得について：

子供は何らかの障害を負わない限り、5歳頃まで二は自らが生まれ育つ地域会社の共通言語を（ふいRTLン具亜出）として自然と身につける。言うまでもなく、語彙力、知識、教養といった面では大人に遠く及ばない。しかし子供は生後間もない頃とうこから、日常耳にする音声がでたらめな音の連鎖ではなく、必ず規則性を伴っていること本能的に知っている。例えば、彼らが始めて耳にするL1の発話は、あくまでも音の連鎖であって、言語学者が便宜的に名詞（N）、動詞（V）、句（P）、あるいは主語（S）や目的語（お）などと呼んで定義している構造上の単位が明治されているわけではない。しかし、子供母語のインプットをデータとして、文法性に関する直感的な判断能力を他のL1話者と共有するようになる。

### 2. 言語獲得の理解 と幼児語

- a. Dardjowidjojo の中 Dardjowidjojo によって（2016年：197-198）子供は同じプロセスで言語を手に入れる。  
6ヶ月間8週間までに、子供クッキングを始めて、それは子供達は母音子音似ていて音を発行します。その音はまだ意味がない、でもそのことは音、6ヶ月間ぐらいに子供はふざけるで始めて、そのは音節の音を発行する。1歳に、子供は言葉として意味ことできて音を発行する。それで子

供は音節音声で言って初めて(*one word utterance*)、そして2歳に2単語音声で初めて(*two word utterance*)。ついに、4歳から5歳まで子供はスムーズで話させる。

b. Joseph C. Mukael によって :

第1言語に影響を与えるのは、母国語を学ぶ第1言語影響する。1. 1言語のプロセスを学ぶ、環境のフィジカル影響する。1言語として言語の関係の子供に資材環境する。

2. 1言語の社会環境に影響して、勉強するとき。両親の子供がいて子供間に子育て、世界の言語を勉強として両親の子供がいない。3. 学ぶのプロセス中にフィジカルと経済である。1つ遅れた理由の経済的要因によって貧しい家族から子供の言語を発達。4. 第1言語学習輪その背後に強い動機を持っている。内部と外部の両方である。

E. 日本語の中幼児語の例

使用法の文法実際はあまり正確ではないがありますが、色々な幼児語を正しくされる (Yulia, 2013年: 117-118)。

1. 接尾辞の使用の例 “お” と接尾辞 “さん”、“ちゃん”、“くん”。

- a. ねこちゃんインドネシアのと言うのは kucing。ノミナ+接尾辞“ちゃん”。
- b. きりんちゃん、キリンと言うのは jerapah。ノミナ+接尾辞“ちゃん”。
- c. アリサーちゃん、と言うのは子供の名前。ノミナ(子供の名前)+接尾辞“ちゃん”。
- d. こぐまちゃんが目をさました、インドネシアと言うのは beruang kecil sudah terbangun。こぐまノミナ+接尾辞“ちゃん”。

## F. 関連の研究

分析の幼児語についてももう完了していたのは Yulita Dewi Pusparanny さんに Airlangga 大学, Dharmawagsa Dalam Selatan Surabaya から来ました。タイトルは幼児語の漫画赤ちゃんと僕音量 1 と 2 作品はらがわ・もりもさんです。

## 第 III 章

### 先考研究

#### A. 研究方法

方法論は科学共同体全体における知的手続きについて議論した (Ratna、2015年: 34)。論文の中に、著者はデータ分析として記述的分析を使います。研究方法は記述的な研究である。著者はこの研究を行こうに行った手順はそのとおりです：

1. この研究に関連する本などの資料を収集すること。
2. 「赤ちゃんと僕」と言うアニメを見て、言葉を言って対話を書きます。
3. データの分析
4. 結論を出す

## 第 IV 章

### データ分析

#### A. データ露出

「赤ちゃんと僕」と言うアニメの言葉の見ては：

1. データ 1 : ミヤニヤ、ミヤニヤ。
2. データ 2 : いいちゃん。
3. データ 3 : あい。
4. データ 4 : いっちゃんあまー。
5. データ 5 : ていねい。
6. データ 6 : おしい。
7. データ 7 : こう。
8. データ 8 : Tutu. Tatta. Tutu.Tatta..
9. データ 9 :



10. データ 10 : こっちゃん。
11. データ 11 : ジュジュ。
12. データ 12 : Da. Ao Bu. Au Ao.Aw
13. データ 13 : いちやい。

14. データ 14 : ワンワンワンワン。
15. データ 15 : おめちゃい。
16. データ 16 : あゆじゃまー。
17. データ 17 : みに行く。
18. データ 18 : 僕、ふじまさきです。いつもお兄がおせ わにな  
ってます。
19. データ 19 : みのるくんお兄ちゃんは？どうも始めまして、い  
ちかと申します。大学カメです。あたしはみのるちゃんの結  
婚したいになるです。だから、お兄ちゃんのまかせてくださ  
いね。
20. データ 20 : ひどいなんことするなよ。昨日あなたのライベル  
決めてびぜかったよね。あなたにみのるちゃんはいきつく  
つないわ。
21. データ 21 : みのるちゃん、きれいに書いてね。あたし絶対み  
のるちゃん絵の際のとおもう。将来トピック書きたになるちが  
いにならないわね。
22. データ 22 : パンパイ。
23. データ 23 : はっく。
24. データ 24 : こいこえ こいこえ。
25. データ 25 : あげゆ。あいちゃも。
26. データ 26 : ちゃまご。

- 27. データ 27 : アイス
- 28. データ 28 : 怖い、怖い。
- 29. データ 29 : ピージマー。
- 30. データ 30 : いい子。
- 31. データ 31 : おまち行きちやい。
- 32. データ 32 : ポンポン。
- 33. データ 33 : きちや。

**B. データの解釈**

- 1. 「赤ちゃんと僕」というアニメにみのるちゃんは話します：

タベルのデータ解釈 4. 1

番	文章の種類	幼児語	日本語相当語
1.	名詞	いいちゃん。 あい。 ていねい。 ジュジュ。 パンパイ。 うみ うみ。 ちやまご。 アイス。	兄ちゃん。 はい。 先生。 ジュス。 カンパイ。 うみ、うみ。 卵。 アイス。

		<p>ピージマー。</p> <p>いい子。</p> <p>ポンポン</p>	<p>ピナッツ豆。</p> <p>いい子。</p> <p>ヨーヨー</p>
2.	動詞	<p>こう。</p> <p>できちゃ。</p> <p>あげゆ。</p> <p>あいちゃも。</p> <p>きちゃ。</p>	<p>こう。</p> <p>できた。</p> <p>あげる。</p> <p>預かる。</p> <p>来た。</p>
3.	形容詞 い	<p>いちゃい。</p> <p>おいしい。</p> <p>きやい。</p> <p>怖い。</p>	<p>痛い。</p> <p>おいしい。</p> <p>嫌い。</p> <p>怖い。</p>
4.	オノマトペ	<p>ミヤニヤ、ミヤ</p> <p>ニヤ。</p> <p>Tuttu. Tatta.</p> <p>Tuttu.Tatta..</p> <p>Da. Ao Bu. Au</p> <p>Ao.Aw</p> <p>ワンワンワンワ</p> <p>ン。</p>	<p>ミヤニヤ、ミヤ</p> <p>ニヤ。</p> <p>Tuttu. Tatta.</p> <p>Tuttu.Tatta..</p> <p>Da. Ao Bu. Au</p> <p>Ao.Aw</p> <p>ワンワンワンワ</p> <p>ン。</p>

5.	挨拶	いっちやあま ー。 こっちや。 おめちやい。 あゆじゃまー。	行って来ます。 こんいちほ。 ごめんなさい。 おはようござい ます。
6.	副詞	はっく。 こいこえ。	早く。 こちら。

2. 「赤ちゃんと僕」のアニメに幼児語の形成影響を与える：

タベルのデータ解釈 4. 2

番	子供の語	幼児語	説明
1.	子供の言語の確立	僕、ふじま さきです。 いつもお兄 がおせ わに なってま す。	富士マサキさ んの紹介はマ ボちゃんと呼 ばれ、ミノル と同じ年齢、2 年。

3. 「赤ちゃんと僕」のアニメに女性と少年間に幼児語を比較します：

タベルのデータ解釈4. 3

番	比較の文	幼児語	説明
1.	女の子との比較	みのるくんお兄ちゃんは？どうも始めまして、いちかと申します。大学カメです。あたしはみのるちゃんの結婚したいになるです。だから、お兄ちゃんのまかせてくださいね。	とき貴月イチカちゃんは、拓也、みのるちゃんの兄ちゃんの自己を紹介します。
2.		ひどいなんことするなよ。昨日あなたのライベル決めてびぜかったよね。あなたにみのるちゃんはあいさつくつないわ。	とき貴月イチカちゃんは、そんなみのるちゃんに意地悪なされていたので、ヒロちゃん

3.		<p>みのるちゃん、きれいに書いてね。あたし絶対みのるちゃん絵の際のとおもう。将来トピック書きたになるちがいがないわね。</p>	<p>を叱る。</p> <p>イチカちゃんがみのるちゃんの絵を賞賛しました。</p>
----	--	--	--

4. 「赤ちゃんと僕」のアニメ中に研究して、著者は男性運動発達  
 します：

タベルのデータ解釈 4. 4

番	この種の開発	オブジェクト	説明
1.	運動能力の開発		みのるちゃんの兄ちゃんはみのる

2.			による写真  みのるちゃん によって 作成された イチカちゃん とヒロちゃん の写真。
----	--	--	--

5. アニメに著者は短い文を見つけます

タベルのデータ解釈 4. 5

番	文の種類	幼児語	日本語対応
7.	短い文を作る	みに行く。 おまち行きちゃ い。	みに行く。 お祭り行きた い。

## 第 V 章

### 結論と提案

#### A. 結論

1. 「赤ちゃんと僕」のアニメに色々な幼児語は：名詞の 11 データ、動詞の 5 データ、形容詞の 4 データ、オノマトペの 4 データ、挨拶の 4 データ、副詞の 2 データ、短い文を作るの 2 データ、男性と女性の単語の比較の 2 データ、絵の形でモーター開発の 2 データ、そして子供の言語の形成の 1 データです。
2. コミュニケーションの成長に影響するに要因は第 1 言語を学習のフィジカルフィジカル環境、家族の社会環境、そして学ぶのプロセス中にフィジカルと経済です。
3. 男性と女性の単語の比較には女性は男性より早く話す。男性は話すのが遅く、女性よりも語彙が少ない。
4. 「赤ちゃんと僕」のアニメのにみのるちゃんと友達は幼児語を話して、幼児語によると日本語で。

## B. 提案

1. 日本語学習者のために、この研究、言語知識、特に子供の言葉の幼児語増やす。
2. 著者にとって、「赤ちゃんと僕」のアニメの色々な幼児語について研究を話す、興味を持つ研究したい希望されました。
3. STBA JIA として言語学に関する本のコレクションに追加する、言語の本を見つけるのは難しい日本語です。

## KATA PENGANTAR

Puji dan syukur penulis panjatkan kehadirat Allah SWT, karenaberkat Rahmat dan Karunia-Nya penulis dapat menyelesaikan penyusunan skripsi yang berjudul *Analisis Ragam Youjigo Pada Anime Akachan to Boku Episode 1-9 Karya Marimo Ragawa*.

Penulisan skripsi ini ditunjukkan untuk memenuhi salah satu syarat menempuh ujian sarjana Jurusan Bahasa Sastra Jepang di Sekolah Tinggi Bahasa Asing JIA Bekasi. Dalam penelitian skripsi ini tidak lepas dari hambatan dan kesulitan, namun berkat bimbingan, bantuan, nasihat dan saran serta kerjasama dari berbagai pihak, khususnya pembimbing, segala hambatan tersebut dapat diatasi dengan baik. Oleh karena itu, pada kesempatan ini penulis mengucapkan terimakasih yang sebesar-besarnya kepada :

1. Drs. H. Sudjianto, M.hum. selaku Ketua STBA JIA Bekasi
2. Yusnida Eka Puteri, S.S.,M.Si selaku Wakil Ketua I Bidang Kurikulum dan Akademik
3. Dr. Rainhard Oliver H.W, S.S., M.Pd selaku ketua Prodi SastraJepang (S1) STBA JIA Bekasi dan juga selaku pembimbing I
4. Rosi Novita Syarani, M.Pd Selaku pembimbing II.
5. Segenap Dosen STBA JIA Bekasi atas bimbingan, nasehat, dukungan serta bantuannya
6. Para staf STBA JIA Bekasi atas arahan dan pelayanan yang baik
7. Papah, Mamah dan kakak-kakakku, Indah dan Beby dan adik-adikku Latifah, Husnul, Tiarso serta keluarga besa ratas support, nasihat, dukungan serta bantuannya.
8. Keluarga besar B Pagi dan Malam yang selalu kompak.
9. Namamu yang selalu tersimpan didalam doa dan Lauhul Mahfuz ku

10. Rekan-rekan kerja yang telah penulis repotkan selama penyusunan skripsi ini maupun selama masa perkuliahan.
11. Semua pihak yang telah membantu menyelesaikan skripsi ini.

Semoga dengan apa yang telah diberikan kepada penulis mendapat imbalan yang dilipat gandakan oleh Allah SWT. Penulis menyadari bahwa dalam penulisan skripsi ini masih banyak yang perlu diperbaiki. Oleh karena itu, saran dan kritik yang bersifat membangun sangat penulis harapkan. Akhirnya penulis berharap skripsi ini bermanfaat bagi para pembaca dan dapat berguna untuk penelitian selanjutnya. Dan sekali lagi penulis ucapkan terimakasih yang teramat sangat mendalam atas dukungannya dalam penyusunan skripsi ini

Bekasi, 01 Agustus 2018

## DAFTAR ISI

Lembar Judul .....	i
Lembar Persetujuan.....	ii
Lembar Pengesahan .....	iii
Lembar Pernyataan Keaslian.....	iv
Motto dan Persembahan.....	v
Surat Keterangan Layak Ujian Sidang.....	vii
Abstraksi .....	ix
Yoshi .....	x
Kata Pengantar .....	xxvii
Daftar Isi .....	xxix

## BAB I PENDAHULUAN

<b>A. Latar Belakang .....</b>	<b>1</b>
<b>B. Rumusan Masalah dan Batasan Masalah .....</b>	<b>9</b>
1. Rumusan Masalah.....	9
2. Batasan Masalah.....	10
<b>C. Tujuan dan Manfaat Penelitian .....</b>	<b>10</b>
1. Tujuan Penelitian .....	10
2. Manfaat Penelitian .....	10
<b>D. Definisi Operasional .....</b>	<b>12</b>
<b>E. Sistematika Penulisan .....</b>	<b>13</b>

## BAB II KAJIAN TEORETIS

<b>A. Psikolinguistik.....</b>	<b>14</b>
1. Tinjauan Sejarah Psikolinguistik.....	15
a. Aliran Edialisme.....	16

b. Aliran Empirisme .....	17
2. Subdisiplin Psikolinguistik.....	18
a. Psikolinguistik Perkembangan .....	18
b. Psikolinguistik Sosial .....	18
c. Psikolinguistik Teoritis.....	19
d. Psikolinguistik Pendidikan .....	19
e. Psikolinguistik Neurologi (Neoropsikolinguistik) .....	19
f. Psikolinguistik Eksperimen .....	19
g. Psikolinguistik Terapan .....	19
3. Psikologi Dalam Linguistik.....	20
4. Linguistik Dalam Psikologi.....	21
5. Kerja Sama Psikologi dan Linguistik.....	22
6. Psikolinguistik sebagai disiplin mandiri .....	23
7. Bagaimana Manusia Mempersepsi Ujaran.....	24
a. Masalah dalam mempersepsi ujaran .....	25
b. Mekanisme Ujaran .....	25
c. Fonotaktik .....	26
<b>B. Sociolinguistik .....</b>	<b>26</b>
1. Bahasa, Masyarakat dan Kebudayaan.....	29
2. Variasi Bahasa.....	31
3. Bahasa Jepang dan Faktor Usia Penuturnya .....	32
<b>C. Fonologi Bahasa Jepang .....</b>	<b>33</b>
1. Silabel dalam Bahasa Jepang .....	35
2. Nama-nama Alat Ucap Penghasil Bunyi Bahasa .....	36
3. Alat Ucap dan Hambatan .....	39
<b>D. Pemerolehan Bahasa .....</b>	<b>39</b>
1. Pengertian Pemerolehan Bahasa .....	39
a. Menurut Ikou Koike .....	39
b. Menurut Sakoda Komiko .....	43
2. Pemerolehan Bahasa pada Anak dan Ragam Bahasa Anak.....	45
a. Menurut Dardjowidjojo.....	45

b. Menurut Tanaka Yoshi Sato.....	52
c. Menurut Joseph C. Mukael .....	54
d. Menurut Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi.....	56
e. Menurut Syamsu Yusuf.....	59
f. Menurut Nurdin.....	62
<b>E. Contoh Youjigo dalam bahasa Jepang.....</b>	<b>65</b>
<b>F. Penelitian Relavan.....</b>	<b>67</b>

### **BAB III METODOLOGI PENELITIAN**

<b>A. Metodologi Penelitian .....</b>	<b>69</b>
1. Waktu dan Tempat Penelitian .....	70
2. Jenis Penelitian.....	70
<b>B. Prosedur Penelitian .....</b>	<b>71</b>
1. Tahap Persiapan .....	72
2. Tahap Pelaksanaan .....	72
3. Tahap Penyelesaian.....	73
<b>C. Teknik Pengumpulan Data.....</b>	<b>73</b>
<b>D. Teknik Analisis Data .....</b>	<b>74</b>
<b>E. Sumber Data .....</b>	<b>74</b>

### **BAB IV ANALISIS dan PEMBAHASAN**

<b>A. Paparan Data .....</b>	<b>75</b>
1. Penjelasan Mengenai Anime Akachan to Boku.....	80
a. Sinopsis Cerita Akachan to Boku.....	80
b. Tokoh Dalam Anime Akachan to Boku .....	82
2. Biografi Pengarang.....	88
<b>B. Analisis Data .....</b>	<b>89</b>
<b>C. Interpretasi Data .....</b>	<b>159</b>

**BAB V KESIMPULAN dan SARAN**

<b>A. Kesimpulan .....</b>	<b>170</b>
<b>B. Saran.....</b>	<b>174</b>

**DAFTAR ACUAN**

**LAMPIRAN**

**DAFTAR RIWAYAT HIDUP**

## **BAB I**

### **PENDAHULUAN**

#### **A. Latar Belakang**

Sebagai alat interaksi verbal, bahasa dapat dikaji secara internal maupun secara eksternal. Secara internal kajian dilakukan terhadap struktur internal bahasa itu, mulai dari struktur fonologi, morfologi, sintaksis, sampai struktur wacana. Kajian secara eksternal berkaitan dengan hubungan bahasa itu dengan faktor-faktor atau hal-hal yang ada diluar bahasa, seperti faktor sosial, psikologi, etnis, seni, dan sebagainya (Chaer, 2009:1).

Bahasa digunakan sehari-hari oleh siapa saja dalam transaksi apa saja, dan oleh karena itu didenifikasikan sebagai komunikasi antar makhluk manusia, yang dicirikan dengan penggunaan simbol lisan atau tertulis secara acak (arbiter) sesuai makna yang telah diterima masyarakat penutur. Secara umum bahasa adalah komunikasi itu sendiri. Bahasa juga dianggap sebagai bentuk pengetahuan, yaitu bentuk pemikiran dan pemahaman (*cognition*) (Ohoiwutun, 2007:14).

Bahasa adalah sebuah sistem, artinya bahasa itu dibentuk oleh sejumlah komponen yang berpola secara tetap dan dapat dikaidahkan. Bagi orang yang mengerti sistem bahasa Indonesia akan mengakui bahwa susunan “Ibu meng... seekor...di...” adalah sebuah kalimat bahasa

Indonesia yang benar sistemnya, meskipun ada sejumlah komponennya yang ditanggalkan. Tetapi susunan “Meng ibu se ikan goreng di ekor dapur” bukanlah kalimat bahasa Indonesia yang benar karena tidak tersusun menurut sistem kalimat bahasa Indonesia. Sebagai sebuah sistem, bahasa selain bersifat sistematis juga bersifat sistemis. Dengan sistematis maksudnya, bahasa itu tersusun menurut suatu pola tertentu, tidak tersusun secara acak atau sembarangan. Sedangkan sistemis, artinya sistem bahasa itu bukan merupakan sebuah sistem tunggal melainkan terdiri dari sejumlah subsistem, yakni subsistem fonologi, subsistem morfologi, subsistem sintaksis, dan subsistem leksikon. Bahasa bersifat unik, meskipun juga bersifat universal. Unik, artinya memiliki ciri atau sifat khas yang tidak dimiliki bahasa lain, dan universal berarti, memiliki ciri yang sama yang ada pada semua bahasa (Chaer dan Agustina, 2010:11-12).

Sedangkan teori terakhir menurut Ohoiwutun (2007:16-17) bahasa didefinisikan sebagai pemroduksian dan persepsi ujaran, bahasa berkembang maju perlahan-lahan, sebagaimana umat manusia berkembang. Diperkirakan bahasa manusia belum berbeda dengan komunikasi hewan hingga spesialisasi fisiologis ini terjadi mungkin hingga anak berusia 2 tahun. Produksi bahasa manusia terjadi untuk pertama kalinya pada manusia *Neanderthal* (100.000-30.000 tahun silam), dispekulasikan orang bahwa kurang lebih pada 40.000-30.000 tahun silam, muncullah manusia modern, *Homo Sapiens*, dengan tengkorak dan rongga vokal yang sudah memadai untuk berbicara.

Sedangkan bahasa Jepang adalah bahasa yang unik, apabila kita melihat para penuturnya, tidak ada masyarakat negara lain yang memakai bahasa Jepang sebagai bahasa nasionalnya. Sebagai bandingan kita dapat melihat bahasa lain seperti bahasa Inggris yang dipakai di beberapa negara sebagai bahasa nasionalnya seperti di Amerika, Inggris, Australia, Selandia Baru, Kanada, dan sebagainya. Sehingga walaupun menguasai bahasa Inggris kita dapat berkomunikasi dengan warga negara-negara tersebut. Contoh lain adalah bahasa Melayu yang biasa dipakai oleh orang-orang Indonesia, Malaysia, Brunai Darussalam, dan sebagainya. Bahasa Jepang tidak sama dengan bahasa-bahasa yang tadi. Bahasa Jepang hanya dipakai oleh bangsa Jepang sebagai bahasa nasionalnya yaitu orang-orang yang lahir dan hidup di dalam lingkungan masyarakat dan kebudayaan Jepang. Kita dapat berkomunikasi bahasa Jepang hanya dengan orang Jepang atau dengan orang lain yang pernah mempelajarinya (Sudjianto, 2004:4-12).

Menurut Kinenkai dalam Sudjianto (2004:4-12) bahasa Jepang dapat dikatakan sebagai bahasa yang dipakai oleh bangsa Jepang yaitu sekelompok masyarakat yang lahir dan hidup di negara Jepang yang memiliki luas wilayahnya kurang lebih 380.000 km persegi yang terdiri atas pulau-pulau besar yakni, Hokkaido, Honshu, Shikoku, Kyuushu dan kira-kira 7000 pulau kecil yang ada di sekitarnya. Negara Jepang dibagi menjadi delapan distrik yang berurutan dari sebelah utara yakni, Hokkaido, Toohoku, Kantoo, Chuubu, Kinki, Chuugoku, Shikoku, dan

Kyuushu. Namun secara administrative negara Jepang dibagi menjadi 1 *to* yaitu Tookyooto, 1 *do* yaitu Hokkaido, 2 *fu* yaitu Oosakafu dan Kyootofu, serta 43 ken. Masing-masing *to-doo-fu-ken* tersebut dibagi lagi menjadi *shi*, *choo*, atau *son*. Jadi bahasa Jepang adalah bahasa yang dipakai oleh sekelompok orang yang tinggal di wilayah negara tersebut terutama sebagai bahasa ibunya yang memiliki berbagai macam dialek.

Dalam masyarakat Jepang, bahasa juga digunakan sebagai alat komunikasi dan alat interaksi sesama anggota masyarakat. Anggota masyarakat itu sendiri terdiri dari berbagai golongan orang. Ada golongan wanita dan ada golongan laki-laki. Ada kelompok orang tua remaja, dan anak-anak.

Menurut Sudjianto (2007:23) faktor usia turut menentukan dalam pemakaian bahasa Jepang. Keberadaan *jidogo* atau *yoojigo* (bahasa anak-anak), *shingo* (ungkapan/istilah baru) atau *ryuukoogo* (istilah populer) yang banyak disukai remaja, dan *roojingo* atau *shirubaa kotoba* (bahasa orang tua) telah menjadi bukti adanya bahasa-bahasa yang berbeda-beda berdasarkan usia penuturnya. Oleh karena itu, bahasa yang akan diambil dalam penelitian ini adalah bahasa anak-anak yang digunakan setiap harinya didalam bahasa Jepang.

Menurut Chaer (2009:173) menyatakan bahwa perilaku berbahasa seseorang dibentuk oleh serentetan ganjaran yang beragam-ragam yang

muncul disekitar orang itu. Seorang anak-anak yang sedang memperoleh sistem bunyi bahasa ibunya, pada mulanya akan “mengucapkan” semua bunyi yang ada pada semua bahasa yang ada di dunia ini pada tahap berceloteh (*babbling period*). Namun, orang tua si bayi atau anak-anak itu hanya “memberikan” bunyi-bunyi yang ada dalam bahasa ibunya saja. Maka dengan demikian, si bayi hanya dilazimkan untuk menirukan bunyi-bunyi dari bahasa ibunya saja. Lalu, si bayi akan menggabungkan bunyi-bunyi yang telah dilazimkan untuk menirukan ucapan-ucapan orang tuanya. Jika tiruannya itu betul atau mendekati ucapan yang sebenarnya, maka dia akan mendapatkan “hadiah” dari ibunya berupa senyuman, tawa, ciuman, dan sebagainya. Bisa dikatakan bahasa anak-anak itu berkembang setahap demi setahap, mulai dari bunyi, kata, frase, dan kalimat.

Pemerolehan bahasa atau akuisisi adalah proses yang berlangsung di dalam otak seseorang anak-anak ketika ia memperoleh bahasa pertamanya atau bahasa ibunya. Pemerolehan bahasa biasanya dibedakan dari pembelajaran bahasa (*language learning*). Pembelajaran bahasa berkaitan dengan proses-proses yang terjadi pada waktu seseorang anak-anak mempelajari bahasa kedua, setelah ia memperoleh bahasa pertamanya. Jadi, pemerolehan bahasa berkenaan dengan bahasa pertama, sedangkan pembelajaran bahasa berkenaan dengan bahasa kedua (Chaer, 2009:173).

*Anime* merupakan salah satu film berjenis animasi dari Jepang yang digemari oleh anak-anak, remaja, dan dewasa. *Anime* sudah mulai berkembang pesat dari tahun ke tahun di beberapa belahan negara termasuk Indonesia. *Anime* mulai disiarkan di Indonesia pada tahun 1990-an yaitu saat stasiun televisi swasta Indonesia banyak menyiarkan film berjenis animasi. Mengenai *anime*, *Anime Akachan to Boku* cukup digemari oleh para anak-anak ataupun orang dewasa di Indonesia, seperti pencinta *anime* dan sebagainya. Selain menggemari *anime Akachan to Boku*, *anime* ini memiliki genre humor yang menggelakkan tawa dan menyenangkan dengan tokoh utama anak yang sekolah dibangku Sekolah Dasar dan adiknya yang berusia 2 tahun. Sehingga banyak digemari oleh berbagai kalangan.

Dalam kegiatan berkomunikasi terutama pada balita perlu pemahaman yang sangat tinggi dikarenakan dalam pengucapannya yang belum jelas. Pada anak usia nol tahun pertama kali mengeluarkan suara “A.., U.., Ku.....” dan lain-lain adalah sebagai dasar bahasa lisan, hal itu dinamakan bahasa cinta, dengan kemajuan bahasa memiliki arti yang sangat penting. Pada usia satu tahun seorang anak mulai mengucapkan ucapan yang sederhana seperti “*Mamma*”, “*Papa*”, dan suara tiruan “*wan wan*”, “*bu bu*”. Pada masa ini anak mulai mendengarkan bahasa pertama. Bagi orang dewasa usaha untuk memahami isi arti atau makna secara konkrit atau positif seperti untuk memahami kata “*mamma*” sudah tidak masalah atau sudah dimaklumi (Yulia, 2013:115-116).

Bahasa anak usia dua tahun anak sudah bisa bicara atau mengatakan dua kata atau lebih. Seperti kata “ *Mam ma doko*” , “*ookii wan wan kita*” disamping itu sampai sekarang yang disebut “*bu bu*” “*basu*”, “*patooka-*” dan lain-lain. Sedikit demi sedikit memperoleh kata-kata orang dewasa. Bahasa anak usia tiga tahun, pada masa ini anak usia tiga tahun mendapatkan kepercayaan diri akan bertambah kuat dan keinginan menyampaikan pikiran semakin maju. Bahasa anak usia empat sampai lima tahun, anak pada usia ini melakukan penyempurnaan bahasa lisan, perluasan pengalaman hidupnya dan memperkaya kosakata (Yulia, 2013:116).

Jika dilihat dari data di atas maka bahasa anak-anak semakin besar, dari bayi, balita, sampai disebut anak-anak dimulai dengan mengucapkan kata pertama yang didengar dan akan berkembang seiring usianya.

*Anime* yang berjudul *Akachan to Boku* menjadi sasaran penelitian ini karena *anime* ini menceritakan tentang seorang anak Sekolah Dasar bersama adiknya yang masih berusia 2 tahun dengan ragam *yujigonya* . Di dalam *anime* ini juga terdapat beberapa percakapan yang mengandung ragam *yujigo* dalam bahasa Jepang. *Anime Akachan to Boku* yang dikarang oleh Marimo Ragawa adalah manga *shōjo*. Awalnya diterbitkan di Jepang oleh *Hakusensha* , dan diterbitkan dalam bahasa Inggris oleh *Viz Media* , diserialkan di majalah *Shojo Beat* . *Anime* ini menerima Penghargaan Shogakukan Manga ke-40 untuk *shōjo* pada tahun 1995.

Serial ini diadaptasi sebagai serial televisi *anime* pada tahun 1996. Semua episode juga dijuluki dalam bahasa Arab. *Akachan to Boku (baby and me)* menjelaskan gaya hidup rinci seorang anak sekolah dasar bersama adiknya yang berusia 2 tahun.

*Akachan to Boku (baby and me)* adalah *anime* yang akan membuat anak-anak maupun orang dewasa yang menontonnya berderai-derai air mata. Terdiri dari sekitar 26 episode dengan durasi setiap episodanya hanya 20 menit saja. *Anime* ini menceritakan tentang Takuya Enoki, siswa kelas 5 SD yang baru saja kehilangan ibunya yang meninggal akibat kecelakaan mobil. Takuya diharuskan menjaga adiknya yang masih berusia 2 tahun bernama Minoru dan Takuya juga harus menggantikan tugas ibunya untuk memasak, membersihkan rumah, dan merawat adiknya. Disaat sang ayah yang sibuk bekerja dikantornya. Dalam menjaga adiknya dikehidupan sehari-hari banyak ragam *yujigo* yang dipakai oleh sang adik, Minoru. Tema yang diangkat tiap-tiap episodanya pun sangat sederhana sekali dan dekat dengan kehidupan sehari-hari. Saat menonton *anime* ini, kadang kala akan membuat penontonnya dibuat tertawa melihat kelakuan Minoru yang menggemaskan. Dan dalam *anime* ini juga memiliki edukasi supaya dapat merenungi dan berpikir dalam kehidupan sehari-hari.

Penulis akan meneliti tentang Ragam Youjigo yang ada didalam *Anime Akachan to Boku* 1-9. Dengan judul “**Analisis Ragam Youjigo Pada Anime Akachan to Boku Episode 1-9 Karya Marimo Ragawa**”.

## **B. Rumusan dan Fokus Masalah**

### **1. Rumusan Masalah**

Berdasarkan latar belakang yang telah diuraikan di atas, rumusan masalah tentang penelitian ini variasi bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang adalah :

1. Ragam youjigo apa saja yang dituturkan oleh tokoh Minoru pada *anime Akachan to Boku* ?
2. Faktor apa yang mempengaruhi pembentukan ragam youjigo dalam *anime Akachan to Boku* ?
3. Bagaimana perbandingan ragam youjigo anantara anak perempuan dan anak laki-laki dalam *anime Akachan to Boku* ?

Dengan berdasarkan alasan tersebut, penulis bermaksud mengadakan penelitian dalam bentuk sebuah skripsi dengan judul “**Analisis Ragam Youjigo Pada Anime Akachan to Boku Episode 1-9 Karya Marimo Ragawa**”.

## 2. Fokus Masalah

Penulis membatasi penelitian ini hanya pada ragam Youjigo bahasa Jepang pada *anime Akachan to Boku* karya Marimo Ragawa episode 1 sampai episode 9, agar penelitian lebih terarah dan tidak meluas pembahasannya.

### C. Tujuan dan Manfaat Penelitian

#### 1. Tujuan Penelitian

Tujuan yang hendak dicapai melalui penelitian ini adalah :

- a. Untuk mengetahui bagaimana perkembangan pengucapan yang dialami oleh tokoh Minoru dalam ragam *youjigo* pada *anime Akachan to Boku*.
- b. Untuk mengetahui faktor apa yang mempengaruhi pembentukan ragam *youjigo* dalam *anime Akachan to Boku*.
- c. Untuk mengetahui Bagaimana perbandingan ragam *youjigo* antara anak perempuan dan anak laki-laki dalam *anime Akachan to Boku*.

#### 2. Manfaat Penelitian

Manfaat penelitian yang ingin dicapai dalam penelitian ini ada dua, yaitu manfaat teoretis dan manfaat praktis sebagai berikut:

**a. Manfaat Teoretis**

Secara teoretis penelitian ini memiliki manfaat sebagai berikut:

- 1) Untuk menambah pengetahuan dan pemahaman mengenai ragam *youjigo* dalam bahasa Jepang.
- 2) Dapat menambah referensi penelitian dalam bahasa Jepang, khususnya mengenai ragam *youjigo* dalam bahasa Jepang.
- 3) Dapat bermanfaat bagi kemajuan ilmu pengetahuan khususnya dibidang linguistik.
- 4) Dapat dijadikan acuan sebagai bahan masukkan data perbandingan bagi penelitian selanjutnya.

**b. Manfaat Praktis**

Selain manfaat teoritis, dalam penelitian ini juga terdapat manfaat praktis yaitu :

- 1) Menambah pengetahuan dan menambah pemahaman bagi para pembelajar bahasa Jepang khususnya mengenai ragam *youjigo* dalam bahasa Jepang dengan benar dan baik.
- 2) Selain itu, penelitian dapat dijadikan sebagai acuan untuk penelitian berikutnya dan memberikan sumbangan bagi perpustakaan STBA JIA Bekasi.

#### **D. Definisi Operasional**

Untuk menghindari kesalahan dalam menginterpretasikan makna kata-kata dan istilah-istilah yang digunakan dalam judul penelitian ini, penulis mendefinisikan istilah-istilah sebagai berikut :

*Youjigo atau bahasa anak-anak :*

Perkembangan bahasa anak-anak yang dibentuk melalui perkembangan pikiran yang dimulai pada usia 1,6-2,0 tahun, yaitu pada saat anak dapat menyusun kalimat dua atau tiga kata (Yunus, 2004:118-119).

*Anime Akachan to Boku :*

Adalah serangkaian manga yang ditulis dan dilustrasikan oleh Marimo Ragawa Awalnya adalah manga *shōjo*, diterbitkan di Jepang oleh *Hakusensha* , dan diterbitkan dalam bahasa Inggris oleh Viz Media , diserialkan di majalah *Shojo Beat* . Anime ini menerima Penghargaan Shogakukan Manga ke-40 untuk *shōjo* pada tahun 1995. Serial ini diadaptasi sebagai serial televisi anime pada tahun 1996. Semua episode juga dijuluki dalam bahasa Arab. *Akachan to Boku (baby and me)* menjelaskan gaya hidup rinci seorang anak sekolah dasar bersama adiknya yang berusia 2 tahun.

## **E. Sistematika Penulisan**

Sistematika penulisan laporan penelitian (skripsi) ini terdiri dari lima bab yaitu bab I sebagai pendahuluan, bab II sebagai landasan teoritis, bab III sebagai metode penelitian, bab IV sebagai analisis data dan pembahasan, serta bab V adalah sebagai kesimpulan dan saran.

BAB I ; dalam bab ini menerangkan latar belakang masalah, rumusan masalah batasan masalahnya, tujuan dan manfaat penelitian, ruang lingkup penelitian, definisi operasional, serta sistematika penulisan skripsi ini. BAB II : bab ini menjelaskan tentang landasan teoritis, menguraikan tentang teori-teori yang melandasi kegiatan penelitian, teori-teori yang relevan dengan tema penelitian, dan berupa landasan teoritis yang menjelaskan variasi bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang. BAB III : berupa metode penelitian, membahas mengenai metode penelitian, objek penelitian, instrument dan sumber data penelitian, teknik analisis/pengolahan data, serta kesimpulan/generalisasi. BAB IV : berupa paparan data, analisis data dan pembahasan, serta interpretasi data terdiri dari analisis data terhadap data yang telah di kaji yaitu variasi bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang. BAB V : berupa kesimpulan dan saran, menguraikan kesimpulan hasil penelitian dan memberi saran yang bisa dijadikan tema untuk penelitian selanjutnya.

## BAB II

### LANDASAN TEORETIS

#### A. Psikolinguistik

Secara etimologi sudah disinggung bahwa kata *psikolinguistik* terbentuk dari kata *psikologi* dan kata *linguistik*, yakni dua bidang ilmu yang berbeda, yang masing-masing berdiri sendiri, dengan prosedur dan metode yang berlainan. Namun keduanya sama-sama meneliti bahasa sebagai objek formalnya. Hanya objek materinya yang berbeda, linguistik mengkaji struktur bahasa, sedangkan psikologi mengkaji perilaku berbahasa atau proses berbahasa. Dengan demikian cara dan tujuannya juga berbeda. Perlu adanya kerja sama di antara kedua disiplin ini untuk mengkaji bahasa dan hakikat bahasa. Dengan kerja sama kedua disiplin itu diharapkan akan diperoleh hasil kajian yang lebih baik dan bermanfaat. Pada awalnya kerja sama antara kedua disiplin itu disebut *linguistic psychology* dan ada juga yang menyebutnya *psychology of language*. Kemudian sebagai hasil kerja sama yang lebih baik, lebih terarah, dan lebih sistematis di antara kedua ilmu itu, lahirlah suatu disiplin ilmu baru yang disebut *psikolinguistik*, sebagai ilmu antardisiplin antara psikologi dan linguistik. Istilah *psikolinguistik* itu sendiri baru lahir tahun 1954, yakni tahun terbitnya buku *Psycholinguistics: A Survey of Theory and*

*Research Problems* yang disunting oleh Charles E. Osgood dan Thomas A. Sebeok, di Bloomington, Amerika Serikat (Chaer, 2009:5).

Menurut Slobin dkk dalam Chaer (2009:5) psikolinguistik mencoba menguraikan proses-proses psikologi yang berlangsung jika seseorang mengucapkan kalimat-kalimat yang didengarnya pada waktu berkomunikasi, dan bagaimana kemampuan berbahasa itu diperoleh oleh manusia.

Maka secara teoretis tujuan utama psikolinguistik adalah mencari suatu teori bahasa yang secara linguistik bisa diterima dan secara psikologi dapat menerangkan hakikat bahasa dan pemerolehannya. Dengan kata lain, psikolinguistik mencoba menerangkan hakikat struktur bahasa, dan bagaimana struktur ini diperoleh, digunakan pada waktu bertutur, dan pada waktu memahami kalimat-kalimat dalam pertuturan itu. Dalam prakteknya psikolinguistik mencoba menerapkan pengetahuan linguistik dan psikologi pada masalah-masalah seperti pengajaran dan pembelajaran bahasa, pengajaran membaca dan membaca lanjut, kedwibahasaan dan kemultibahasaan, penyakit afasia, gagap dan sebagainya, serta masalah-masalah sosial lain yang menyangkut bahasa dan pendidikan, bahasa dan pembangunan nusa dan bangsa (Chaer, 2009:5-6).

## **1. Tinjauan Sejarah Psikolinguistik**

Wundt dalam Mar'at (2015:6-12) pada tahun 1900, Wundt menulis dalam bukunya tentang psikolinguistik yang berjudul "*Die Sprache*",

terdiri dari dua jilid. Die Sprache ini merupakan bagian dari satu set buku karangan Wundt yang berjudul “*Volker Psychologie*” (*Psikologi Bangsa*), yang membahas tentang kebudayaan, struktur sosial, bahasa, moral dan lain-lain dari berbagai bangsa yang berbeda di dunia ini. Isinya semacam antropologi terhadap kebanyakan psikolog yang tidak menyadari atau mengetahuinya. Dalam bukunya itu, Wundt berusaha dengan keras menggabungkan dua aliran yang sangat kuat pada abad ke-19, yaitu aliran idealisme atau rasionalisme dengan aliran empirisme :

**a. Aliran Idealisme**

Salah seorang tokoh aliran idealisme yang terkenal adalah Humboldt. Ia sangat menaruh perhatian pada buku “*Volker Psycholinguistik*”. Terutama mengenai aspek antropologi dan linguistiknya. Menurut aliran *idealisme* ialah melalui berpikir (*thinking*) dan penalaran (*reasoning*). Bagaimana seorang anak dapat memperoleh pengetahuan serta bagaimana seorang anak yang mula-mula tidak mempunyai pengetahuan apa-apa, makin hari makin bertambah pengetahuannya. Menurut Humboldt, anak-anak dilahirkan dengan bekal pengetahuan tentang yang *innate* sifatnya (dibawa sejak lahir/bawaan). Dengan bekal dan bantuan penalaran, anak itu membangun pengetahuannya. Timbul pertanyaan, kalau hal membangun atau membentuk (*building knowledge*) pengetahuan itu mungkin, lalu bagaimana prosesnya dan mekanismenya? Jawabannya adalah appersepsi. **Appersepsi** adalah tahap terakhir dari persepsi yang sangat mendalam (*attentive*

*perception*), dimana obyek-obyek yang dipersiapkan itu sangat terpegang (dipahami) dan menonjol dalam kesadaran. Apa yang ada dalam pikiran kita sekarang selalu berhubungan dengan apa yang ada sebelumnya, atau dapat dikatakan selalu berkaitan dengan keseluruhan isi pikiran kita.

**b. Aliran Empirisme**

Jacob Grimm, seorang linguis yang bekerja di Jerman pada permulaan abad ke-19. Dia mempunyai pandangan yang empiristik dan tertarik pada segi fonologi. Dia telah mengumpulkan data mengenai struktur bunyi dari berbagai bahasa yang bersumber pada cerita-cerita rakyat dari kebudayaan yang berbeda. Grimm menemukan adanya kesamaan-kesamaan atau keteraturan-keteraturan dalam struktur bunyi pada berbagai bahasa, misalnya membandingkan bahasa Latin dan bahasa Inggris, dan menemukan bahwa “*p*” pada “*peter*” telah berubah menjadi “*f*” dalam “*father*”. Juga pada kata-kata latin lainnya, sehingga ia menyimpulkan bahwa “*p*” cenderung untuk berubah menjadi “*f*” dan “*t*” menjadi “*th*”. Bagi penganut empirisme mental life adalah penginderaan yang merupakan suatu unsur dari kehidupan mental. Kaum empiris mengatakan bahwa pengetahuan diperoleh dari penginderaan. Jadi, dari pengalaman bukan dari penalaran seperti yang dikatakan oleh kaum *idealis/rasionalis*. Disamping itu, dikatakannya juga bahwa anak-anak lahir tanpa pengetahuan apa-apa., mereka adalah Tabula Rasa, sesuatu yang kosong. Hanya melalui

pengalaman mereka baru mendapatkan pengetahuan. Mekanisme pembentukan pengetahuan ini menurut kaum empiris adalah melalui asosiasi dan analogi.

## **2. Subdisiplin Psikolinguistik**

Bahasa yang berkaitan dengan proses-proses mental manusia dalam berbahasa, misalnya dalam rancangan fonetik, rancangan pilihan kata, rancangan sintaksis, rancangan wacana, dan rancangan intonasi. Menurut Chaer (2009:6-7) ada beberapa subdisiplin Psikolinguistik sebagai berikut :

### **a. Psikolinguistik Perkembangan**

Subdisiplin ini berkaitan dengan proses pemerolehan bahasa, baik pemerolehan bahasa pertama (B1) maupun pemerolehan bahasa kedua (B2). Subdisiplin mengkaji proses pemerolehan fonologi, proses pemerolehan semantik, dan proses pemerolehan sintaksis secara berjenjang, bertahap dan terpadu.

### **b. Psikolinguistik Sosial**

Subdisiplin ini berkenaan dengan aspek-aspek sosial bahasa. Bagi suatu masyarakat bahasa, bahasa itu bukan hanya merupakan satu gejala dan identitas sosial saja , tetapi juga merupakan suatu ikatan batin dan nurani yang sukar ditinggalkan.

c. Psikolinguistik Teoretis

Subdisiplin ini membahas teori-teori kan hanya merupakan satu gejala dan identitas sosial saja, tetapi juga merupakan suatu ikatan batin dan nurani yang sukar ditinggalkan.

d. Psikolinguistik Pendidikan

Subdisiplin ini mengkaji aspek-aspek pendidikan secara umum dalam pendidikan formal di sekolah.

e. Psikolinguistik Neurologi (Neuropsikolinguistik)

Subdisiplin ini mengkaji hubungan antar bahasa, berbahasa, dan otak manusia. Para pakar neurologi telah berhasil menganalisis struktur biologis otak, serta telah memberi nama pada bagian-bagian struktur otak itu.

f. Psikolinguistik Eksperimen

Subdisiplin ini meliputi melakukan eksperimen dalam semua kegiatan bahasa dan berbahasa pada satu pihak dan perilaku berbahasa dan akibat berbahasa pada pihak lain.

g. Psikolinguistik Terapan

Subdisiplin ini berkaitan dengan penerapan dari temuan-temuan enam subdisiplin psikolinguistik di atas ke dalam bidang-bidang tertentu yang memerlukannya.

Menurut Chaer (2009:11) pada abad yang silam terdapat dua aliran filsafat yang saling bertentangan dan yang sangat mempengaruhi perkembangan linguistik dan psikologi. Yang pertama adalah aliran *empirisme* yang erat kaitannya dengan psikologi asosiasi. Aliran

*empirisme* melakukan kajian terhadap data empiris atau objek yang dapat diobservasi dengan cara menganalisis unsur-unsur pembentukannya sampai yang sekecil-kecilnya. Oleh karena itu, aliran ini disebut bersifat *atomistik*, dan lazim kaitannya dengan *asosianisme* dan *positivisme*. Aliran kedua dikenal dengan nama *rasionalisme*. Aliran ini mengkaji akal sebagai satu keseluruhan dan menyatakan bahwa faktor-faktor yang ada dalam akal inilah yang patut diteliti untuk bisa memahami perilaku manusia itu. Oleh karena itu, aliran ini disebut bersifat *holistik*, dan biasa dikaitkan dengan paham *nativisme*, *idealisme*, dan *mentalisme*.

Dilanjutkan dengan adanya kerja sama antar pakar linguistik dan pakar psikologi, dan kemudian muncullah pakar-pakar psikolinguistik sebagai disiplin mandiri (Chaer, 2009:12-18).

### **3. Psikologi dalam Linguistik**

Dalam sejarah kajian linguistik ada sejumlah pakar linguistik yang menaruh perhatian besar pada psikologi diantaranya :

Menurut *Von Humboldt* dalam Chaer (2009:12) pakar linguistik berkebangsaan Jerman, telah mencoba mengkaji hubungan antara bahasa (linguistik) dengan pemikiran manusia (psikologi). Caranya, dengan membandingkan tata bahasa dari bahasa-bahasa yang berlainan dengan tabiat-tabi'at bangsa-bangsa penutur bahasa itu (bandingkan dengan pendapat Edward Sapir pada uraian berikutnya). Dari perbandingan itu diperoleh kesimpulan bahwa bahasa (tata bahasa) suatu masyarakat

menentukan pandangan hidup masyarakat penutur bahasa itu. Tampaknya Von Humboldt sangat dipengaruhi oleh aliran rasionalisme. Dia menganggap bahasa bukanlah sesuatu yang sudah siap untuk dipotong-potong dan diklasifikasikan seperti aliran empirisme. Menurut Von Humboldt bahasa itu merupakan suatu kegiatan yang memiliki prinsip-prinsip sendiri.

Menurut Edward Sapir dalam Chaer (2009:12), pakar linguistik dan antropologi bangsa Amerika, telah mengikutsertakan psikologi dalam pengkajian bahasa. Menurut Sapir, psikologi dapat memberikan dasar ilmiah yang kuat dalam pengkajian bahasa. Beliau juga mencoba mengkaji hubungan bahasa (linguistik) dengan pemikiran (psikologi). Dari kajian itu beliau berkesimpulan bahwa bahasa, terutama strukturnya, merupakan unsur menentukan struktur pemikiran manusia (bandingkan dengan Von Humboldt di atas). Beliau juga menentukan bahwa linguistik dapat memberikan sumbangan yang penting kepada psikologi Gestalt, dan sebaliknya psikologi Gestalt dapat membantu disiplin linguistik.

#### **4. Linguistik dalam Psikologi**

Dalam sejarah perkembangan psikologi ada sejumlah pakar psikologi yang menaruh perhatian pada linguistik diantaranya :

Menurut *John Dewey* dalam Chaer (2009:13-14), pakar psikologi berkebangsaan Amerika, seorang empirisme murni. Beliau telah

mengkaji bahasa dan perkembangannya dengan cara menafsirkan analisis linguistik bahasa kanak-kanak berdasarkan prinsip-prinsip psikologi. Umpamanya, beliau menyarankan agar penggolongan psikologi akan kata-kata yang diucapkan kanak-kanak dilakukan berdasarkan makna seperti yang dipahami kanak-kanak, dan bukan seperti yang dipahami orang dewasa dengan bentuk-bentuk tata bahasa orang dewasa. Dengan cara ini, maka berdasarkan prinsip-prinsip psikologi akan dapat ditentukan antara kata-kata berkelas adverbial dan preposisi disatu pihak dengan kata-kata berkelas nomina dan adjektiva di pihak lain. Jadi, dengan kajian kelas kata berdasarkan pemahaman kanak-kanak yang dihubungkan dengan perbedaan-perbedaan linguistik. Pengkajian ini, menurut Dewey, akan memberi bantuan yang besar kepada psikologi bahasa pada umumnya.

## **5. Kerja Sama Psikologi dan Linguistik**

Kerja sama secara langsung antara disiplin linguistik dan psikologi sebenarnya sudah dimulai sejak 1860, yaitu oleh Heyman Steinthal, seorang ahli psikologi yang beralih menjadi ahli linguistik, dan Moritz Lazarus seorang ahli linguistik yang beralih menjadi ahli psikologi dengan menerbitkan sejumlah jurnal yang khusus membicarakan masalah psikologi bahasa dari sudut linguistik dan psikologi. Menurut Steinthal, sebuah ilmu psikologi tidak mungkin dapat hidup tanpa sebuah ilmu bahasa. Juga dikatakannya bahwa satu-satunya jalan untuk masuk ke

dalam akal manusia adalah melalui hukum-hukum asal bahasa dan bukan melalui pancaindra manusia (Chaer, 2009:17).

Dasar-dasar psikolinguistik menurut beberapa pakar di dalam buku yang disunting oleh Osgood dan Sebeok sebagai berikut (Chaer, 2009:17-18) :

- a. Psikolinguistik adalah satu teori linguistik berdasarkan bahasa yang dianggap erat sebagai sebuah sistem elemen yang saling berhubungan erat.
- b. Psikolinguistik adalah satu teori pembelajaran (menurut teori behaviourisme) berdasarkan bahasa yang dianggap sebagai satu sistem tabiat dan kemampuan yang menghubungkan isyarat dengan perilaku.
- c. Psikolinguistik adalah satu teori informasi yang menganggap bahasa sebagai sebuah alat untuk menyampaikan suatu benda.

## **6. Psikolinguistik sebagai Disiplin Mandiri**

Menurut Lenneberg dalam Chaer (2009:18) menyatakan bahwa manusia mempunyai kecenderungan biologi yang khusus memperoleh bahasa yang tidak dimiliki hewan, alasannya sebagai berikut :

1. Terdapatnya pusat-pusat yang khas di dalam otak untuk berbahasa.
2. Cara perkembangan bahasa pada semua bayi adalah sama.
3. Adanya kesukaran yang dialami untuk menghambat pertumbuhan pada manusia.

4. Bahasa tidak mungkin diajarkan kepada makhluk lain.
5. Semua bahasa di dunia ini memiliki bagian-bagian yang sama yang bersifat universal.

## 7. **Bagaimana Manusia Mempersepsi Ujaran**

Masalah yang dihadapi oleh pendengar adalah bahwa dia harus dapat meramu bunyi-bunyi yang dia dengar itu sedemikian rupa sehingga bunyi-bunyi itu membentuk kata yang tidak hanya bermakna tetapi juga cocok dalam konteks di mana kata-kata itu dipakai. Bagi penutur asli, atau penutur yang sudah fasih berbahasa tersebut, proses ini tidak terasakan dan datang begitu saja secara naluri. Akan tetapi, bagi penutur asing proses ini sangat rumit. Pengalaman penulis waktu mengajar bahasa Indonesia di Universitas Hawaii membuktikan hal ini. Pada waktu itu para mahasiswa diminta untuk mendengarkan rekaman suatu percakapan. Dalam percakapan itu ada kalimat yang berbunyi *Nanti malam akan ada pesta*. Karena para mahasiswa ini masih berada pada tingkatan dasar, maka ada sebagian mahasiswa yang menggabungkan bunyi-bunyi kalimat itu secara keliru sehingga munculah hasil berikut *Nanti malama Kanada pesta*. Tentu saja mereka bingung karena kalimat seperti ini. Dari contoh diatas, ada kasus-kasus yang lain, tampak bahwa menangkap suatu ujaran bukanlah suatu proses yang sederhana. Kita harus mulai dahulu dengan proses bagaimana kita mencerna bunyi-bunyi itu sebelum kita dapat memahaminya sebagai ujaran (Dardjowidjojo, 2016:29-30).

a. Masalah Dalam Mempersepsi Ujaran

Suara seorang wanita, seorang pria, dan seorang anak juga berbeda-beda. Getar pita suara untuk wanita berkisar antara 200-300 per detik, sedangkan untuk pria hanya sekitar 100. Karena itu suara seorang pria kedengarannya lebih “*berat*”. Suara anak lebih tinggi dari suara wanita karena getaran pita suaranya bisa mencapai 400 per detik. Perbedaan-perbedaan ini tentu saja memunculkan bunyi yang berbeda-beda, meskipun kata yang diucapkan itu sama. Kata *tidur* yang diucapkan oleh seorang wanita, pria, dan anak tidak akan berbunyi sama. Namun, kita sebagai pendengar dapat mempersepsikannya sebagai kata yang sama (Dardjowidjojo, 2016:30).

b. Mekanisme Ujaran

Sumber dari bunyi adalah paru-paru. Paru-paru kita berkembang dan berkempis untuk menyedot dan mengeluarkan udara. Melalui saluran di tenggorokan, udara ini keluar melalui mulut atau hidung ini ada kalanya udara dibendung oleh salah satu bagian dari mulut kita sebelum kemudian dilepaskan. Hasil bendungan udara inilah yang menghasilkan bunyi. Udara yang dihembuskan oleh paru-paru kita keluar melewati satu daerah yang dinamakan daerah glotal. Udara ini kemudian lewat lorong yang dinamakan faring (*pharynx*). Dan faring itu ada dua jalan : yang pertama melalui hidung dan yang kedua melalui rongga mulut. Semua bunyi yang dibuat dengan udara melalui

hidung disebut bunyi nasal. Sementara itu, bunyi yang udaranya keluar melewati mulut dinamakan bunyi oral (Dardjowidjojo, 2016:32-33).

c. Fonotaktik

Tiap bahasa memiliki sistem sendiri-sendiri untuk menggabungkan fonem agar menjadi suku dan kemudian kata. Dengan demikian maka tidak mustahil adanya dua bahasa yang memiliki beberapa fonem yang sama tetapi fonotaktiknya, yakni sistem pengaturan fonemnya, berbeda. Bahasa Inggris dan bahasa Indonesia, misalnya, memiliki fonem /p, /s/, /k/, /r/, dan /l/. Akan tetapi, fonotaktik bahasa Inggris memungkinkan penggabungan /s-p-r/ dan /s-p-o/ pada awal suku seperti terlihat pada kata-kata *sprite* /sɹpaɪt/ dan *split* /splɪt/. Kebanyakan orang Indonesia tidak dapat mengucapkan kata-kata seperti ini dan seringkali mereka menyisipkan sebuah vokal sehingga ucapannya menjadi /sɹɒpaɪt/ dan /sɒplɪt/.

Bila di atas telah dipaparkan tentang teori-teori psikolinguistik, maka selanjutnya penulis akan memaparkan teori yang juga berkaitan erat dengan penelitian ini yaitu teori Sociolinguistik.

## B. Sociolinguistik

Sociolinguistik menurut sejumlah ahlinya Wardaugh dan Holmes dalam Wijana dan Rohmadi (2013:11-13) adalah cabang ilmu bahasa yang berusaha menerangkan korelasi antara perwujudan struktur atau elemen

bahasa dengan faktor-faktor sosiokultural pertuturannya tentu saja mengansumsikan pentingnya pengetahuan dasar-dasar linguistik dengan berbagai cabangnya, seperti fonologi, morfologi, sintaksis, dan semantik dalam mengidentifikasi dan menjelaskan fenomena-fenomena yang menjadi objek kajiannya, yakni bahasa dengan berbagai variasi sosial atau regionalnya. Tokoh yang secara ekstrem menolak dipertimbangkannya faktor luar bahasa untuk menjelaskan masalah kebiasaan ialah Chomsky (1965), seperti terlihat dalam pandangannya berikut ini sering kali menjadi bahan perdebatan ahli bahasa :

*“linguistic theory is concerned primarly with in an ideal speaker-listener, in a completely homogenous speech community. Who knows its language perfectly and is unaffected by such grammtically irrelevant conditions as memory limitations, distractions, shift of attentions and interests and errors (randoms or characteristic) in applying his knowledge of the language in actual perfomance. This seems to me to heve been the position of the founders of modern general linguistics, and no cogent reason for modifying it has been affered. To study actual linguistics, we must consider the interaction of a variety of factors, of which the underlying competence of the speaker-hearer is only one.”*

Terjemahan:

Teori linguistik terutama berkaitan dengan pembicara dan pendengar yang ideal, dalam komunitas pembicara yang benar-benar homogen. Yang mengetahui bahasanya sempurna dan tidak terpengaruh oleh kondisi gramatikal yang tidak relevan seperti keterbatasan ingatan, gangguan, pergeseran perhatian dan minat kesalahan (randoms atau karakteristik) dalam menerapkan pengetahuannya tentang bahasa dan dalam kinerja yang sebenarnya. Ini terlihat bahwa saya menjadi posisi para pendiri linguistik modern, dan tidak ada alasan kuat untuk memodifikasi itu yang telah ditawarkan. Untuk mempelajari linguistik yang sebenarnya, kita harus mempertimbangkan interaksi berbagai faktor, dimana kompetensi yang mendasari pembicara-pendengar hanya satu.

Sebagai objek dalam sosiolinguistik, bahasa tidak hanya dilihat sebagai bahasa saja, namun dilihat sebagai sarana interaksi atau komunikasi di dalam masyarakat. Oleh karena itu, rumusan mengenai sosiolinguistik yang diberikan pada pakar yang tidak akan terlepas dari persoalan hubungan bahasa dengan kegiatan-kegiatan atau aspek-aspek kemasyarakatan.

Menurut Wijana dan Rohmadi (2013:48-49) dengan ukuran-ukuran yang sangat relatif dalam sebuah masyarakat tutur sekurang-kurangnya dapat dibedakan dua jenis penutur, yakni penutur berkompeten (*fully fledge speaker*) dan penutur parsitipatif (*unfully fledge speaker*). Penutur berkompeten adalah penutur yang benar-benar mampu menggunakan bahasa dalam berbagai tindak komunikasi. Penutur kompeten tidak hanya memiliki pengetahuan tentang kosa kata dan struktur bahasa yang bersangkutan tetapi juga mempunyai kemampuan untuk mengomunikasikannya secara pragmatis. Dalam hubungan ini Richards, Coulthard, dan Hymes dalam Wijana dan Rohmadi (2013:48-49) membatasi kompetensi komunikatif sebagai kemampuan untuk mengaplikasikan kaidah-kaidah gramatikal suatu bahasa untuk membentuk kalimat-kalimat yang gramatikal dan menggunakannya dalam berbagai situasi pertuturan. Jadi, seorang penutur yang berkompeten memiliki:

1. Pengetahuan mengenai gramatikal dan kosa kata suatu bahasa.
2. Pengetahuan mengenai kaidah-kaidah berbahasa (*rules of speaking*).

3. Pengetahuan tentang bagaimana menggunakan dan merespons tipe-tipe tidak tutur yang berbeda-beda, seperti perintah permohonan, permintaan maaf, ucapan terima kasih, ajakan, dan sebagainya.
4. Pengetahuan tentang bagaimana berbicara secara wajar.

### **1. Bahasa, Masyarakat dan Kebudayaan**

Sebagaimana air, udara, dan makanan yang secara biologis sangat penting bagi kehidupan manusia sehari-hari, begitu juga bahasa tidak diragukan lagi kepentingannya bagi kehidupan bermasyarakat. Kepentingan ini begitu disadari mengingat hal yang penting di dalam kehidupan bermasyarakat adalah terciptanya komunikasi yang harmonis di mana bahasa merupakan pirantinya yang amat ampuh. Kita semua menyadari bahwa dengan bahasa maka percakapan dapat terjadi antarmanusia, lalu manusia-manusia tersebut saling membentuk hubungan satu sama lain, sehingga pada akhirnya melahirkan sebuah masyarakat penutur bahasa. Dengan kata lain, sehingga pada akhirnya melahirkan sebuah masyarakat diperlukan komunikasi dengan bahasa sebagai pirantinya yang diperoleh manusia bukan sebagai warisan yang diturunkan secara biologis, melainkan dengan cara dipelajari sebagai kehidupan (Sudjianto, 2007:9).

Dalam hal ini Harumi dalam Sudjianto (2007:10-11) menyebutkan fungsi bahasa sebagai identitas penuturnya (penulisnya). Misalnya apabila kita mendengar ungkapan ‘*Ookini*’, maka kita tidak hanya akan tahu

bahwa ‘si pembicara berterima kasih kepada seseorang’, melainkan kita akan tahu juga bahwa ‘si pembicara berasal dari daerah Kansai’. Bahkan apabila kita mendengarkan tutur kata orang lain dengan lebih cermat lagi maka kita dapat menduga-duga latar belakang sosial orang itu, pendidikannya, pekerjaannya, bahkan, cara berpikirnya.

Keterkaitan bahasa dengan kebudayaan dapat dilihat juga dari posisi bahasa sebagai salah satu unsur kebudayaan. Unsur-unsur kebudayaan menurut C. Kluckhohn dalam Suharto dalam Sudjianto (2009:11) terdiri atas :

1. Peralatan dan perlengkapan hidup manusia, misalnya : pakaian, perumahan, transport, dan sebagainya.
2. Mata pencaharian hidup dan sistem-sistem ekonomi. Misalnya ; pertanian, peternakan, sistem produksi, sistem distribusi, dan sebagainya.
3. Sistem kemasyarakatan, misalnya : sistem hukum, sistem perkawinan, organisasi politik, dan sebagainya.
4. Bahasa (lisan maupun tertulis).
5. Kesenian, misalnya ; seni lukis, seni suara, dan sebagainya.
6. Sistem pengetahuan.
7. Religi (sistem kepercayaan).

Bahkan Suparlan dalam Sudjianto (2007:11-12) mendudukan suatu bahasa pada posisi teratas di dalam deretan unsur-unsur kebudayaan yang

terdiri dari : (1) Bahasa dan komunikasi; (2) Ilmu pengetahuan; (3) Teknologi; (4) Ekonomi; (5) Organisasi sosial; (6) Agama; (7) Kesenian.

Antara masyarakat dan kebudayaan saling memberikan pengaruh timbal balik. Di dalam masyarakat, kebudayaan itu di satu pihak dipengaruhi oleh anggota masyarakat, tetapi di lain pihak anggota masyarakat itu dipengaruhi oleh kebudayaan. Misalnya, orang Eropa yang beriklim dingin terpaksa harus membuat pakaian tebal. Jadi jelasnya 'kebudayaan' suatu hasil cipta daripada hidup bersama yang berlangsung berabad-abad. Kebudayaan adalah suatu hasil, dan hasil itu dengan sengaja atau tidak sesungguhnya ada dalam masyarakat (Sudjianto, 2009:12).

Dengan demikian dapat dibuat kesimpulan bahasa, masyarakat, dan kebudayaan saling berkaitan erat satu sama lain yang tidak dapat dipisahkan.

## **2. Variasi Bahasa**

Variasi bahasa itu pertama-tama kita bedakan berdasarkan penutur dan penggunaannya. Berdasarkan penutur berarti, siapa yang menggunakan bahasa itu, di mana tinggalnya, bagaimana kedudukan sosialnya di dalam masyarakat, apa jenis kelaminnya, dan kapan bahasa itu digunakannya. Berdasarkan penggunaannya, berarti bahasa itu digunakan untuk apa, dalam bidang apa, apa jalur dan alatnya, dan bagaimana situasi keformalannya (Chaer dan Agustina, 2010:62).

Bahasa Jepang memiliki tingkatan hormat yang sangat luar biasa, dan ini digunakan dengan teliti sesuai dengan setiap keadaan dan dengan tingkatan seseorang sesuai kedudukannya. Ragam bahasa hormat (*keigo*) dipakai untuk menghaluskan bahasa yang dipakai orang pertama (pembicara atau penulis) untuk menghormati orang kedua (pendengar atau pembaca) dan orang ketiga (yang dibicarakan). Jadi yang dipertimbangkan pada waktu menggunakan *keigo* adalah konteks tuturan termasuk orang pertama, orang kedua, dan orang ketiga (Sudjianto, 2004:189).

### **3. Bahasa Jepang dan Faktor Usia Penuturnya**

Sudjianto (2007:23) anak-anak menggunakan bahasa yang khas yang disebabkan alat ucap (artikulator) mereka yang belum berkembang. Secara fonologis bahasa anak-anak memiliki beberapa perbedaan dengan bahasa yang dipakai orang dewasa. Perbedaannya, seperti dapat kita amati pada kata *buubuu* (*kuruma*=mobil), *wanwan* (*inu*=anjing), *manma* (*gohan*=nasi), *nenne* (*neru*=tidur), dan sebagainya (Tadasu dalam Sudjianto, 2007:23).

Selain itu Tanaka dalam Sudjianto (2007:23-24) melihat kecenderungan anak-anak muda yang terus-menerus menciptakan *shingo* dan *ryuukoogo*, dan mereka juga yang menjadi pelopor penyebaran bahasa tersebut. Namun oleh karena bahasa anak muda (yang disebut dengan 'slang') ini memiliki sifat-sifat yang khas dimana hanya dipakai di antara teman atau kelompok tertentu yaitu antar anak muda atau antar mahasiswa, maka sering kali merupakan bahasa yang sulit dipahami oleh orang tua.

Seperti terlihat pada bagian berikut, Harumi Tanaka mengajukan beberapa contoh bahasa anak muda yang dikumpulkannya dari 150 orang mahasiswa yang dijadikan sampel pada sebuah penelitiannya.

Bahasa Anak Muda:	Ragam Standar:
<i>Geesen</i>	<i>geemu sentaa</i>
<i>Getsudoramiru</i>	<i>Getsuyoobi mo dorama o miru</i>
<i>Monohon</i>	<i>Honmono</i>
<i>Chairu</i>	<i>Jitensha de dekakeru</i>
<i>Jikoru, jikotta</i>	<i>jiko o okosu, okoshite shimatta</i>
<i>Aasshiikun</i>	<i>Kuruma de okurimukae o shite</i>
	<i>kureru ashi ni naru dansei</i>

Bahasa anak muda seperti diatas sulit dipahami oleh orang tua dan dapat dianggap sebagai bahasa yang tampaknya dibuat secara serampangan. Tetapi kalau kita mengamati kebanyakan contoh-contohnya, akan kita pahami bahwa di sana terdapat karakteristik-karakteristik dan aturan-aturan yang khas.

### C. Fonologi Bahasa Jepang

Sutedi (2008:11) istilah fonetik dalam bahasa Jepang disebut *onseigaku*, yaitu ilmu yang mengkaji tentang bunyi bahasa (ujaran) yang digunakan sebagai alat untuk berkomunikasi. Berbicara tentang bunyi

banyak sekali macamnya, Kashima dalam Sutedi (2008:11) menggolongkannya seperti berikut:

1. Bunyi yang tidak berhubungan dengan manusia, seperti bunyi: angin, kendaraan, binatang dan lain-lain.
2. Bunyi yang berhubungan dengan manusia, yang terdiri dari :
  - A. Bunyi yang tidak disengaja/disadari, yaitu:
    1. Bunyi yang tidak menggunakan alat ucap, seperti bunyi perut, kentut dan lain-lain.
    2. Bunyi yang menggunakan alat ucap, seperti batuk, bersin dan lain-lain.
  - B. Bunyi yang disengaja/ disadari, di dalamnya terdiri dari:
    1. Bunyi yang tidak menggunakan alat ucap, seperti tepuk tangan, bunyi ketukan dan lain-lain.
    2. Bunyi yang menggunakan alat ucap yang terdiri dari bunyi *bahasa* (ujaran), siulan, batuk-batukkan untuk maksud tertentu.

Objek kajian fonetik adalah bunyi bahasa (ujaran) yang dihasilkan secara disengaja dengan menggunakan alat ucap dan digunakan untuk menyampaikan suatu makna.

Sutedi (2008:12) bunyi bahasa timbul karena ada tiga hal, yaitu aliran udara, artikulator, dan titik artikulasi. Mula-mula, udara keluar dari paru-paru melewati pita suara yang terkadang tidak, kemudian udara tersebut naik ke tenggorokan, lalu masuk ke mulut dan diatur oleh alat ucap

(artikulator dan titik artikulasi), sehingga menimbulkan bunyi bahasa yang membawa suatu makna. Bunyi bahasa yang keluar dari mulut pembicara tadi, disalurkan melalui udara sampai pada telinga lawan bicara, sehingga makna yang terkandung di dalamnya bisa dipahaminya. Jadi, terjadinya bunyi bahasa sebagai alat komunikasi terdiri dari proses pembuatannya, lalu proses perjalanan menuju telinga, dan proses diterimanya oleh telinga lawan bicara sehingga bisa memahaminya.

Ketiga hal tersebut dikaji oleh tiga cabang fonetik, yaitu: *fonetik artikulatoris* (*chou-on onseigaku*), *fonetik akuitis* (*onkyou-onseigaku*), dan *fonetik auditoris* (*choukaku-onseigaku*). Fonetik artikulatoris mengkaji tentang bagaimana bunyi bahasa dihasilkan oleh alat ucap manusia, sedangkan fonetik akuitis mengkaji tentang bagaimana bunyi dibawa oleh udara, sehingga sampai ke telinga manusia. Ini merupakan cabang yang erat kaitannya dengan ilmu fisika. Adapun fonetik auditoris mengkaji tentang bagaimana telinga seseorang menerima bunyi bahasa, sehingga bisa memahami (Sutedi:2008:12)

#### 1. Silabel dalam Bahasa Jepang

Sudjianto (2009:21-22) menerangkan bahwa silabel adalah salah satu satuan bunyi bahasa, dalam bahasa Jepang disebut *onsetsu*. Sebagian besar silabel dalam bahasa Jepang dilambangkan dengan sebuah huruf kana (*hiragana* atau *katakana*). Tetapi ada juga silabel yang dilambangkan dengan dua buah huruf kana seperti silabel-silabel *yoo'on* yang ditulis dengan cara menggabungkan huruf-huruf kana き(*ki*), し(*shi*), ち(*chi*),

に(*ni*), ひ(*hi*), み(*mi*), ん(*n*), ぎ(*gi*), じ(*ji*), び(*bi*), dan ぴ(*pi*) dengan huruf-huruf kana や(*ya*), ゆ(*yu*), dan よ(*yo*) yang ditulis dengan ukuran-ukuran kecil sehingga menjadi silabel-silabel きや(*kya*), きゆ(*kyu*), きよ(*kyo*), しや(*sha*), しゆ(*shu*), しよ(*sho*), dan sebagainya. Silabel bahasa Jepang, terutama akan lebih jelas bila silabel itu ditulis dengan huruf latin, dapat dibagi menjadi beberapa fonem. Fonem-fonem tersebut ada yang berbentuk konsonan, vokal, dan ada juga yang berbentuk semi vokal. Silabel dalam bahasa Jepang dapat terbentuk susunan fonem sebagai berikut :

- a. V (satu vokal), yaitu vokal-vokal /a/, /i/, /u/, /e/, dan /o/.
- b. KV (satu konsonan dan satu vokal), misalnya silabel-silabel /ka/, /ki/, /ku/, /ke/, /ko/, /sa/, /si/, /shi/, dan sebagainya.
- c. KSV (satu konsonan, satu semi vokal, dan satu vokal), misalnya silabel-silabel /kya/, /kyu/, /kyo/, /sha/, /shu/, /sho/, dan sebagainya.
- d. SV (semi vokal dan satu vokal), yaitu silabel-silabel /ya/, /yu/, /yo/, dan /wa/.

Dari struktur silabel di atas terlihat bahwa silabel-silabel di dalam bahasa Jepang sebagian besar diakhiri dengan vokal. Silabel yang diakhiri dengan vokal dalam bahasa Jepang disebut *kaionsetsu* (silabel buka), sedangkan diakhiri dengan konsonan disebut *beionsetsu* (silabel tutup).

## 2. Nama-Nama Alat Ucap Penghasil Bunyi Bahasa

Bagian-bagian tubuh manusia yang digunakan untuk mengeluarkan atau mengucapkan bunyi bahasa disebut *onsei kikan* (Kato dalam

Sudjianto, 2009:24). Dengan *onsei kikan* (alat ucap) tersebut bunyi bahasa dibentuk dengan memanfaatkan arus udara pernapasan sebagai sumber bunyi utamanya. Arus udara pernapasan yang dimanfaatkan untuk pengucapan bunyi bahasa keluar dari paru-paru (*bai*) melewati tenggorokan (*kikan*) dan setelah mengalami proses pengolahan oleh alat ucap, lalu dihembuskan melalui rongga mulut (*kookoo/kuchimuro*) atau ada pula yang melalui rongga hidung (*bikoo/hanamuro*). Bunyi suara yang dibentuk dengan cara mengeluarkan arus udara pernapasan melalui rongga hidung disebut *bion* (bunyi nasal). Bunyi suara dibentuk dengan keadaan anak tekak atau uvula (*koogihan*) turun ke bawah sehingga jalan udara ke rongga hidung terbuka sedangkan satu bagian rongga mulut tertutup sehingga arus udaranya hanya bisa melewati rongga hidung (Sudjianto, 2009:24).

Disekitar pangkal tenggorokan (*kootoo*) terdapat pita suara (*seita*). Pada waktu mengeluarkan arus udara pernapasan pada saat pembentukan bunyi bahasa, pita suara ini biasanya bergetar sehingga dapat membentuk tekanan-tekanan suara tertentu. Bunyi yang dihasilkan yang disertai getaran pita suara disebut *yuuseion* (bunyi yang bersuara), sedangkan bunyi yang dihasilkan tanpa disertai getaran pita suara disebut *muiseion* (bunyi yang tidak bersuara). Diantara kedua belah pita suara terdapat celah suara atau glotis (*seimon*), sedangkan di bagian atas pita suara terdapat epiglotis (*kootoogai*) yang berfungsi melindungi pita suara pada waktu makan. Kalau kita sedang menelan makanan atau minuman, epiglotis ini

akan bergerak ke bawah menutupi lubang tenggorokan untuk melindungi pita suara agar makanan masuk kekerongkongan (*shokudoo*) bukan ke tenggorokan, lalu apabila kita bernapas (menarik atau menghembuskan nafas), maka epiglotis ini akan terbuka kembali (Sudjianto, 2009:24-25).

Dibagian rongga mulut paling luar terdapat dua buah bibir bagian atas dan bagian bawah (*kuchibiru/kooshin/ryooshin*). Dibagian yang terdekat dengan bibir ada serentetan gigi atas dan gigi bawah (*ha*) dan di sekitar gigi terdapat gusi (*baguki/shikei*). Dibagian lebih dalam sebelah gusi dalam atas (*alveolum*) ada langit-langit (*koogai*) yang terdiri atas langit-langit keras atau palatum (*kookoogan*) dan langit-langit lunak velum (*nankoogai*). Bagian alat ucap antara *shikei* (*gusi/alveolum*) dan *kookoogai* (langit-langit keras/palatum) disebut *shikei kookoogai*. Lalu di bagian ujung setelah *nankoogai* terdapat *koogaihan* atau *koogaisui* (anak tekak/uvula). Dibagian bawah rongga mulut ada lidah (*shita*) yang secara berurutan dari bagian depan dibagi menjadi ujung lidah atau apeks (*shitasaki/zessen*), lidah bagian depan (*maejita/zenzetsu*), lidah bagian tengah (*nakajita/chuuzetsu*), lidah bagian belakang (*okujita/okuzetsu/koozetsu*), dan bagian lidah yang paling belakang atau paling dalam yaitu akar lidah (*zekkon*). Dengan menggunakan berbagai alat ucap tersebut maka dapat dihasilkan bunyi-bunyi bahasa yang berbeda-beda (Sudjianto, 2009:25).

### 3. Alat Ucap dan Hambatan

Menurut Tjandra (2004:17-18) pada proses produksi bahasa, alat ucap akan bekerja untuk membentuk suatu tahapan praucapan, yaitu tahapan sebelum pengucapan, yang segera disusul dengan pengucapan, yaitu pengeluaran bunyi bahasa. Ada dua jenis tahapan pengucapan :

#### a. Tanpa hambatan

Tahapan praucapan tanpa hambatan adalah tahapan praucapan yang diciptakan oleh alat ucap tanpa pembentukan suatu hambatan apapun di dalam rongga mulut dan sekitarnya, sehingga arus udara dari tenggorokan dapat mengalir keluar dengan bebas. Bunyi yang dihasilkan melalui tahapan praucapan tanpa hambatan adalah vokal.

#### b. Berhambat

Tahapan praucapan berhambatan adalah tahapan praucapan yang diciptakan oleh alat ucap dengan pembentukan suatu hambatan oleh alat ucap itu sendiri di dalam rongga mulut dan sekitarnya, sehingga arus udara yang mengalir dari paru-paru akan terhalang oleh hambatan tersebut, sesudah itu baru mengalir keluar. Bunyi yang dihasilkan melalui tahapan praucapan berhambatan adalah konsonan.

## **D. Pemerolehan Bahasa**

### **1. Pengertian Pemerolehan Bahasa**

- a. Pemerolehan bahasa terutama pada bahasa pertama oleh Ikou Koike (2004:3) tentang pemerolehan bahasa pertama :

子供は何らかの障害を負わない限り、5歳頃まで二は自らが生まれ育つ地域会社の共通言語を（ふいRTLン具巫出）として自然と身につける。言うまでもなく、語彙力、知識、教養といった面では大人に遠く及ばない。しかし子供は生後間もない頃とうこから、日常耳にする音声のでたらめな音の連鎖ではなく、必ず規則性を伴っていること本能的に知っている。例えば、彼らが始めて耳にするL1の発話は、あくまでも音の連鎖であって、言語学者が便宜的に名詞（N）、動詞（V）、句（P）、あるいは主語（S）や目的語（お）などと呼んで定義している構造上の単位が明治されているわけではない。しかし、子供母語のインプットをデータとして、文法性に関する直感的な判断能力を他のL1話者と共有するようになる。

Romaji :

*Kodomo wa nanraka no shougai wo owanai kagiri. 5 sai koro made ni wa mizukara ga umare sodatchiiki shakai no kyoutsuu gengo wo bogo (First language:L1) to shite shizen to mi ni tsukeru. Iu mademo naku , goi ryoku, chisiki, kyoukyou to itte mende wa otona ni touku oyobanai, shikashi kodomowa seigo-kan mona-i-goro kara, nichijyou mini suru onsei ga detaramena oto no rensade wa naku, mozu kisoku-sei wo tomonatte iru koto wo hon'on-teki ni shitte iru. Tatoeba, karera ga hajimete mimi ni suru L1 no hatsuwa wa, akumademo oto no rensadeatte, gengo gakusha ga bengi-teki ni meishi (noun:N), doushi (verb:V),-ku (phrase:P), aruiwa shugo (subject:Subj) ya mokuteki-go (object:Obj) nado to yonde teigi shite iru kouzou-jyou no tan'i ga meiji sa rete iru wakede wanai. Shiakshi, kodomo wa bogo no inputto wo deeta to shite, bunpou-sei ni kansuru chokkantekina handan nouryoku wo hoka no L1 washa to kyoyuu suru you ni naru.*

Terjemahan :

Bahasa kedua selama anak-anak tidak mengalami hambatan apapun. Pada usia sekitar 5 tahun tidak bisa mengatakan, kosakata, pengetahuan, pendidikan dan tidak jauh lebih rendah daripada orang dewasa dalam hal seperti seni liberal, antara Bahasa tetapi anak setelah lahir, suara yang terdengar sehari-hari bukanlah rantai suara yang berantakan, secara naluriah saya mengetahui bahwa itu disertai dengan keteraturan. Misalnya, ucapan pertama L1 yang mereka dengar untuk pertama kalinya adalah rangkaian suara, dan untuk ahli linguistik dengan mudah seperti kata benda (Noun), kalimat (kalimat: P), atau subjek ini tidak berarti bahwa unit struktural didenifisikan dengan menyebutnya sebagai subjek (Subj)

atau objek (Obj) tidak secara eksplisit dinyatakan. Namun, anak-anak dapat berbagai kemampuan penilaian intuitif pada karakteristik gramatikal dengan speaker L1 lainnya, menggunakan data bahasa input bahasa ibu sebagai data.

Dalam penjelasan Ikou Koike bahwa pemerolehan bahasa pada bahasa kedua anak-anak tidak mengalami kesulitan dalam mengutarakan kosakata nya karena sudah dapat ditunjang oleh pemerolehan bahasa pertama atau L1 yang menggunakan input bahasa ibu sebagai pemerolehan data pada bahasa kedua. Selain itu, Ikou Koike menambahkan penjelasan tentang pemerolehan bahasa pertama :

L1 話者は文法的な正しくない文を直感的に判断できても、なぜ正しくないのかをうまく説明できないことがある。こうした能力の基盤となる知識は抽象的で複雑なものであり、母親や他のL1 話者から教えわたったものでも、経験によってプロから蓄積されたものでもない。言い換えれば、子供は、この知識を経験や学習によって身につけるのではなく、生得的な能力によって獲得するのである。Noam Chomsky の普遍文法 (Universal Grammar: UG) 理論は、以下のような洞察に基づいて。子供の文法得能力は、生得的な言語機能 (language faculty) である言語獲得装置／機構 (Language Acquisition Device: LAD) によって可能となる。UG はその内部構造・特性、すなわち全言語対応型の普遍的かつ抽象的な文法システムなどである。脳(brain) / 心(mind) の機能の一つであえるUG の研究は、心理学、あるいは認知科学の下位分理として位値づけられる。

Romaji:

*L1 washa wa bunpou-teki ni tadashikunai bun wo chokkan-teki ni handan dekite mo, naze tadashikunai o ka wo umaku stesumei dekinai koto ga aru. Koushita nouryoku no kiban to naru chishiki wa chuushou-tekide fukuzatsuna monodeari, haha oya ya hoka no L1 washa kara osowatta monode mo, keiken ni yotte zero kara chikuseki sa reta mono de mo nai. Iikaereba, kodomo wa, kono chishiki wo keikei ya gakushuu ni yotte mi ni tsukeru node wa naku,*

*seitoku tekina nouryoku ni yotte kakutoku suru node aru. Noam chomusukii no fuhrn bunpou (Universal Grammar: UG) riron wa, ijyou no youna dousatsu ni motodzuite iru, kodomo no bupoukakutoku nouryoku wa, seitoku tekina gengo kinou (language faculty) dearu gengo kakutoku souchi/kikou (Language Acquisition Device: LAD) ni yotte kanou to naru. UG wa sono naibu kouzou, tokusei, sunawachi zen gengo taiou-gata no fuhen-teki katsu chuushoutekina bunpou shisutemuna nodearu. No (brain)/kokoro (mind) no nou hitotsu dearu UG no kenkyuu wa, shinri-gaku, aruiwa ninchi kagaku no kai bun'ya to shite ichidzuke rareru.*

Terjemahan :

Meskipun pembicara L1 dapat secara intuitif menilai kalimat yang salah secara gramatikal, ada hal-hal yang tidak bisa dijelaskan mengapa itu tidak benar. Pengetahuan yang menjadi dasar kemampuan ini abstrak dan rumit, tidak bisa juga dipelajari dari ibu atau pembicara L1 lainnya, juga tidak diakumulasikan dari nol oleh pengalaman. Dengan kata lain, anak-anak tidak memperoleh pengetahuan ini melalui pengalaman atau pembelajaran, tetapi memperoleh pengetahuan ini melalui kemampuan bawaan. Noam Chomsky tata bahasa yang universal (Universal Grammar : UG) teori adalah bahwa, “anak-anak dalam kemampuan akuisisi tata bahasa berdasarkan wawasan, seperti ini dijelaskan di atas, fitur bahasa bawaan (fakultas bahasa<sup>0</sup> di perangkat akuisisi bahasa / mekanisme (Bahasa Perangkat Akuisisi : LAD). UG adalah sistem bahasa tata bahasa abstrak universal dengan struktur internal dan karakteristik, yaitu semua jenis dukungan bahasa, ini adalah salah satu otak/pikiran (pikiran) studi UG adalah, psikologi, atau diposisikan sebagai bidang yang lebih rendah dari ilmu kognitif. Sementara itu, pengembangan L1 dan dewasa bahasa anak-anak (bahasa kedua L2).

Dalam penjelasan kedua yang telah dipaparkan oleh Ikou Koike bahwa pemerolehan L1 tidak hanya dinilai secara gramatikal saja namun kemampuan tersebut terakumulasi dari pembicara pada L1 atau pemerolehan bahasa didapat dari pengalaman dan pembelajaran.

- b. Namun diungkapkan pula bahasa kedua diungkapkan oleh Sakoda Komiko (1963:5) :

第二言語習得と第二言語学習とは異なるプロセスであるという前提に基づいて、これら二つのプロセスがしばしば区別されてきた。「習得」という用語は第二言語と接触することによって第二言語を身につける場合に使用され、「学習」という用語は第二言語を意識的に学ぶ場合に使用される。しかしながら、筆者はこの区別が正しいか否かを考慮する余地を残しておきたいので、意識的プロセス、半意識的なプロセスにかかわらず、「習得」と「学習」という用語を交互に使用する。ただし、いずれかの用語に特定の意味を持たせる場合には、その用語をゴシック体で記し、その意図を明確にした。まとめ、「第二言語習得」という用語は半意識的学習プロセスを意識的学習プロセスの両方を意味する。

Romaji :

*Dai ni gengo shuutoku to dai ni gengo gakushuu toha kotonaru purosesu de aru to iu zentei ni motozuite, korera futatsu no purosesu ga shibashiba kubetsu saretekita. [shuutoku] to iu yougo wa dai ni gengo to sesshoku suru koto ni yotte dai ni gengo wo minitsukeru baai ni shiyō sare, [gakushuu] to iu yougo wa dai ni gengo wo ishiki-teki ni manabu baai ni shiyō saresu. Shikashinagara, hissha wa kono ubetsu ga tadashii ka hi ka wo kouryo suru yochi wo nokoshite okitainode, ishiki-teki purosesu, han ishiki-tekina purosereu ni kakawarau, [shuutoku] to [gakushuu] to iu yougo wo kougo ni shiyō suru. Tadashi, izureka no yougo ni tokutei no imi wo motaseru baai ni wa, sono yougo wo goshikku karada de shirushi, sono ito wo meikaku ni shita. Matome [dai ni gengo shuutoku] to iu yougo wa han ishiki-teki gakushuu purosesu to ishiki-teki gakushuu purosesu no ryouhou wo imi suru.*

Terjemahan :

Pemerolehan bahasa kedua dan pembelajaran bahasa kedua adalah proses yang berbeda, kedua proses ini memang sudah dibedakan. Istilah [penguasaan] digunakan ketika mempelajari bahasa kedua dengan kontak dan bahasa, serta istilah [pembelajaran] digunakan ketika secara sadar belajar bahasa kedua. Namun karena penelitian saya ini ingin menentukan atau untuk mempertimbangkan apakah perbedaan ini benar atau tidak, saya menggunakan istilah [akuisisi] dan [belajar] secara bergantian, terlepas dari proses sadar atau

proses semi sadar. Namun, jika salah satu istilah memiliki makna tertentu, istilah ini ditulis dengan gaya Gothic dan bermaksud mengklarifikasi. Istilah [akuisisi] adalah proses belajar semi sadar dan belajar sadar. Proses berarti keduanya.

Selanjutnya dalam penjelasan Sakoda Komiko tentang pembelajaran bahasa kedua dibedakan menjadi dua istilah yaitu penguasaan dan pembelajaran. Dalam penjelasannya penguasaan digunakan ketika mempelajari bahasa dengan kontak secara langsung. Dan pembelajaran digunakan ketika secara sadar dalam mengungkapkan bahasa kedua.

Selain itu, Sakoda Komiko menambahkan penjelasannya :

従って、これらのプロセスにより、母国語以外の言語も自然環境あるいは教室環境で学習される。この第二言語習得は、音韻、語彙、文法、語用論的知識の発達にまで及ぶが、今までは主として、形態面・統語面にのみ限定されてきた。これらのプロセスには、可変的特性と不変的特性との二つの面がある。第二言語習得研究者は、この言語能力を説明するために、学習者がいかに第二言語を運用するかに関する実証研究に着手した。

Romaji :

*Shitagatte, korera no purosesu ni yori, haha kokugo igai no gengo mo shizen kankyou aruiwa kyoushitsu kankyou de gakushuu sareru. Kono dai ni gengo shuutoku wa, on'in, goi, bunpou, goyouronteki chishiki no hattatsu ni made oyobu ga, ima made wa shutoshite, keitei-men, tougo-men ni nomi gentei saretekita. Korera no purosesu ni wa, kahen-teki tokusei to fuhen-teki tokusei to no futatsu no men ga aru dai ni gengo shuutoku kenkyuu no mokuteki wa gakushuu-sha no gengo nouryoku wo setsumei suru koto ni aru ga, da ni gengo shuutoku kenkyuuhsa wa, kono gengo nouryoku wo setsumei suru tameni, gakushuu-sha ga ika ni dai ni gengo wo un'you suru ka ni kansuru jisshou kenkyuu ni chakushu shita, honshou no ika no sekushonde wa, dai ni gengo shuutoku kenkyuu no shuyouna kenkyuu kadai o kentou suru.*

Terjemahan :

Oleh karena itu, dengan proses-proses ini, bahasa selain bahasa ibu juga dipelajari di lingkungan alam atau lingkungan kelas. Akuisisi bahasa kedua ini meluas perkembangannya dengan pengetahuan fonologis, kosakata, tata bahasa, dan pengetahuan, tetapi sampai sekarang ini terutama aspek morfologis. Ini hanya terbatas pada aspek sintaksis . dalam proses ini, ada dua aspek karakteristik variabel dan sifat invariant. Tujuan studi akuisisi bahasa kedua adalah untuk menjelaskan kemampuan bahasa pelajar, tetapi peneliti akuisisi bahasa kedua adalah untuk menjelaskan kemampuan bahasa, kami memulai penelitian empiris tentang bagaimana pelajar menggunakan bahasa kedua.

Dalam penambahan penjelasan kedua oleh Sakoda Komiko bahwa akuisisi perkembangan bahasa didapat dari lingkungan alam atau sekitar seperti fonologis, kosakata, tata bahasa, dan pengetahuan.

## **2. Pemerolehan Bahasa pada Anak dan Ragam Bahasa Anak**

Pada bagian ini penulis akan memaparkan teori-teori dari para ahli yang berkaitan dengan pemerolehan bahasa anak-anak dan juga ragam bahasa anak-anak.

### **a. Menurut Soenjono Dardjowidjojo**

Dardjowidjojo dalam Dardjowidjojo (2016:197-198) anak memperoleh bahasa dengan melalui proses yang sama. Antar umur 6 bulan sampai 8 minggu, anak mulai mendekut (*cooing*), yakni, mereka mengeluarkan bunyi-bunyi yang menyerupai bunyi vokal dan konsonan. Bunyi-bunyi belum dapat diidentifikasi sebagai bunyi apa, tapi sudah merupakan bunyi, pada sekitar 6 bulan mulailah anak dengan celoteh (*babbling*), yakni mengeluarkan bunyi sukukata.

Pada umur sekitar 1 tahun, anak mulai mengeluarkan bunyi yang dapat diidentifikasi sebagai kata. Untuk bahasa yang kebanyakan monomorfemik (bersukukata satu) maka suku itu, atau sebagian dari suku mulai diujarkan. Untuk bahasa yang kebanyakan polimorfemik, maka suku akhirlah yang diucapkan. Itu pun belum tentu lengkap. Untuk kata ikan misalnya, anak-anak akan mengatakan /tan/. Kemudian anak akan mulai berujar dengan ujaran suku kata (*one word utterance*), lalu menjelang umur 2 tahun mulailah dengan ujaran dua kata (*two word utterance*). Akhirnya umur 4-5 tahun anak akan telah dapat berkomunikasi dengan lancar.

Untuk 18 bulan pertama, Lenneberg dalam Dardjowidjojo (2016:198-199) memberikan patokan seperti terlihat pada 6 bagan berikut dimana digambarkan keterkaitan antara perkembangan biologi manusia dengan bahasa yang diperolehnya.

### *12 Weeks*



*Baby supports head when in prone position; weight is on elbows; no grasp reflex is present. Cryng has diminished, vowel like cooing has begun and is sometimes sustained for 15 to 20 second.*

Terjemahan :

Ketika dalam posisi tengkurap bayi akan menahan berat badannya pada siku dengan reflex. Aktivitas menangis juga berkurang, lalu

bayi kadang-kadang akan mengeluarkan suara mendekut (cooing) kurang lebih 15 hingga 20 menit.

### *16 Weeks*



*Head is self-supported, and baby can shake rattle; tonic neck reflex is subsiding. Response to human sounds is more definite; eyes seem to search, for speaker. Occasional chuckling sounds are made.*

Terjemahan :

Kepala mulai digerakkan sendiri dan bayi dapat mereflex gerakan pada leher. Mulai menanggapi suara manusia, matanya dengan spontan mencari sumber suara, dan sesekali terdengar suara chuckling.

### *20 Weeks*



*Child can sit with props. Consonantal sounds are beginning to be interspersed with the vowel-like cooing. Acoustically, however, all vocalizations are very different from sounds of mature language.*

Terjemahan :

Anak mulai bisa duduk didukung dengan permainan. Suara konsonantal mulai diselengi oleh vokal seperti mendekut (cooing). Namun, secara akustik, semua vokalisasi sangat berbeda dengan bunyi asli atau bahasa alam.

### *6 Months*



*Baby bends forward and uses hands for support while sitting; reaching is unilateral. Cooing is changing into babbling with resemblance to single syllabies. Most common sounds are ma, mu, da, di.*

Terjemahan :

Bayi mulai duduk menggunakan kedua tangan sebagai kekuatan untuk duduk. Pencapaiannya adalah unilateral. Mendekut (cooing) berubah menjadi ocehan dengan kemiripan dengan satu kata . suara yang paling umum adalah ma, mu, da, di.

### *8 Month*



*Baby stands holding on and can grasp with thumb apposition. Repetitions of sounds are becoming frequent, intonation patterns distinct and utterances begin to be i to signal emphasis and emotins.*

Terjemahan :

Bayi mulai bisa menahan dan memegang ibu jari. Pengeluaran suara menjadi seringan pola intonasi berbeda, dan pengucapan menjadi lebih sering, pola Intonasi berbeda, dan ucapan berbeda dan mulai dengan memberikan signal penekanan dan sinyal .

### *10 Months*



*Cresping is efficient, and child can take side steps holding on, pull self to standing position. Vocalization are mized with sound play like gurgling or bubble-blowing, baby tries to imitate sounds, begins to respond differentially to words heards.*

Terjemahan :

Dengan tepat akan merayap, dan anak akan melakukan step bertahan. Vokalisasi adalah campuran dari celotehannya. Bayi akan mencoba untuk merespon kata –kata yang menurutnya asing.

### *12 Months*



*Child walks when held by one hand, or walks on feet and can seat self on floor. Identical sound sequences are repeated more often, and words (mma or dadda) are emerging. Definite signs of understanding appear in response to simple commands.*

Terjemahan :

Anak berjalan dengan cara dipegang satu tangan, atau berjalan dengan kaki dan tangan dengan lutut di udara, dan dapat duduk di lantai dengan suara yang identik secara berulang dan sering, dan kata (mamma atau pappa) penuh energi. Muncul dengan tanda-tanda pemahaman perintah yang sederhana.

### *18 Months*



*Grasp, prehension, and release are fully developed, golt is still stiff. Child can creep downstates backward. Word repertoire is more than three, less than 50 , understanding is progessing rapidly but two-word phrases is uncommon.*

Terjemahan :

Pegangan, pijakan, dan sepenuhnya mulai berkembang , gaya berjalan yang masih kaku. Anak dapat merayap kebelakang. Mengeluarkan lebih dari tiga kata, kurang dari 50 pemahaman yang berkembang pesat tetapi dengan spontan mengeluarkan frasa dua kata atau jarang.

Patokan minggu, bulan, dan tahun seperti yang diberikan di atas haruslah dianggap relatif karena faktor biologi pada manusia itu tidak semuanya sama. Yang penting dari patokan itu adalah bahwa urutan pemerolehan bahasa pada anak itu sama : dari dekutan, ke celotehan, ke ujaran satu kata, dan kemudian ke ujaran dua kata, dan seterusnya. Begitu juga dalam hal komprehensi dan produksi. Anak di mana pun dan dalam bahasa apa pun menguasai komprehensi lebih dulu daripada produksi.

Manusia dapat menguasai bahasa secara natif hanya kalau prosesnya dilakukan antara umur tertentu, yakni, antara umur 2 sampai sekitar 12 tahun. Di atas umur 12 orang tidak akan dapat menguasai aksen bahasa tersebut dengan sempurna. Dengan fakta-fakta seperti di paparkan di atas maka pandangan masa kini mengenai bahasa menyatakan bahwa bahasa adalah fenomena biologis, khususnya fenomena biologi perkembangan. Arah dan jadwal munculnya suatu elemen dalam bahasa adalah masalah genetik. Orang tidak dapat memepercepat atau memperlambat munculnya suatu elemen.

b. Menurut Tanaka Yoshi Sato (2014:10) :

発達経過の分類便宜上幼児の発達は：1. 無条件反射の消長、2. 視覚の発達、3. 聴覚の発達、4. 情動および社会性の発達、5. 随意運動の発達、6. 適応をよび知的行動の発達、7. 言語発達に分けた、しかしこれらは互に関係があり、発達が高度になればなるほどこの関係は緊密になって判然と分類し難くなるが、ここでは便宜上視覚に関係あるものは視覚の項に、聴覚に関係あるものは聴覚の項に入れて分類した。  
「強制」産声に初めまる新生児の泣き声は空腹時、不快時に聞かれるが、単調で変化にともし。しかし満1か月近くになると泣き超えに力が入り、高い調子の声もまじるようになった。

Romaji :

*Hattatsu keika no bunrui bengijou youji hattatsu wa : 1. Mujouken hansha no shouchou, 2. Shikaku no hatsu-tachi, 3. Akira satoru no hattatsu, 4. Joudou wo yobi shakai-sei no hattatsu, 5. Zuii undou no hattatsu, 6. Tekiou wo yobi chiteki koudou no hattatsu, 7. Gengo no hattatsu ni waketa. Shikashi kore ra katamini kankei ga ari, hatsu-tachi ga koudo ni nareba naru ho doko no kankei wa kinmitsu nina tsute hanzen to bunrui shi nan kunaruga, koko de wa begijou mo satoru ni kankei aru mono wa choukaku no kou ni ireta bunrui shita.*

Terjemahan :

Perkembangan bayi di bagi menjadi beberapa kategori, yaitu : 1. Fluktuasi bahasa yang tidak ada syarat, 2. Penglihatan yang mulai aktif, 3. Pengembangan pendengaran, 4. Pengembangan emosi dan sosialitas, 5. Perkembangan gerakana secara reflex, 6. Pengembangan adaptasi dan intelektual, 7. Pengembangan bahasa yang terhubung dengan satu sama lain., perkembangan mulai meningkat ketika lawan bicaranya menjadi lebih dekat dan lebih dekat, bayi pun mengiranya itu adalah hal yang aneh atau ambigu serta hubungan yang secara visual. Pada bagian indera pendengaran, bayi mengklasifikasikan dengan memasukkannya ke dalam alat pendengaran.

Dalam penjelasan Yoshi Sato bahwa perkembangan bayi mempunyai tujuh katagori, ketujuh katagori tersebut menjelaskan tahap pada bayi dalam memperoleh bahasa. Dan perkembangan yang meningkat didapat dari lawan bicara nya menjadi lebih dekat yang dimasukannya ke dalam alat pendengaran. Selanjutnya Yoshi Sato menambahkan pemarannya dengan menggunakan contoh, yaitu :

「喃語」きげんのいい時はアアアという。喃語や泣き声の調子変化が現われた。喃語は初期には母音が主休みで、(Irwin1)によると母音は前舌音から奥舌音の方向へと発達する。

Romaji :

*(Nango) ki gen no ii toki wa a-a- toiu. Hito no kao mite wa a-a-toiu. 喃 go ya naki koe no choushi ni hen-ka ga gen wareta. Nango wa shoki ni haha on ga shuyasumi de ni (Irwin1) yoruto wa haha on wa mae shita oto kara oku shita on no houkou heto hattatsu suru.*

Terjemahan :

(Nango), ketika saya mencoba untuk mengatakan sesuatu, saya mengeluarkan suara a-a-, lalu bayi itu berubah dan menjadi menangis. Pada periode awal, suara vokal pada bayi adalah tubuhnya menurut (Irwin1) suara yang dihasilkan oleh seorang ibu, adalah suara yang keluar dari lidah depan ke arah suara lidah belakang.

Dalam penambahan penjelasan Yoshi Sato dengan sebuah contoh, ketika menakuti nya dengan mengeluarkan suara a-a- bayi itu pun menangis. Hal tersebut terjadi karena periode awal suara vokal pada bayi dikeluarkan dari lidah depan ke arah suara lidah belakang.

c. Menurut Joseph C. Mukael adalah :

*Factors affecting the learning of L<sub>1</sub> : an analysis of the conditions which L<sub>1</sub> is picked up would reveal a variety of factors that effect the native language learning process. 1. The physical environment influences the L<sub>1</sub> learning process. The material surrounding of a child have a lot to do with what and how he picks up a language. Much more than an adult the child gets truly involved in his material surroundings, the dog, the cat, the house, and the trees around the house have a lot to do with the way the child learns his first language. 2. The social environment effects L<sub>1</sub> learning greatly. The child growing up among the parents and an orphan child make a world of difference in language learning. The mother, the family and the neighborhood are social elements most essential to the natural language growth of the child. Sociological factors are more determinant than anything else in the L<sub>1</sub> learning process. 3. Physical and economic resources affects L<sub>1</sub> learning process. The language development of a child from an economically backward family has all the reasons to be hampered in contrast to a child from a well-to-do family.*

Terjemahan :

Faktor-faktor yang mempengaruhi dalam pembelajaran bahasa pertama adalah : sebuah analisis kondisi dimana bahasa pertama mempengaruhi pembelajaran bahasa asli. 1. Lingkungan fisik mempengaruhi proses pembelajaran bahasa pertama. Lingkungan materi seorang anak berkaitan dengan apa dia mengambil bahasa sebagai bahasa pertamanya. Lebih jauh lagi, orang dewasa juga mempengaruhi lingkungan materi bahasanya. Anjing, kucing, rumah memiliki banyak kaitannya dengan cara si anak mempelajari bahasa pertamanya. 2. Lingkungan sosial mempengaruhi bahasa pertamanya, ketika sedang belajar. Anak yang tumbuh di antara anak yang mempunyai orang tua dan anak yang tidak mempunyai orang tua menjadikannya dunia sebagai pembelajaran bahasa. Anak yang ibunya pergi keluar setiap hari untuk bekerja dan anak yang selalu berada di samping ibunya, agak berbeda. Keluarga dan lingkungan adalah unsur-unsur sosial yang paling penting untuk pertumbuhan bahasa natural dari faktor-faktor sosiological yang lebih penting dari pada hal-hal lain dalam proses pembelajaran bahasa pertama. 3. Sumber daya fisik dan ekonomi dalam proses pembelajaran. Perkembangan bahasa seorang anak dari keluarga yang keterbelakangan dari faktor ekonomi memiliki beberapa alasan terlambat. Sumber daya ekonomi mempengaruhi kontak anak dengan hal-hal yang mungkin membatasi jangkauan pengalaman pada anak. Faktor ekonomi menghalangi sebagian

besar kelayakan orang tua untuk merawat perkembangan bahasa anak.

Dalam penjelasan Joseph C. Mukael bahwa, faktor-faktor yang mempengaruhi dalam pembelajaran bahasa pertama adalah lingkungan fisik, lingkungan sosial dan sumber daya fisik dan ekonomi. Dalam penjabarannya Joseph C. Mukael menjelaskan perbedaan anak yang mendapatkan perhatian yang cukup dari orang tua nya berada disampingnya dengan anak yang kurang mendapatkan perhatian dari orang tuanya. Hal itu dapat mempengaruhi tumbuh kembang dan proses pembelajaran bahasa pada anak-anak. Selain itu, Joseph C. Mukael menambahkan faktor-faktor dalam pembelajaran bahasa pertama pada anak-anak :

*4. The laerning of L<sub>1</sub> has the most powerful motivations behind it. This is a unique characteristic of the first language or language. There are compelling needs which are both internal as well as external. (a) There are several internal needs which compel the child to learn his first language as quickly and perfectly as he can. Among these internal needs thhe most compelling ones are the need for food, warmth and shelter. These are of physiological nature. There are also emotional needs to fulfi such as the needs for contant care, love and affection. These needs cannot at all be met unless the child masters some kind of liaison devices with the world outside. The first language is the most essential of such devices. (b) There are several needs and motivation which are external by nature. Social interaction, on the one fulfilment of the social urges of the child, requires mastery over a language for interaction with the members society. There is the human being for above the level of a sheer biological organism, requires the mastery of some languages for communication. The child not only makes use of the first language for functional purposes, but also more than anything else creativity enjoys himself by talking to the 'catty' and 'doggy'. This is an element that cannot be overlooked.*

Terjemahan :

4. Pembelajaran bahasa pertama memiliki motivasi paling kuat dibalikinya. Baik dalam internal dan eksternal. (a) ada beberapa kebutuhan internal yang memaksa anak untuk belajar bahasa pertamanya dengan cepat dan sempurna yang dia bisa. Di antara kebutuhan internal ini yang paling menarik adalah kebutuhan akan makanan, kehangatan, dan tempat berlindung. Ini bersifat fisiologis. Ada juga kebutuhan emosional untuk memenuhi seperti kebutuhan perawatan, cinta, dan kasih sayang. Kebutuhan-kebutuhan ini sama sekali tidak dapat dipenuhi kecuali anak itu menguasai sejenis alat penghubung dengan dunia luar. Bahasa pertama adalah yang paling esensial dari perangkat semacam itu. (b) Ada beberapa kebutuhan dan motivasi yang bersifat eksternal. Interaksi sosial, pada satu pemenuhan dorongan sosial anak, meminta kembali penguasaan bahasa untuk interaksi dengan anggota masyarakat. Ada manusia di atas tingkat organisme biologis, membutuhkan penguasaan beberapa bahasa untuk komunikasi. Anak itu tidak hanya menggunakan bahasa pertama untuk tujuan fungsional, tetapi juga lebih dari apapun kreativitas menikmati dirinya sendiri dengan berbicara dengan 'kati' dan 'anjing'. Ini adalah elemen yang tidak bisa diabaikan.

Penjelasan yang ditambahkan oleh Joseph C. Mukael bahwa, faktor keempat bahasa pertama memiliki motivasi yang paling kuat baik internal dan eksternal. Kebutuhan internal mencakup sifat fisiologis seperti makanan, kehangatan dan tempat perlindungan. Dan kebutuhan emosional seperti perawatan, cinta, dan kasih sayang. Sedangkan kebutuhan eksternal seperti interaksi sosial antara anggota keluarga.

d. Menurut Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi (2013:49) :

カテゴリ別の音素数と理解日齢および理解一発話日数と間の祖間：語をカテゴリ毎に分類した時の音素数と理解日齢および理解一発話日数と間の祖間みていく。ここでは、語彙を、一般名詞、社会語、述語、その他にカテゴリに分類する。一

波名詞は、さらに、動物、玩具、食べ物・飲み物、衣服、身体、家庭用品、家具・部屋というカテゴリに分類され、社会語はオノマトペ育児語、人々、日課挨拶、というカテゴリに分類され、述語は、動詞、形容詞というカテゴリに分類され、付属語「その他」は、代名詞、質問の言葉、前置詞と位置関係、数量に関する言葉、場所に関する語、時間に関する語というカテゴリに分類される。

Romaji :

*Kategori no betsu no onso –suu to rikai-bi youwai oyobi rikai-hatsuwa nissuu to no ma no soukan : go wo kategori-goto ni bunrui shita toki no onso-suu to rikai-bi yowai oyobi rikai ichi hatsuwa nissuu to no ma no soukan wo miteiku. Kokodewa, goi wo, ippan meishi, shakai-go, jutsugo, sonohoka ni kategori ni bunrui suru. Ippan meishi wa, sarani, doubutsu, omocha, tabemono nomimono, ifuku, karada, katei youhin, kagu heya to iu kategori ni bunrui sare, shakai-go wa ono ma to pe ikuji-go, hitobito, nikka aisatsu to iu kategori ni bunrui sare, jutsugo wa, doushi, keiyoushi to iu kategori ni bunrui sare, fuzokugo (sonohoka) wa, daimeishi, shitsumon no kotoba, zenchishi to ichi kankei, suuryou ni kansuru kotoba, basho ni kansuru go, jikan ni kansuru go to iu kategori ni bunrui sareru.*

Terjemahan :

Jumlah fonem berdasarkan kategori dan pemahaman usia : korelasi antara jumlah hari ujaran dan jumlah fonem pada saat kata dikategorikan berdasarkan tanggal pemahaman, lihatlah korelasi antara usia dan pemahaman dalam satu hari ujaran. Di sini, kosakata dibagi menjadi kata benda umum, bahasa sosial, predikat, serta katagori lainnya. Kata benda umum untuk hewan, mainan, makanan/ minuman, pakaian, tubuh, ini dikatagorikan sebagai barang-barang rumah tangga, furnitur/kategori kamar, bahasa sosial adalah onomatope. Perawatan anak, orang-orang, rutinitas harian, ucapan selamat, ini dikatagorikan sebagai katagori predikat adalah verba, deskripsi ini diklasifikasikan sebagai katagori literal, dan tambahan (yang lain), kata ganti kata-kata pertanyaan, preporsisi dan hubungan posisi, dengan kuantitas. Kata-kata yang berkaitan dengan tempat, kata-kata yang berkaitan dengan waktu dan ini diklasifikasikan sebagai katagori.

Dalam penjelasan Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi bahwa, jumlah fonem berdasarkan kategori dan pemahaman usia menjadi korelasi

antara jumlah hari ujaran dan jumlah fonem dalam pemahaman ujaran. Yang dikategorikan tersebut adalah kata benda umum, bahasa sosial, predikat dan lainnya. Selain itu, Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi menambahkan penjelasan :

ここでは、カテゴリ毎に、語の音素数と理解一発話日数と間で祖間をとり、カテゴリ毎の特徴を調べる。分析対象の語数が少なくならないよう、語の文法的な分類が明確な名詞、社会語、述語について、カテゴリ毎に音素数と語の理解一発話日数との間に相関を調べた。この結果から、カテゴリ毎に相関係数が大きく異なることが分かった。名詞では理解一発話日数に対する二つの音素数の相関係数がこさいのに対して、社会語と述語では、どちらの相関係数も大きかった。さらに、述語を構成する動詞と形容詞を個別に分析したところ、動詞は見出し語の音素数と理解一発話日数との間の愛関係数が大きく、形容詞では反対の傾向を示した。

*Romaji :*

*kokodewa, kategori-goto ni, go no onso-suu to rikai ichi hatsuwa nissuu to no ma de soukan wo tori, kategori-goto no tokuchou wo shireberu. Bunseki taishou no gosuu ga sukuna ku naranai you, go no bunpou tekina bunrui ga meikakuna meishi, shakai go, jutsugo ni tsuite, kategori-goto ni onsou-suu to go no rikai ichi hatsuwa nissuu to no ma no soukan wo shirabeta. Kono kekka kara, kategori-goto ni soukan keisuu ga dai ki ku i na ru kotoga wakatta. Meishide wa rikai ichi hatsuwa nissuu taisuru no onso-suu no soukan keisuu ga ko sainoni tai shite, shakai-go to jutsugode wa, dochira no soukan keisuu mo ookikatta. Sarani, jutsugo wo kousei suru doushi to keiyoushi wo kobetsu ni bunseki shita tokoro, doushi wa mi dashi-go no onso suu to rikai ichi hatsuwa nissuu to no ma no ai kankei kazu ga ooki ku, keiyoushide wa hantai no keikou wo 示 shita.*

Terjemahan :

Di sini katagori untuk di setiap kata, korelasi antara jumlah fonem kata dan pemahaman satu hari ujaran. Dan jika diselidiki karakteristik masing-masing katagori untuk dianalisis yaitu jumlah

kata tidak berkurang klasifikasi gramatikalnya. Untuk kata benda yang jelas, bahasa sosial, predikat, untuk setiap katagori korelasi nada antara jumlah fonem dan pemahaman kata satu hari ujaran, koefisien korelasi besar untuk setiap katagori. Dalam kata benda koefisien korelasi anantara dua nomor fonem dengan jumlah ujaran hari adalah bahasa sosial dan predikatnya. Saat kami menganalisis kata kerja dan kata sifat secara terpisah dengan kata kerja, terlihat antara hubungan fonem jumlah kata pemahaman dalam satu hari ujaran. Jumlahnya besar, dan kata sifat menunjukkan sebaliknya.

Dalam penjelasan yang ditambahkan menjelaskan tentang, kategori korelasi nada antara jumlah fonem dan pemahaman kata dari sebuah ujaran.

- e. Menurut Dr. H. Syamsu Yusuf LN., M.Pd (2004:152-153):
1. Perkembangan motorik, sangat penting bagi perkembangan aspek-aspek lainnya. Gangguan dalam perkembangan motorik dapat menghambat kemampuan penyesuaian diri sehingga mengakibatkan perasaan rendah diri. Gangguan motorik ini dapat disebabkan oleh kurang berfungsinya organ-organ fisik, tetapi juga oleh gangguan psikis, seperti gangguan emosi, karena mendapatkan bentakan-bentakan orang tua yang sangat mengejutkan anak (bayi). Beberapa gejala kemampuan perkembangan motorik pada usia bayi adalah sebagai berikut:

**Tabel.2.1**

<b>USIA (Dalam Bulan)</b>	<b>PERKEMBANGAN MOTORIK</b>
1	Gerakan reaksi (negatif = menangis, positif = senyum, dan spontan = menggerak-gerakan kaki dan tangan).
2	Memutar ke kanan dan ke kiri.
3	Menarik-narik selimut dan baju.
4	Menegakkan kepala ke arah dua belah tangan.
5	Dapat menelungkup beberapa menit
6	Mengamati mainan yang dipegang.
7	Menarik kepala ke depan.
8	Duduk beberapa menit
9	Dapat duduk sendiri.
10	Merangkak.
11	Berdiri sendiri.
12	Mulai dapat berjalan.
18	Dapat berjalan dengan baik, dan dapat menaiki kursi atau tangga.
24	Dapat naik dan turun tangga, dan berlalri.

Dalam penjelasan Syamsu Yunus bahwa, perkembangan motorik termasuk ke dalam perkembangan yang sangat penting bagi perkembangan lainnya. Hal itu pulalah yang mempengaruhi anak-anak dimasa depannya apakah menjadi pribadi yang percaya diri atau rendah diri dengan kekurangannya. Selain itu, Syamsu Yusuf menambahkan dengan teori nya:

## 2. Perkembangan Intelligensi

Sejak tahun pertama dari usia anak, fungsi intelligensi sudah mulai tampak dalam tingkah lakunya, umpamanya dalam tingkah laku motorik dan berbicara. Anak yang cerdas menunjukkan gerakan-gerakan yang lancar, serasi, dan koordinasi. Sedangkan anak yang kurang cerdas, gerakan-gerakannya kaku, dan kurang koordinasi. Anak yang cerdas cepat pula berkembang bahasanya. Perkembangan kemampuan motorik (berjalan) pada anak yang cerdas dimulai pada usia 12 bulan, anak yang sedang pada usia 15 bulan, yang moron 22 bulan, dan yang idiot 30 bulan. Dalam perkembangan bahasa (berbicara), anak yang cerdas mulai berbicara pada usia 16 bulan, moron 34 bulan, dan idiot 51 bulan. Dilihat dari perkembangan kognitif menurut Piaget dalam Yuus, usia bayi ini berada pada periode sensorimotor. Bayi mengenal objek-objek yang berada di lingkungannya melalui sistem penginderaan (seperti, penglihatan dan pendengaran) dan gerakan motoriknya (refleks, seperti mengenyot, dan menggerakkan kepala ke arah sumber rangsang). Meskipun saat dilahirkan seorang bayi sangat bergantung dan tak berdaya, tetapi sebagian alat indranya sudah bisa langsung berfungsi.

Dalam perkembangan tersebut adalah perkembangan intelegensi dimana perkembangan tersebut tampak dari usia anak 12 bulan hingga 51 bulan. Dalam perkembangan ini, orang tua dapat mendeteksi apakah sang

bayi memiliki kekurangan seperti down syndrom atau cerdas seperti bayi pada umumnya.

f. Menurut Nurdin, S.Pd., S.Sos., M.Com (2009:63-74) :

### **Kemampuan Pria dan Wanita dalam Penguasaan Bahasa**

Bahasa adalah seni dan media untuk mengekspresikan perasaan, ide dan gagasan setiap manusia. Kemampuan memperoleh bahasa terutama bahasa asing berbeda-beda pada setiap orang. Sebagian orang mampu menguasai suatu bahasa dengan cepat sementara sebagian lainnya membutuhkan waktu yang lama untuk menguasai suatu bahasa. Fenomena semacam ini terjadi pada kaum pria dan wanita, dimana para wanita dapat menguasai bahasa dengan lebih cepat dibandingkan kaum pria.

Dalam berkomunikasi, pertama kali mendapatkan informasi dan dalam menghadapi suatu permasalahan, kaum pria akan berkecenderungan untuk menggunakan logika (wilayah otak kiri lebih dominan), sedangkan wanita cenderung menggunakan perasaan (penggunaan otak kanan lebih dominan). Dalam hal ini tidak akan menjadi masalah meskipun potensi pria lebih cerdas daripada wanita.

Karena dominan aspek perasaan dan naluri ini maka pada umumnya wanita juga memiliki kemampuan bahasa dan mendeskripsikan persoalan secara lebih mendetail, sementara para pria yang cenderung mengandalkan logika akan lebih irit dalam bicara. Ternyata ini disebabkan oleh sel-sel

otak yang bertanggung jawab terhadap kemampuan bahasa pada perempuan yang tersebar dalam wilayah yang luas di otak kanan maupun otak kiri. Sehingga, pada wanita yang mengalami stroke, kebanyakan mereka tidak kehilangan kemampuan bicaranya. Sel-sel yang berkaitan dengan fungsi bicara masih berjalan dengan baik. Suatu hal yang jarang terjadi pada pria. Kebanyakan pria jika kena stroke, kemampuan bicaranya bakal menurun drastis.

Kemampuan berbahasa dan perasaan yang halus itu memberikan kemampuan kepada seorang wanita untuk bisa menjelaskan perasaannya dengan lebih mengesankan dibandingkan kebanyakan lelaki. Secara struktural otak wanita memiliki saraf penghubung antara otak kanan dan kirinya lebih tebal dibandingkan pria. Kenyataan ini juga menjelaskan bagaimana wanita jadi makhluk yang susah berhenti untuk bicara. Gambar berikut ini memperlihatkan wilayah-wilayah bicara dan bahasa pada otak pria dan otak wanita.



Dalam ilustrasi diatas memperlihatkan otak pria dan wanita dalam percakapan satu sama lain, wilayah yang gelap adalah bagian-bagian yang aktif di dalam otak. Hasil pemindaian otak ini memperlihatkan bagaimana

otak seorang wanita memiliki kemampuan yang tinggi dalam menggunakan fungsi-fungsi bicara dan bahasa. Otak seorang wanita dengan mudahnya dapat menghasilkan 6.000-8.000 kata yang dapat diucapkan dalam sehari. Bandingkan perbedaannya dengan hasil maksimal seorang pria yang sehari hanya 2.000-4.000 kata.

Kemampuan wanita yang sangat besar dalam hal berbicara ini adalah salah satu konsep yang paling sulit untuk dimengerti oleh hampir semua pria namun menjadi sebuah potensi yang sangat besar bagi pembelajaran untuk penguasaan suatu bahasa. Sedangkan kenyataan bagi kaum pria yang tidak terlalu banyak bicara bisa akan menghambat kemampuan mereka dalam penguasaan bahasa terutama bahasa oral. Dengan memiliki otak yang lemah dalam hal kemahiran berbicara dan bahasa juga memberikan penjelasan mengapa terdapat masalah-masalah tertentu dalam hal kemampuan berbicara pria melebihi jumlah wanita sekitar tiga hingga empat kali dalam hal *cedal/slip* lidah, dan sepuluh kali dalam hal *dyslexia* (kesulitan membaca dan menulis karena tak mampu membeadakan bentuk huruf yang parah).

Dengan demikian terdapat perbedaan yang mencolok antara pria dan wanita dalam hal memanfaatkan bahasa untuk berkomunikasi. Deborah Cameron dalam Nurdin(2009:69) membuat pernyataan :

1. Bahasa dan komunikasi lebih berarti bagi wanita ketimbang pria, wanita berbicara lebih banyak daripada pria.

2. Wanita lebih tampil secara verbal dibanding pria.
3. Tujuan utama pria dalam pemakaian bahasa adalah untuk sekedar menyelesaikan masalah. Sementara wanita lebih cenderung membuat hubungan dengan orang lain. Pria membicarakan banyak hal dan fakta, sementara wanita lebih banyak berbicara tentang orang-orang, perasaan dan hubungan dengan yang lain.
4. Cara pria menggunakan bahasa bersifat kompetitif, yang mencerminkan keinginan mereka dalam hal memelihara dan memperluas status, sementara pemanfaatan bahasa oleh wanita bersifat kooperatif yang mencerminkan keinginan mereka untuk persamaan dan keseimbangan.
5. Perbedaan ini mengarah pada terjadinya “miskomunikasi” antar jenis kelamin yang menyebabkan kesalahan interpretasi terhadap keinginan satu sama lain. Ini menyebabkan masalah dalam suatu konteks dimana pria dan wanita berhubungan.

#### **E. Contoh Youjigo dalam bahasa Jepang**

Ada beberapa kosakata yang menurut gramatika pemakaian yang sebenarnya kurang tepat (jarang digunakan), tetapi dalam ragam bahasa anak dibenarkan (Yulia, 2013: 117-118).

1. Contoh pada pemakaian surfixs “o” dan surfixs “san”, “chan”, “kun”.
  - a. ねこちゃん (*Neko-chan*), neko yang artinya kucing.  
Nomina + surfixs “chan”.
  - b. きりんちゃん (*Kirin-chan*), *kirin* yang artinya jerapah.  
Nomina + surfixs “chan”.
  - c. アリサーちゃん (*Arisa-chan*), nama seorang anak.  
Nomina (nama seorang anak) + surfixs “chan”.
  - d. こぐまちゃんが目をさました (*Kogumachan ga me o samamashita*), artinya beruang kecil sudah terbangun.  
Koguma (beruang kecil) nomina + surfixs “chan”.
  
2. Contoh ragam bahasa anak dari hasil reduplikasi kata.
  - a. ねんね (*Nenne*), sama dengan *neru koto* artinya tidur.
  - b. ねんねこ (*Nenneko*) atau (*yurikago no uta*) artinya nina bobo.
  
3. Contoh ragam bahasa anak pada sinonim.
  - a. まんま “*manma*” untuk たべる “*taberu*” (makan)
  - b. あによ “*anyo*” untuk あし “*ashi*” (kaki).
  
4. Contoh ragam bahasa anak dari pemakaian bentuk hormat.

- a. なんとおっしゃるうさぎさん (*Nan to ossharu usagisan*) yang memiliki arti kelinci, apa yang kau katakan : (*usagi to kame*) *no uta*. *Ossharu* adalah bentuk hormat memuliakan (*sonkeigo*) dari *iu* (berkata).
  - b. こちらでござる (*Kochira de gozaru*), artinya adalah ada di sini : (*suzune no oyado*) *no uta*. *Gozaru* adalah bentuk hormat merendahkan diri (*teineigo*) dari *aru* (ada).
5. Contoh ragam bahasa anak-anak yang termasuk adjektiva.
- a. ばっちいい (*Bacchii*), sama dengan *kitanai* (kotor).
  - b. ばばっちい (*Babachi*), juga sama dengan *kitanai* (kotor).

## F. Penelitian Relevan

Penelitian tentang ragam bahasa anak-anak dalam bahasa Jepang telah dilakukan mengenai ragam bahasa anak-anak telah dilakukan oleh Yulita Dewi Pusparanny dari Universitas Airlangga, Dharmawagsa Dalam Selatan Surabaya, dengan judul *Youjigo Dalam Komik Akachan To Boku Volume 1 Dan 2 Karya Ragawa Morimo (Sebuah Tinjauan Fonetik)*. Metode yang digunakan dalam penelitiannya menganalisis perubahan fonemik dan penyederhaaan dalam kata bahasa anak-anak. Dalam penyampaiannya ragam bahasa anak-anak, anak-anak melakukan banyak penyederhanaan, pengulangan suara, atau menggunakan onomatope untuk

mengungkapkan sebuah kata. Perbedaan dengan penelitian ini adalah membahas ragam serta variasi bahasa anak-anak dengan menggunakan teori psikolinguistik dan sosiolinguistik. Dalam penelitian ini menyampaikan, ragam bahasa anak pada usia 0 sampai 2 tahun serta pernyataan sebuah kalimat lengkap pada anak usia 2 tahun sampai 6 tahun.

Penelitian lainnya dalam bahasa Jepang telah dilakukan oleh Nova Yulia, Prodi Pendidikan bahasa jepang FBS UNP, Padang, dengan judul *Ragam Bahasa Anak-Anak Ditinjau Dari Segi Sosiolinguistik*. Metode yang digunakan dalam penelitiannya menggunakan teori Sosiolinguistik. Penelitian tersebut membahas ragam bahasa anak-anak dalam bahasa Jepang dengan teori Sosiolinguistik. Hal ini dilakukan supaya dapat memperkecil tingkatan kesalahan yang telah dibuat oleh penulis. Dalam penyampaian ragam bahasa pada anak-anak dimulai dari “tata bahasa” bahasa-ibunya , tahapan-tahapan perkembangan linguistik anak-anak dan mengupas kata dalam ragam bahasa anak di Jepang. Perbedaan dengan penelitian ini adalah membahas ragam serta variasi bahasa anak-anak dengan menggunakan teori psikolinguistik dan sosiolinguistik. Dalam penelitian ini menyampaikan, ragam bahasa anak pada usia 0 sampai 2 tahun serta pernyataan sebuah kalimat lengkap pada anak usia 2 tahun sampai 6 tahun.

## BAB III

### METODOLOGI PENELITIAN

#### A. Metodologi Penelitian

Penelitian ini dilakukan untuk memecahkan suatu masalah yang muncul dan hasil dari penelitian tersebut dapat mengembangkan ilmu yang sudah ada dan berguna untuk kedepannya. Pada bab I telah dijelaskan latar belakang penelitian ini, alasan mengapa penelitian ini dilakukan yaitu untuk memahami suatu kejadian, peristiwa, situasi atau keadaan serta untuk mencari jalan keluar dan menyelesaikan berbagai masalah yang muncul khususnya pada penggunaan dan pemahaman bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang terdapat pada *anime* Jepang *Akachan to Boku* episode 1-9 karya Marimo Ragawa.

Namun tidak semua pemecahan suatu masalah disebut dengan penelitian bila tidak dilakukan secara terencana dan sistematis. Metode yang dipakai adalah pendekatan kualitatif sebagai pendekatan penelitian. Selanjutnya, penulis menggunakan metode deskriptif analisis sebagai metode analisis data. Dalam penelitian, diperlukan metode-metode yang tepat untuk dapat mencapai apa yang menjadi tujuan dalam penelitian ini. Metode berasal dari kata *methodos*, bahasa Latin, sedangkan *methodos* itu sendiri berasal dari akar kata *meta* dan *hodos*. *Meta* berarti menuju, melalui, mengikuti, sesudah sedangkan *hodos* berarti jalan, cara, dan arah.

Dalam pengertian yang lebih luas metode dianggap sebagai cara-cara, strategi untuk memahami realitas, langkah-langkah sistematis untuk memecahkan rangkaian sebab akibat berikutnya. Sebagai alat, sama dengan teori metode berfungsi untuk menyederhanakan masalah, sehingga lebih mudah untuk dipecahkan dan dipahami. Metode sering dikacaukan penggunaannya dengan metodologi. Secara etimologis metodologi berasal dari *methodos* dan *logos*, yaitu filsafat atau ilmiah mengenai metode. Metodologi dengan demikian membahas prosedur intelektual dalam totalitas komunitas ilmiah (Ratna, 2015:34). Dalam skripsi ini, penulis menggunakan metode deskriptif analisis sebagai metode analisis data.

#### 1. Waktu dan Tempat Penelitian

Penelitian ini membutuhkan waktu kurang lebih 6 bulan, mulai dari bulan Februari sampai Juli 2018. Penelitian ini dilaksanakan dengan studi pustaka, dimana membutuhkan buku-buku yang menunjang penelitian tentang gaya bahasa, buku penunjang seperti metodologi penelitian, juga referensi judul yang relevan.

#### 2. Jenis Penelitian

Dalam penelitian ini penulis menggunakan metode penelitian deskriptif dengan pendekatan kualitatif, karena data yang dianalisis bukan angka melainkan kata-kata. Penelitian ini tidak mencari data untuk membuktikan hipotesis yang disusun sebelum mulai penelitian, melainkan untuk menyusun abstraksi. Menurut Bogdan dan Taylor

dalam Prastowo (2012:21) metode penelitian kualitatif adalah prosedur penelitian yang menghasilkan data deskriptif kualitatif berupa kata-kata tertulis atau lisan dari orang-orang dan perilaku yang diamati. Menurut keduanya, pendekatan ini diarahkan pada latar dan individu secara menyeluruh (*holistik*). Ini berarti individu tidak boleh diisolasi atau diorganisasikan ke variabel atau hipotesis, namun perlu dipandang sebagai suatu keutuhan.

Berdasarkan penjelasan diatas mengenai metode penelitian yang digunakan penulis merujuk pada penelitian deskriptif, karena penulis menganggap bahwa metode ini adalah metode yang paling sesuai untuk menganalisa objek dalam penelitian ini. Dengan menggunakan metode deskriptif penulis akan dapat menganalisa jenis gaya bahasa yang terkandung dalam bahasa anak-anak untuk mendapatkan gambaran menyeluruh dari apa yang akan dianalisis.

## **B. Prosedur Penelitian**

Penelitian adalah suatu proses pengumpulan data dari analisa dan yang dilakukan secara sistematis untuk mencapai tujuan-tujuan tertentu. Oleh karena itu, untuk mencapai tujuan dalam penelitian ini, penulis melakukan prosedur penelitian dengan langkah-langkah yang saling berkaitan satu sama lain, yaitu :

## 1. Tahap Persiapan

- a. Merumuskan dan menetapkan masalah dengan melihat latar belakang penelitian.
- b. Membatasi masalah, untuk memfokuskan pada permasalahan yang diteliti sehingga tidak menyebar luas.
- c. Merumuskan tujuan, manfaat, metode, teknik, dan objek penelitian.
- d. Menyusun proposal penelitian dan diajukan kepada pembimbing agar mendapatkan pengesahan dari dosen pembimbing.

## 2. Tahap Pelaksanaan

Setelah persiapan dilakukan tahap berikutnya yaitu, tahap pelaksanaan meliputi :

- a. Mengumpulkan referensi untuk dijadikan sumber yang sesuai dan berkaitan dengan judul penelitian, data-data tersebut diperoleh dari buku-buku Psikolinguistik, Sociolinguistik dan Fonologi. Buku-buku tersebut diperoleh dari berbagai perpustakaan diperguruan tinggi dan internet.
- b. Mengamati sumber data yaitu, berupa anime Jepang dengan mencatat dan menerjemahkan ragam *youjigo* yang terdapat di dalam anime *Akachan to Boku*.
- c. Mengelompokkan ragam *youjigo* tersebut, apakah termasuk ragam *youjigo* atau bukan.
- d. Melakukan bimbingan dengan dosen pembimbing agar setiap penelitian dalam pengawasan pembimbing.

### 3. Tahap Penyelesaian

- a. Melakukan bimbingan dan konsultasi dengan dosen pembimbing. Bimbingan dilakukan dengan cara berdiskusi dengan dosen pembimbing I dan II. Setelah diteliti dan ditelaah, kemudian konsep-konsep tersebut dinyatakan siap untuk dilaksanakan.
- b. Melakukan perbaikan atau revisi hasil penelitian yang telah diperiksa oleh pembimbing.
- c. Membuat kesimpulan dari hasil penelitian tersebut.

### C. Teknik Pengumpulan Data

Metode pengumpulan data yang digunakan dalam penelitian ini adalah metode simak yaitu memperoleh data dengan cara menyimak penggunaan bahasa. Metode tersebut digunakan karena penelitian ini dilakukan dengan menyadap bahasa yang digunakan dalam anime *Akachan to Boku*.

Metode simak kemudian diketik dengan teknik lanjutan yang berupa teknik simak bebas libat cakap dan teknik catat, yaitu menyimak tentang apa saja ragam Youjigo dengan bahasa Jepang yang sedang diteliti. Teknik catat adalah mencatat data yang telah diperoleh dari sumber data. Data yang dicatat adalah kalimat-kalimat yang didapatkan dari anime *Akachan to Boku*.

#### **D. Teknik Analisis Data**

Penelitian ini dimulai dari perumusan masalah. Permasalahan yang dirumuskan adalah mengenai ragam *youjigo* pada tokoh Minoru dalam anime *Akacahan to Boku*. Berdasarkan permasalahan ini, tujuan penelitian ini adalah untuk mengetahui ragam *youjigo* dalam bahasa Jepang yang digunakan dalam dialog yang ada.

Dari permasalahan dan tujuan itu, penulis menetapkan metode kepustakaan sebagai metode pengumpulan data, dan metode pendekatan kualitatif sebagai pendekatan penelitian. Selanjutnya, penulis menggunakan metode deskriptif analisis sebagai metode analisis data. Landasan teori yang digunakan dalam penelitian ini adalah teori pragmatik, yaitu teori *youjigo*.

#### **E. Sumber Data**

Dalam penelitian ini, penulis hanya melakukan penelitian melalui sumber data yang diambil dalam anime Jepang *Akacahan to Boku* episode 1-9 karya Marimo Ragawa.

## **BAB IV**

### **ANALISIS DAN PEMBAHASAN**

Pada bab ini, untuk mendapatkan hasil penelitian yang diharapkan, maka penulis akan menganalisis data-data yang telah diperoleh. Dalam bab ini, penulis akan memaparkan data-data tentang analisis ragam youjigo dalam bahasa Jepang yang terdapat dalam *Anime Akachan To Boku* karya Ragawa Morimo. Penulis memaparkan analisis – analisis tentang ragam youjigo yang terdapat dalam *Anime Akachan To Boku* yang ditelaah menggunakan teori Kajian Ragam Youjigo oleh Ikou Koike, Sakoda Komiko, Dardjowidjojo, Tanaka Yoshi Sato, Joseph C. Mukael, Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi, serta Syamsu Yusuf.

#### **A. Paparan Data**

Pada bab ini disajikan data bahasa anak-anak (*youjigo*) diucapkan oleh tokoh Minoru yang terdapat dalam *anime Akachan To Boku* karya Morimo Ragawa. Data yang peneliti analisis berupa adegan beserta dialog dari anime tersebut. Tanpa mengurangi esensi cerita secara keseluruhan, peneliti hanya akan mengidentifikasi adegan dari episode 1 hingga episode 9 yang berkaitan dengan rumusan masalah yang diteliti.

Dari keseluruhan episode tersebut, terdapat 33 data yang peneliti temukan. Karena data yang ditemukan banyak, tidak dimasukkannya

seluruh adegan dan dialog dalam anime tersebut, semata-mata agar analisis yang dilakukan sesuai dengan fokus penelitian. Data diurutkan berdasarkan episode dari anime tersebut. Kemudian dikategorikan berdasarkan bentuk penggunaannya.

**Tabel 4.1**

No.	Episode	Ragam Youjigo	Padanan Bahasa	Menit
1.	Episode 1	いいちゃん。	兄ちゃん。	20:55 – 20:59
	Episode 2	あい。	はい。	02:59 – 03:22
	Epidode 2	ていねい。	先生。	05:54 – 06:04
	Episode 3	ジュジュ。	ジュス。	08:59 – 09:09
	Episode 5	パンパイ。	カンパイ。	22:16 – 22:30
	Episode 6	うみ うみ。	うみ、うみ。	03:13 – 03:30
	Episode 6	ちゃまご。	卵。	10:35 – 11:06
	Episode 6	アイス。	アイス。	21:39 – 22:20
	Episode 7	ページマー。	アイス。	07:53 – 08:09
	Episode 7	いい子。	ピナッツ豆。	17:20 – 18:30
Episode 8	ポンポン。	いい子。	06:05 – 06:23	
2.	Episode 2	こう。	こう。	15:29 – 15:33
	Episode 5	できちゃ。	できた。	15:04 – 16:35
	Epidode 6	あげゆ。	あげる。	09:51 – 10:24
	Episode 6	あいちゃも。	預かる。	09:51 – 10:24
	Episode 9	きちゃ。	来た。	02:21 – 02:24
3.	Episode 3	いちゃい。	痛い。	10:39 – 11:48
	Episode 2	おいしい。	おいしい。	13:38 – 13:41

	Episode 5 Episode 8	きやい。 怖い。	嫌い。 怖い。	15:04 – 16:35 02:52 – 03:11
3.	Episode 3 Episode 2 Episode 5 Episode 8	いちやい。 おいしい。 きやい。 怖い。	痛い。 おいしい。 嫌い。 怖い。	10:39 – 11:48 13:38 – 13:41 15:04 – 16:35 02:52 – 03:11
4.	Episode 1  Episode 3  Episode 3  Episode 3	ミヤニヤ、ミヤニ ヤ。 Tuttu. Tatta. Tuttu.Tatta.. Da. Ao Bu. Au Ao.Aw ワンワンワンワ ン。	ミヤニヤ、ミヤ ニヤ。 Tuttu. Tatta. Tuttu.Tatta.. Da. Ao Bu. Au Ao.Aw ワンワンワンワ ン。	12:39 – 12:56  02:18 – 02:56  10:31 – 10:38 15:53 – 16:22
5.	Episode 2 Episode 3 Episode 4 Episode 4	いっちやあまー。 こっちや。 おめちやい。 あゆじゃまー。	いって来ます。 こんいちほ。 ごめんなさい。 おはようござい ます。	04:29 – 04:30 06:41 – 06:57 06:17 – 06:45 08:17 – 08:31
6.	Episode 6 Episode 6	はっく。 こいこえ。	早く。 こちら。	03:13 – 03:30 07:31 – 08:00

Tabel 4.2

No.	Episode	Bentuk Bahasa pada Anak	Ragam Youjigo	Menit
1.	Episode 5	Pembentukan Bahasa pada anak	僕、ふじまさきです。いつもお兄がおせ わになります。	02:05 – 02:39

Tabel 4.3

No.	Episode	Perbandingan Kalimat	Ragam Youjigo	Menit
1.	Episode 5	Perbandingan dengan Bahasa Anak Perempuan	みのるくんお兄ちゃんは？どうも始めまして、いちかと申します。大学カメです。あたしはみのるちゃんの結婚したいになるです。だから、お兄ちゃんのまかせてくださいね。	05:24 – 01:13
2.	Episode 5		ひどいなんことするなよ。昨日	07:28 – 08:23

3.	Episode 5		<p>あなたのライベル決めてびぜかったよね。あなたにみのるちゃんはいきつくつないわ。</p> <p>みのるちゃん、きれいに書いてね。あたし絶対みのるちゃん絵の際のとおもう。将来トピク書きたになるちがいがないわね。</p>	15:04 – 16:35
----	-----------	--	--	---------------

Tabel 4.4

No.	Episode	Jenis Perkembangan	Objek	Menit
1.	Episode 3	Perkembangan Motorik		05:15 – 047
2.	Episode 5			15:04 – 16:31

Tabel 4.5

NO.	Episode	Ragam	Padanan	Menit
	Jenis Kalimat	Youjigo	Bahasa Jepang	
1.	Episode 4	みに行く。	みに行く。	17:32-17:14
2.	Episode 8	おまち行き ちやい。	お祭り行きた い。	02:36-10:55

## 1. Penjelasan Mengenai Anime Akachan to Boku

### a. Sinopsis Cerita Akachan to Boku



#### Anime Akachan to Boku (Baby and Me)

Anime series dengan judul *Akachan to Boku* menceritakan tentang Takuya Enoki yang kehilangan ibunya, Yukako, karena dia meninggal dalam kecelakaan mobil. Takuya sekarang tinggal bersama ayahnya, Harumi, dan adik laki-lakinya, Minoru. Saudara laki-laki Takuya berusia dua tahun dan membutuhkan banyak perawatan. Meskipun begitu Takuya hanya murid kelas lima, dia

harus memasak, membersihkan rumah, pakaian, menjahit, teguran, dan melakukan segala hal yang biasanya adalah pekerjaan seorang ibu. Diantaranya pekerjaan rumah tangganya dan menjaga adik bayinya, Takuya mulai merasakan kesenjangan tak berdaya antara teman-temannya yang bersenang-senang setiap hari sepulang sekolah. Keluarga Kimura menyalahkan dia karena Minoru terus menangis. Stresnya berangsur-angsur, menumpuk dan meledak pada suatu titik. Karena kesalahan yang telah dibuat Minoru, Takuya bereaksi keras. Dia tidak bisa tidak merasa kesal atas Minoru, yang menekankannya dan menghabiskan seluruh waktunya.

Suatu hari, ketika Takuya mengambil Minoru dari pulang sekolah, dia mulai berjalan lebih cepat membayangkan seperti apa rasanya meninggalkan adik lelakinya di belakangnya. Tapi segera, Takuya menyadari apa yang telah dia lakukan dan berlari kembali. Dia menemukan Minoru dengan mata penuh air mata dan anjing brutal menghalangi jalan Minoru. Takuya berlari dengan kecepatan penuh dan menyelamatkan adik laki-lakinya. Setelah pulang ke rumah dan melihat Minoru menangis, Takuya menyadari bahwa Minoru menangis karena dia hanya kesepian dan menjadi malu pada dirinya sendiri. Sejak saat itu, Takuya belajar untuk mencintai adik laki-lakinya sebagai keluarga dan kisah hidupnya yang panjang menjadi seorang ibu dan saudara laki-laki sekaligus dimulai.

Ketika menonton anime ini akan membuat tertawa siapa saja yang menontonnya karena melihat tingkah laku Minoru yang menggemaskan. Dan dalam anime ini pula penonton akan diajak untuk berfikir dan merenungi untuk mengambil pelajaran dari setiap kisahnya.

b. Tokoh Dalam Anime Akachan to Boku



Takuya Enoki ( 榎木 拓也 *Enoki Takuya* )

Disuarakan oleh: Kappei Yamaguchi

Kakak laki-laki tertua. 12 tahun. Telah mengambil beban mengasuh adik lelakinya, Minoru. Karena sikapnya yang lembut dan tenang, penampilan yang baik dan nilai yang baik, ia populer di kalangan gadis-gadis di sekolah. Kemungkinan besar akan marah ketika seseorang menyakiti atau menakut-nakuti Minoru. Dia baik hati, peduli, pekerja keras, bertanggung jawab, dan sensitif, meski tidak menyadari perasaan gadis-gadis itu terhadapnya. Ia juga bagus dalam lari jarak pendek. Namun, dia benar-benar buruk dalam jangka panjang dan kerajinan tangan. Di hari Valentine, dia menerima 9

kotak coklat. Dalam jangka panjang, ia muncul di posisi ketiga berkat usahanya yang ekstrem.



Minoru Enoki ( 榎木 実 *Enoki Minoru* )

Disuarakan oleh: Chika Sakamoto

Bayi keluarga. Sangat imut. Dicintai dan dilindungi oleh kakaknya, Takuya. Suka memakai topi beruang. Karakter favoritnya adalah Zap, pahlawan super dari iklan deterjen. Pahlawannya dalam hidup adalah Takuya. Minoru dari kelas yang sama dengan Hiro. Baik Hiro dan Ichika mencintainya.



Harumi Enoki ( 榎木 春美 *Enoki Harumi* )

Disuarakan oleh: Mitsuru Miyamoto

Ayah dari Takuya dan Minoru. Dia bekerja keras untuk memberi makan keluarganya. Dia adalah seorang insinyur sistem. Dia sangat

tampan dan populer di perusahaannya. Dia sangat peduli untuk kedua putranya.



Yukako Enoki (榎木由加子 *Enoki Yukako*)

Disuarakan oleh: Misa Watanabe

Almarhum ibu dari Takuya dan Minoru. Menikahi Harumi dengan keinginan keluarganya, dan melarikan diri dari keluarganya dengan melakukan itu. Dia pertama kali bertemu suaminya ketika dia bekerja paruh waktu di bento shop. Orang tuanya meninggal karena kecelakaan sejak dia berusia 10 tahun.



Tadashi Gotō (後藤正 *Gotō Tadashi*)

Disuarakan oleh: Yoshiko Kamei

Teman sekelas Takuya. Nicknamed Gon. Adalah kakak laki-laki di keluarganya, dengan Hiroko (Hiro), adik perempuannya. Adalah

kebalikan dari Takuya dalam banyak hal, terutama perhatiannya terhadap Hiro dan penampilannya. Serakah dan malas. Keluarganya membuka toko kelontong, dan dia sering bekerja di sana. Meskipun menyukai Gon suka Takuya, dia masih suka Takuya sebagai teman. Dia sering mengira dia tampan. Dia suka tarian konyol.



Hiroko "Hiro" Gotoh ( 後藤 浩子 *Gotō Hiroko* , ヒロ *Hiro* )

Disuarakan oleh: Yumi Kuroda

Adik perempuan Tadashi. Memiliki wajah yang persis sama dengan kakaknya. Kelas yang sama dengan Minoru. Dia naksir Minoru setelah dia menyelamatkannya dari anjing.

Dia sering berkelahi dengan rival cinta, Ichika. Awalnya dianggap anak laki-laki. Dia melihat Minoru berani dan tampan. Berfungsi kasar.



Akihiro Fujii ( 藤井 昭 広 *Fujii Akihiro* )

Disuarakan oleh: Hiro Yuuki

Teman sekelas Takuya. Adalah saudara keempat dalam keluarganya dari dua kakak perempuan, kakak laki-laki, seorang adik perempuan, dan adik laki-laki. Kompetitif. Dia dianggap "keren" di kelas, terutama karena sulit untuk mengetahui apa yang sedang dipikirkannya. Miskin karena dia harus berbagi segalanya dengan saudara-saudaranya yang lain. Sering terjebak mengurus adik-adiknya. Dia tampan dan cerdas. Dia juga pandai olahraga dan populer di sekolah. Di Hari Valentine, ia menerima 7 kotak cokelat. Dia memenangkan hadiah pertama untuk kompetisi jangka panjang.



Ichika Fujii ( 藤井 一 加 *Fujii Ichika* )

Disuarakan oleh: Mika Kanai

Adik perempuan Akihiro yang lebih muda. Kelas berbeda dari Minoru. Dia naksir Minoru dan sering bertengkar (verbal dan fisik) dengan rival cinta, Hiro. Dia sangat cerdas dan melihat Minoru sebagai imut. Sharp berlidah tajam.



Masaki "Ma-Bo" Fujii ( 藤井 正 樹 *Fujii Masaki* , マー坊 *Mā-bō* )

Disuarakan oleh: Kazumi Okushima

Putra termuda, anak keenam, dan anak bungsu di keluarga Fujii.

Meskipun lebih muda dari Minoru, kosa katanya lebih baik daripada Minoru. Juga sangat cerdas.

Karena kepribadiannya yang lembut, ia sering dikendalikan oleh Ichika.



Kimuras

Tinggal di seberang jalan dari Enoki. Meskipun keduanya sudah tua, mereka sangat bersemangat. Anak mereka baru saja pulang.

## 2. Biografi Pengarang



Nama : Marimo Ragawa

Tanggal Lahir : Hachinohe, Aomori, 21 September

Pendudukan : Artis Manga

Dikenal Sebagai : Marimo Ragawa pertama kali mulai mengirimkan manga ke majalah komik ketika ia baru berusia 12 tahun, yaitu ketika ia duduk di kelas 6 sekolah dasar. Dia terus mengirim manga ke majalah yang sama selama empat tahun, tetapi penerimaan kritis yang positif belum datang. Ragawa kemudian memutuskan untuk beralih ke majalah yang berbeda. Anehnya, pengajuan pertamanya ke majalah ini, *Hana to Yume*, memenangkan hadiah yang disebut Hadiah Utama (トップ賞). Dua tahun kemudian, dia berhasil mencapai debutnya dengan manga pertamanya, *Batas Waktu*. Marimo Ragawa terus menggambar manga lain seperti *Aka-chan ke Boku (Baby and Me)*, *New York New York*, dan *Itsudemo Otenki Kibun*. Dia menerima Shogakukan

Manga Award 1995 untuk shoujo untuk *Baby and Me* . Dia terus menggambar manga bertema tenis, *Shanimuni-Go* di *Hana ke Yume* (Bunga dan Mimpi).

## B. Analisis Data

Objek penelitian yang digunakan dalam penelitian ini adalah *anime*. Oleh karena itu, data yang penulis analisis berupa adegan beserta dialog dari *anime* tersebut. Tanpa mengurangi esensi cerita secara keseluruhan, penulis hanya akan mengidentifikasi adegan dan dialog dari 9 episode yang berkaitan dengan rumusan masalah yang diteliti. Tidak dimasukkannya seluruh adegan dan dialog dalam *anime* tersebut, semata – mata agar analisis yang dilakukan sesuai dengan fokus penelitian.

Episode 1

### Data 1

(12:39 - 12:56)

女の子 : ああ。。ママ、ミヤニヤ いね。

*Onna no ko* : Ah... Mama, myanya ine.

Anak Perempuan : Ah... Mama, ada kucing.

ママ : あら。。本当ね。

*Mama* : Ara.. hountone.

Mama : Benarkah ?

女の子 : ミヤニヤ、ミヤニヤ。。すき。。すき。。。

ミヤニヤ、ミヤニヤ、オイエ。。

ミヤニヤ、ミヤニヤ。。おち、いちゃだめ!

*Onna no ko* : *Myanya, myanya... suki.. suki..*

*Myanya, myanya, oye..*

*Myanya, myanya.. ochi, icha dame !*

Anak Perempuan : Meong, meong.. suka.. suka..

Meong, meong, Hore..

Meong, meong.. Kesini, Jangan Pergi !

Analisis :

Dalam data 1 terlihat percakapan yang dilakukan oleh seorang anak perempuan bersama ibunya. Percakapan tersebut dilihat oleh Takuya kakak dari Minoru. Takuya merasa sangat aneh karena anak perempuan itu seumuran dengan Minoru. Namun Minoru belum bisa sama sekali mengucapkan sebuah kalimat satupun hanya bisa mengungkapkan sesuatu yang dirasakan. Pada kalimat diatas anak perempuan tersebut menggunakan *youjigo* yang tidak sesuai gramatikal yaitu ミヤニヤ、ミヤニヤ。。すき。。すき。。。 ミヤニヤ、ミヤニヤ、オイエ。 ミヤニヤ、ミヤニヤ。。おち、いちゃだめ! (*Myanya, myanya... suki.. suki.. Myanya, myanya, oye..Myanya, myanya.. ochi, icha dame !*) “Kucing, kucing.. suka.. suka..Kucing, kucing, Hore..Kucing, kucing.. Kesini, Jangan Pergi !”

Dalam kalimat tersebut ミヤニヤ、ミヤニヤ yang berarti adalah kucing. Pola penggunaan sesuai dengan teori dari Dardjowidjojo, teori tersebut didukung oleh teori Syamsu Yusuf dan Joseph C. Mukael. Selanjutnya kalimat tersebut di inteprestasikan oleh dengan teori dari DR. Dr. Rini Sekartini SpA K. Anak perempuan tersebut mempunyai kemampuan bicara di atas Minoru yang sama dengan usianya, ini membuktikan bahwa anak perempuan lebih unggul dalam hal verbal di atas anak laki-laki.

## Data 2

(20:55 - 20:59)

たくや : ああ。。。助かった。

*Takuya* : *Ah.. Tasukatta.*

Takuya : Ah.. Terselamatkan.

みのる : ちゃ、ちゃ。。いいちゃ。。

*Minoru* : *Cha, Cha.. Iicha..*

Minoru : Ka, Ka.. Kakak..

Analisis :

Ketika Minoru dan Takuya ingin pergi ke swalayan. Tepat berada ditengah jalan. Takuya berniat untuk melarikan diri dari Minoru karena sudah tidak kuat menanggung semua bebannya dan meninggalkan Minoru ditengah jalan. Tidak tersadar, Takuya tiba-tiba sudah jalan jauh meninggalkan Minoru. Pada saat itu, Takuya teringat kenangan bersama

dengan Minoru, sehingga dia tersadar apa yang dilakukannya adalah tidak benar. Lalu Takuya kembali mengejar Minoru yang tadi ditinggalkan ditengah jalan, sesampainya disana Takuya terkejut karena Minoru sedang berhadapan dengan anjing bernama Francoise. Lalu dengan sigap Takuya berlari dan mengambil Minoru. Mereka berdua berlari dengan sangat kencang karena dikejar oleh anjing Francoise. Akhirnya Takuya berhasil masuk ke rumahnya sehingga anjing tersebut tidak bisa masuk. Takuya mengucapkan 助かった (tasukatta) sambil memeluk erat Minoru. Dan Minoru sambil menangis untuk pertama kalinya memanggil kakak nya, ちゃ、ちゃ。。いいちゃ (cha, cha.. iicha).

Dalam data 2 terlihat percakapan Takuya dan Minoru yang sangat dramatis. Dalam penggunaan kalimat tersebut sesuai dengan teori Ikou Koike, dan Dardjowidjojo. Selanjutnya kalimat tersebut penulis interpretasikan dengan teori dari Syamsu Yusuf. Pernyataan Minoru dalam kalimat tersebut menyatakan bahwa Minoru sangat ketakutan dan meminta perlindungan dari kakanya yaitu Takuya. Kalimat ini yang menyatakan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang ini sesuai dengan teori Ikou Koike, dan Dardjowidjojo.

## Episode 2

**Data 3**

(02:59-03:22)

Acara Televisi : じゃ、それじゃ。。くらをもちさんひと始めるよ。

*Acara Televisi : Jya, sore jya.. kura wo mochi san hito hajimeruyo.*

みのろ : あい。

*Minoru : Ai..*

Minoru : Baik..

Acara Televisi : およげ。。およげ。。くらをもち。。なみゆられてきたみなみ、ゆらゆら。

*Acara Televisi : Oyoge.. Oyoge.. kura wo mochi.. nami yuraretekita minami, yura yura.*

## Analisis :

Pagi hari ketika Takuya sedang melihat foto bersama mamanya yang sudah meninggal. Tidak lama kemudian di ruang televisi Minoru sedang menonton acara kesukaannya setiap pagi yaitu senam pagi dengan musiknya yang menarik untuk anak-anak. Minoru mengucapkan kalimat あい (ai) yang berarti はい (hai).

Dalam data 3 terlihat bahwa pada anak yang berusia dua tahun di TK nol kecil sudah mulai mampu mengerti apa yang didengar dan apa yang dilakukan, dan apa yang dilihat. Dalam kemampuan tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini

penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Kemampuan Minoru dalam kalimat tersebut menyatakan bahwa Minoru sangat mengerti bahasa verbal yang digunakan oleh pemandu senam pagi pada acara televisi tersebut. Karena pengucapannya yang belum sempurna dalam kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

#### **Data 4**

(04:29-04:30)

たくや : いってきます。

*Takuya* : *Ittekimasu.*

Takuya : Kami berangkat.

みのる : いっちゃんあまー。

*Minoru* : *Icchaamaa.*

Minoru : Kami berangkat.

Analisis :

Minoru dan Takuya ingin berangkat ke sekolah dan mengatakan いってきます (ittekimasu) dan diikuti oleh Minoru dengan mengatakan いっちゃんあまー (iccheamaa) yang berarti いってきます(ittekimasu).

Dalam data 4 terlihat bahwa Minoru juga mempunyai kemampuan menyatakan ujaran dalam bahasa Jepang dengan pengucapan yang belum

jelas dan tidak sesuai gramatikal. Dalam kemampuan menggunakan ujaran tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Lingkungan Minoru berkaitan dengan apa yang dia ambil ujaran pada bahasa sebagai bahasa pertamanya. Lebih jauh lagi, orang dewasa atau Takuya kakak dari Minoru mempengaruhi lingkungan materi bahasanya. Ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

#### **Data 5**

(05:54 – 06:04)

みのる : ていねい。。ていねい。。ていねい。。

Minoru : *Teinei.. Teinei.. Teinei..*

Minoru : *Sensei.. Sensei.. Sensei..*

えんちょう先生 : あつ。。ここにもし学校でいったな。

はい。。

*Enchou Sensei* : *A.. koko ni moshi gakkou de ittana.*

*Hai. .*

Kepala Sekolah : Ekh.. Ada seorang lagi disini.

Baik.

Analisis :

Seperti biasa setiap pagi Takuya mengantar Minoru ke sekolah. Sampai didepan sekolah, Minoru melihat banyak orang tua murid yang

mengantar anak-anak nya ke sekolah terutama orang tua wali yaitu mamah. Disini Minoru terlihat sedih karena dia setiap hari hanya diantar oleh kakaknya saja dan terkadang Harumi Enoki adalah papahnya, namun karena Harumi Enoki nya sibuk jadi setiap pagi hanya Takuya yang mengantarnya pergi ke sekolah. Pada saat itu, Minoru memberhentikan langkahnya sambil melihat teman-temannya yang diantar oleh mamahnya dengan tatapan yang begitu sedih.

Tidak lama kemudian, munculah kepala sekolah yang biasa di panggil えんちょう先生 (Enchou sensei) oleh anak-anak, kepala sekolah dengan menggunakan kostum badut dan membawa sekantong permen, lalu memanggil anak-anak supaya berkumpul dan mengalihkan perhatian dari anak-anak yang susah ditinggal oleh orang tua nya di sekolah termasuk mengalihkan perhatian Minoru yang sedang sedih. Ketika kepala sekolah memanggil anak-anak dengan menunjukkan permen, Minoru dengan cepat berlari supaya mendapatkan permennya juga. Minoru memanggil sensei dengan kalimat ていねい, ていねい, ていねい (*teinei, teinei, teinei*) yang berarti sensei.

Dalam data 5 terlihat bahwa Minoru mampu juga mengucapkan kata benda atau meishi walaupun pengucapannya belum sempurna dan belum jelas, namun ini membuktikan bahwa anak usia dua tahun pada tokoh Minoru juga mampu mengucapkan variasi kata benda atau meishi yang lain. Dalam kemampuan mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini

penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dalam mengucapkan kalimat tersebut menandakan bahwa Minoru mampu memanggil seseorang selain kakak. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

### Data 6

(13:38 – 13:41)

たくや : ピクニク ?

*Takuya : Pikuniku ?*

Takuya : piknik?

パパ : そうだ。ピクニクだ。驚いただろう。。きのうふとうも行ったんだけど、天気が分からなかったからいわずにおいたんだ。いやでもこんなにはらった日曜日刺しぶりじゃないか。

Papah : *Souda. Pikuniku da. Odoroitadarou.. Kinou futou mo ittandakedo, Tenki ga wakaranakattakara iwazuni oitanda. Iya demo konna ni haratta nichiyoubi sashiburijyanaika ?*

Papah : Ya. Piknik. Kaget ya. Aku sudah merencanakannya dari kemarin, tapi aku tidak tahu keadaan cucaca esok hari, jadi aku mengatakannya

dulu padamu. Tapi lihatlah diluar sana ! hari Minggu yang cerah.

みのる : おいしい、おいしい。

Minoru : *Oshii, Oshii..*

Minoru : Enak, Enak..

Analisis :

Melihat Takuya dan Minoru kesepian, papah Minoru dan Takuya mengajak mereka pergi piknik. Saat pagi hari di hari Minggu, Takuya dan Minoru bangun tidur melihat dimeja perlengkapan piknik telah disiapkan . Takuya terkejut melihat nya, karena Minoru melihat perlengkapan dan makanan yang sangat banyak yang sudah tersedia, Minoru berkata *おいしい、おいしい* (oshii, oshii) yang sama dengan *おいしい* (oishii) yang mengandung arti enak atau lezat.

Dalam data 6 terlihat bahwa Minoru mengucapkan sebuah kata sifat *い*, yaitu *おいしい* (oishii) namun dalam pengucapan Minoru huruf *い* pada kata *おいしい*(oishii) dilesapkan menjadi *おしい*(oshii). Dalam hal tersebut kata *おしい*(oshii) tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dalam pengucapannya, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru itu diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur pengucapannya yang belum sempurna. Dalam mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dalam kalimat tersebut

Minoru mampu mengucapkan kata sifat いゝ. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

### **Data 7**

(15:29 – 15:33)

おたにさん : たくやくん行こう !

*Otani san* : *Takuya kun ikou !*

Papahnya : Takuya ayo pergi !

みのる : こう !!

*Minoru* : *Kou !!*

Minoru : Ayo !

Analisis :

Takuya, Minoru dan papah nya pergi piknik bersama. Ketika sampai di stasiun, ternyata papah mereka mengajak teman sekantornya, yaitu Otani san. Otani san adalah seorang programmer terbaik di kantornya. Karena Takuya tidak mau mempunyai mamah baru dan dia tidak ingin ada orang lain lagi yang tinggal dirumahnya selain itu, karena dia sangat menyayangi mamahnya. Takuya menganggap bahwa papahnya ingin mempunyai mamah baru, dia hanya diam saja melihat Otani san berbaur dengan Minoru dan bercanda dengan ayahnya. Tidak lama kemudian, Otani san memanggil たくやくん行こう ! (Takuya kun ikou) dan diikuti oleh Minoru こう (kou).

Dalam data 7 terlihat Minoru mulai mengucapkan kata kerja atau doushi, yaitu こう (kou) namun dalam pengucapan Minoru huruf い pada kata ico (ikou) dilesapkan menjadi こう (kou). Dalam hal tersebut kata こう (kou) tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dan mampu mengucapkan sebuah kata dengan benar, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur kalimatnya yang belum sempurna. Dalam mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yunus. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dalam kalimat tersebut Minoru mampu mengucapkan kata kerja. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

### Episode 3

#### **Data 8**

(02:18 – 02:25)

たくや : みる、ちょっと待って。分かったから。

*Takuya* : *Minoru, chotto matte. Wakatakara.*

Takuya : Minoru, tunggu sebentar. Aku mendengarmu.

みる : Tuttu.. Tatta.. Tuttu.. Tatta.. (もっとほし)。

*Minoru* : *Tuttu.. Tatta.. Tuttu.. Tatta.. (Motto hoshi).*

Minoru : Tuttu.. Tatta.. Tuttu.. Tatta.. (Tambah lagi).

Analisis :

Seperti biasa Takuya, Minoru dan papahnya sarapan bersama. Mereka bertiga sangat lahap menikmati hidangannya. Ketika sedang makan bersama, tiba-tiba Minoru berkata Tuttu.. Tatta.. Tuttu.. Tatta.. sambil memegang cawan kecil ditangannya dan menggetuk-ngetukkan sendok di cawannya mengarah ke Takuya. Namun, Takuya sudah mengerti seakan itu adalah tanda untuknya bahwa Minoru meminta sesuatu. Benar, ternyata Minoru meminta nambah sarapannya lagi ke pada Takuya. Sedangkan papah mereka hanya menatap sambil menikmati hidangannya.

Dalam data 8 terlihat bahwa kegiatan yang dilakukan oleh Minoru adalah sebuah tindakan yang tidak mempunyai kata namun mengandung arti atau kata yang menirukan bunyi-bunyi dari sumber yang digambarkannya. Dalam hal ini disebut onomatope. Minoru berkata Tuttu.. Tatta.. Tuttu.. Tatta.. dengan maksud untuk memberi tanda bahwa dia menginginkannya lagi, karena Minoru belum mampu mengucapkan kata 'Mau lagi', sehingga dia melakukan kegiatan tersebut. Dalam hal ini, tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dan mampu mengucapkan sebuah kata dengan benar, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur kalimatnya yang belum sempurna. Dalam mengungkapkan maksudnya tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori menurut Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi. Dalam tindakan tersebut Minoru

belum mampu mengucapkan sebuah kalimat yang lebih panjang, hanya mampu mengucapkan ujaran yang dilihat dan menggunakan tanda atau bunyi-bunyi supaya dapat dimengerti. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

### Data 9

( 05:15 – 05:47)



たくや : これはいたい？

*Takuya* : *Kore wa itai ?*

Takuya : Apa ini ?

まゆみ先生 : 分からない？

*Mayumi Sensei* : *Wakaranai ?*

Guru Mayumi : Kamu tidak bisa menebaknya ?

たくや : クラゲとよおかいとか。。

*Takuya* : *Kurage to youkai toka..*

- Takuya : Ini ubur-ubur atau sesuatu..
- まゆみ先生 : いやだ。みのるくんがかえたたくやくんよ。
- Mayumi Sensei* : *Iyada. Minoru kun ga kaeta Takuya kun yo.*
- Guru Mayumi : Bukan. Ini gambar dirimu yang digambar oleh Minoru.
- たくや : え。。僕？
- Takuya* : *He... Boku ?*
- Takuya : Apa.. Ini aku ?
- まゆみ先生 : 一番好きな人書くようにきいていったの。  
ね。。
- Mayumi Sensei* : *Ichiban suki na hito kaku youni kiiteitta none.*
- Guru Mayumi : Aku bilang kepada mereka untuk menggambar orang yang mereka sukai.
- たくや : へ。。。何をてれっているんだなにを。。
- Takuya* : *He.. Nani wo terette irunda nani wo..*
- Takuya : Apa. Sungguh memalukan.
- みのる : いいちゃん。。
- Minoru* : *Iichan..*
- Minoru : Kakak. (sambil menundukkan kepalanya, supaya dipuji)
- たくや : はい、いこいこ。
- Takuya* : *Hai, iko iko.*

Takuya : Baik, anak pintar. (sambil mengelus kepala Minoru)

Analisis :

Takuya menjemput Minoru setelah pulang sekolah. Sesampainya disekolah Minoru, Mayumi sensei memberikan sebuah gambar ke Takuya. Lalu Takuya disuruh menebak gambar apa yang ada ditangannya. Takuya mengira bahwa gambar tersebut adalah ubur-ubur. Mayumi sensei, memberikan penjelasan bahwa gambar tersebut adalah gambar Takuya yang digambar oleh Minoru. Karena Mayumi sensei, menyuruh anak-anak menggambar orang yang disukai. Dan Minoru pun menggambar Takuya.

Dalam data 9 terlihat bahwa kegiatan menggambar yang dilakukan oleh Minoru adalah sebuah kegiatan tumbuh kembang anak pada usia 2 tahun. Pada usia 2 tahun anak sudah mulai merekam, mengingat, dan mendengar sesuatu yang baru atau yang dilakukan secara terus-menerus. Ditambah lagi saat Takuya mengetahui bahwa itu adalah gambar dia, Minoru dengan sengaja meminta di berikan pujian dengan menundukkan kepalanya supaya Takuya mengusap dan memberikan pujian ke Minoru. Dalam mengungkapkan maksudnya tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf, Tanaka Yoshi Sato, dan Ikou Koike. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi. Kegiatan menggambar yang dilakukan oleh Minoru adalah sebuah fungsi inteligensi yang sudah mulai

tampak dalam tingkah lakunya. Dalam hal ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf, Tanaka Yoshi Sato, dan Ikou Koike.

### Data 10

(06:41 – 06:57)

- ごんちゃんのお母さん : ハロ。たくやくん。
- Gonchan no okaasan* : *Haro, Takuya kun.*
- Mamah Gonchan : Halo, Takuya kun.
- たくや : あつ。ごんちゃんのお母さん。
- Takuya* : *Aa. Gonchan no okaasan.*
- Takuya : Ekh. Mamah Gonchan.
- ごんちゃんのお母さん : こんにちは。
- Gonchan no okaasan* : *Konnichiwa.*
- Mamah Gonchan : Selamat siang.
- たくや : こんにちは。ほら、みのるちゃん  
挨拶。
- Takuya* : *Konnichiwa. Hora, Minoru chan aisatsu.*
- Takuya : selamat siang. Ayo, Minoru chan berikan  
salam.
- みのる : こっちや。
- Minoru* : *Koccha.*
- Minoru : Selamat siang.

ごんちゃんのおかあさん : かわいね。ちゃんと挨拶が  
できるなんて。

*Gonchan no okaasan* : *Kawaine. Chanto aisatsu dekiru nante.*

Mamah Gonchan : Lucu ya. Bisa mengucapkan salam juga.

Analisis :

Sepulang dari belanja Minoru dan Takuya berjalan pulang. Dalam perjalanan pulang Minoru dan Takuya bertemu dengan mamahnya Gonchan. Mamah gonchan menyapa Takuya dan Minoru dengan memberikan salam, Takuya pun membalas memberikan salam kepada mamah Gonchan. Dan menyuruh Minoru memberikan salam juga kepada mamah Gonchan. Minoru mengucapkan こっちゃん (Koccha) yang mempunyai padanan こんにちは (konnichiwa) dan mengandung makna selamat siang.

Dalam data 10 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan salam yaitu こっちゃん (Koccha). Namun dalam pengucapan Minoru huruf んに pada kata こんにちは (konnichiwa) dilesapkan menjadi こっちゃん (Koccha). Dalam hal tersebut kata こっちゃん (Koccha) tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dan mampu mengucapkan sebuah kata dengan benar, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur kalimatnya yang belum sempurna. Dalam hal mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

### **Data 11**

(08:59 – 09:09)

みのる	: <u>ジュジュ</u>
Minoru	: <i>Jyu jyu.</i>
Minoru	: Jus.
たくや	: <i>なんだ飲むだったのか。</i>
Takuya	: <i>Nanda nomu dattanoka ?</i>
Takuya	: Hah ? Sudah habis lagi ?

Analisis :

Pada hari Minggu Takuya dan Minoru libur sekolah. Takuya sedang asyik membaca buku, sedangkan Minoru sedang minum jus. Tidak lama kemudian Minoru minta nambah dengan mengatakan ジュジュ (jyu jyu) sambil menggertakkan cangkirnya diatas meja, kata tersebut mengandung arti jus.

Dalam data 11 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi yaitu ジュジュ (jyu jyu). Kata yang sebenarnya adalah ジュース (jyuusu) yang mengandung arti jus. Dalam pengucapan Minoru huruf ース pada kata ジュース (jyuusu) dihilangkan menjadi lebih

mudah yaitu ジュジュ (jyu jyu). Dalam kalimat tersebut kata ジュジュ (jyu jyu) tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dan mampu mengucapkan sebuah kata dengan benar, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur kalimatnya yang belum sempurna. Ditambah lagi dalam data diatas Minoru, selain dengan mengucapkan kata ジュジュ (jyu jyu) sambil menggertakkan cangkirnya diatas meja, ini pun sebagai tanda melalui bunyi atau suara supaya Takuya mengerti apa yang diinginkan oleh Minoru. Dan bunyi tersebut termasuk kedalam struktur onomatope, yaitu struktur kata yang menirukan bunyi-bunyi dari sumber yang didapatinya. Dalam mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo, Syamsu Yusuf, Tanaka Yoshi Sato, dan Ikou Koike. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi. Dalam mengungkapkan maksudnya tersebut Minoru mampu mengucapkan ragam kata benda atau meishi. Dan kalimat tersebut dibenarkan dengan teori Dardjowidjojo, Syamsu Yusuf, Tanaka Yoshi Sato, dan Ikou Koike.

**Data 12**

(10:31 – 10:38)



みのる

: Da..AO BU..AU AO..AW AWW..

(onomatopoeia)

Analisis :

Minoru dan adiknya Gonchan bermain bersama, karena Gonchan menitipkan Hiro adiknya kepada Takuya. Mereka berdua menggambar bersama dan pada saat itu, Minoru bernyanyi yang tidak mempunyai arti atau makna yaitu Da..AO BU..AU AO..AW AWW..

Dalam data 12 terlihat bahwa kegiatan bernyanyi yang dilakukan oleh Minoru adalah sebuah tindakan yang tidak mempunyai kata padanan dan tidak mengandung arti sama sekali. Namun menandakan bahwa Minoru sedang bernyanyi, itu dibuktikan ketika Minoru mengucapkan kata Da..AO BU..AU AO..AW AWW.. mengandung nada seperti orang yang sedang bernyanyi. Serta kata tersebut juga termasuk kedalam onomatopoeia, yang menirukan bunyi-bunyi yang telah diduplikasinya. Pada anak dalam tokoh Minoru yaitu usia 2 tahun, dibenarkan dan diperbolehkan dalam pengucapannya. Ini membuktikan bahwa anak pada

usia tersebut mempunyai daya serap yang baik dan bertambah intilengensi akan sebuah lagu yang telah didengarnya. Dan hal tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kata tersebut penulis interpretasikan dengan teori menurut Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi. Dalam kegiatan bernyanyi tersebut Minoru mampu mengelurkan kata yang termasuk kedalam sebuah lagu. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

### Data 13

(10:39 – 11:48)

- みのる : いちゃい、いちゃい、いちゃい。
- Minoru* : *Ichai, Ichai, Ichai.*
- Minoru : Sakit, sakit, sakit.
- たくや : みのるどうしたんだ？ほらほら。痛いの痛いのとんどけ。痛いの痛いのとんどけ。大丈夫だ！ひろちゃん、へきなふりしてんですけど、寂しいだな。
- Takuya* : *Minoru doushitanda ? Hora hora. Itai no itai no tondoke. Itai no itai no tondoke. Daijoubuda ! Hiro chan, hekinafurishitendesukedo, sabishii dana.*
- Takuya : Minoru ada apa denganmu ? Enggak apa-apa. Sakit, sakit pergilah. Sakit, sakit pergilah. Kamu

baik-baik saja sekarang ! Hiro chan. Berpura-pura bermain, padahal dia kesepian.

Analisis :

Saat Hiro dan Minoru menggambar bersama. Minoru sedang memegang crayon lalu diambil dengan paksa oleh Hiro. Minoru pun mengambil crayon lagi dan diambil dengan paksa oleh Hiro, begitu seterusnya sampai 4 kali. Ditangan Hiro pun sudah ada 4 crayon, lalu Hiro mewarnai gambarnya tiba-tiba crayon yang digunakan Hiro patah dan terlempar terkena kening Minoru. Minoru pun langsung menangis. Dan berkata いちやい、いちやい、いちやい (ichai, ichai, ichai) . Takuya dengan sergap menolong Minoru dan berusaha menenangkan Minoru. Hiro yang melihatnya merasa iri dan berpura-pura bermain bola karena Hiro tidak pernah mendapatkan perhatian dari kakaknya Gonchan.

Dalam data 13 terlihat bahwa Minoru dapat mengucapkan kata benda atau meishi yaitu いちやい、いちやい、いちやい (ichai, ichai, ichai). Kata sebenarnya adalah 痛い(itai) yang mengandung arti sakit. Dalam pengucapan Minoru huruf ちやい pada kata 痛い(itai) dilesapkan dan menjadi lebih mudah yaitu いちやい. Dalam kalimat tersebut kata いちやい (ichai) tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dan mampu mengucapkan sebuah kata dengan benar, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur pengucapannya yang belum

sempurna. Selain itu pada data 13 diatas mempunyai satu persoalan lagi yaitu Hiro yang mempunyai sifat nakal. Faktor utama yang mempengaruhi balita menjadi anak yang nakal adalah keluarga, salah satunya kurang kasih sayang sehingga anak tersebut melakukan hal-hal yang mencuri perhatian seperti bertengkar dengan teman dan lain-lain. Hal ini terdapat pada Hiro, karena Hiro kurang perhatian dan kasih sayang dari orang tua dan kakaknya. Orang tuanya yang selalu bekerja ditoko dan kakaknya yang selalu sibuk dengan game nya saja. Dalam pengungkapan kalimat yang dikatakan oleh Minoru dan sifat anak dari keluarga yang mempengaruhi tingkah lakunya sesuai dengan teori Dardjowidjojo, Syamsu Yusuf, Joseph C. Mukael, Tanaka Yoshi Sato, dan Ikou Koike. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi. Kalimat yang diucapkan Minoru dan faktor keluarga yang mempengaruhi tingkah laku pada balita dibenarkanoleh teori Dardjowidjojo, Syamsu Yusuf, Joseph C. Mukael, Tanaka Yoshi Sato, dan Ikou Koike.

#### **Data 14**

(15:53 – 16:22)

たくや : まいごのまいごの猫こちゃん。。あ  
 なた のほんどこに。。

*Takuya : Maigono maigono neko kochan.. Anata  
 no hon dokoni..*

- Takuya : Tersesat, tersesat, anak kucing tersesat.  
Dimana kamu tinggal ?
- みのる : ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ。。
- Minoru : *Myanya, myanya, myanya, myanya.*
- Minoru : Meong, meong, meong, meong..
- たくや : ひろちゃん、広いな。泣かなくて。
- Takuya : *Hiro chan, hiroina. Nakanakute.*
- Takuya : Hiro chan sudah besar ya. Jadi tidak menangis.
- みのる : ワンワンワンワン。。
- Minoru : *Wan, wan, wan, wan.*
- Minoru : Wog, wog, wog, wog (Minoru menurunkan suara anjing).

Analisis :

Takuya, Minoru, dan Hiro bermain di taman. Saat itu mereka membuat rumah-rumahan dari pasir. Takuya dan Minoru membuat rumah-rumahan sambil bernyanyi, sedangkan Hiro karena anak yang pendiam, dia hanya bermain pasir saja tidak ikut bernyanyi dengan Takuya dan Minoru. Minoru bernyanyi mengikuti suara kucing dan anjing, yaitu ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ (*Myanya, myanya, myanya, myanya*) dan ワンワンワンワン (*Wan, wan, wan, wan*).

Dalam data 14 terlihat bahwa Minoru mampu mengikuti suara hewan, yaitu ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ (Myanya, myanya, myanya, myanya) suara kucing dan ワンワンワンワン (Wan, wan, wan, wan) suara anjing. Dalam kalimat tersebut tidak ada keterkaitan suara atau bunyi atau suara hewan seperti yang telah disampaikan diatas. Namun dalam tokoh Minoru pada anime ini, dibenarkan karena dalam mengucapkan kata ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ (Myanya, myanya, myanya, myanya) dan ワンワンワンワン (Wan, wan, wan, wan), lebih sulit dibandingkan dengan suara yang sama. Seperti suara kucing sebenarnya adaalah meong, meong, meong dan suara anjing sebenarnya adalah gug gug gug. Tetapi ketika Minoru yang mengucapkan menjadi ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ、ミヤニヤ (Myanya, myanya, myanya, myanya) dan ワンワンワンワン (Wan, wan, wan, wan) supaya lebih mudah. Dalam hal tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi. Kalimat yang diucapkan oleh Minoru adalah termasuk kedalam youjigo di dalam bahasa Jepang. Dan kalimat tersebut dibenarkan oleh teori Dardjowodjojo.

## Episode 4

**Data 15**

(06:17 – 06:45)

はるみ えのき : あっ。。これたしか。パパが写真そぞ。  
ママもたくやとモデルのじゃないか。いや、さいごさいご。

*Harumi Enoki : Aa.. Koretashika. Papa ga shashin sozo ?  
mama mo Takuya to moderu no jyanaiika. Iya,  
saigo saigo.*

Harumi Enoki : Ekh.. Ini foto dulu yang papah potret. Kamu dan mamah yang jadi modelnya. Lihat, bagus kan?

たくや : そんなだったらもさいごじゃないよ。さいてのさいてのさいて !!

*Takuya : sonna dattara mo saigo jyanaiyo. Saite no saite  
no saite !!*

Takuya : Sekarang tidak ada bagusnya sama sekali.  
Aku marah, benar-benar marah !!

はるみ えのき : たしかにわらっているせることじゃない  
はいけど。。

*Harumi Enoki : Tashikani waratteiruseru koto jyanaiwaikedo.*

Harumi Enoki : aku mengerti ini bukanlah yang patut ditertawakan, tapi..

たくや :この写真など見つけたのに。

Takuya : *Kono shashin nado mitsuketanoni.*

Takuya : Aku baru saja menemukan foto itu.

みのる :いいちゃん、いいちゃん、おめちやい。

Minoru : *iichan, iichan, omechai.*

Minoru : Kakak, kakak, aku minta maaf.

Analisis :

Pada episode 4 ini, Takuya sedang merapikan foto-foto lama bersama mamahnya yang sudah meninggal. Dia menemukan fotonya ketika masih bayi bersama mamahnya sedang dalam pelukannya. Takuya sangat senang karena dia pikir itu foto Minoru ternyata foto itu adalah foto Takuya. Namun, ketika Minoru sedang bermain membawa alat tulis tidak sengaja Minoru mencoret-coret foto itu. Mengetahui hal itu, Takuya sangat marah dan memukul Minoru. Saat papah mereka pulang kerja, terkejut melihat Minoru dengan luka lebam dipipinya sambil menangis. Akhirnya mereka duduk bertiga membicarakan masalah yang terjadi. Saat Takuya menjelaskan kepada ayahnya, Minoru sangat bersalah dan mengucapkan おめちやい (omechai) yang mengandung arti aku minta maaf.

Dalam data 15 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan ragam kata benda atau meishi, yaitu おめちやい (omechai). Kata yang sebenarnya adalah ごめんなさい (gomennasai) yang mengandung arti

aku minta maaf. Dalam pengucapan Minoru huruf お-ちやい pada kata おめちやい(omechai) dilesapkan dan dihilangkan menjadi lebih mudah diucapkan menjadi おめちやい(omechai). Dalam kalimat tersebut kata おめちやい(omechai) tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dan mampu mengucapkan sebuah kata dengan benar, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur kalimatnya yang belum sempurna. Dalam mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato, dan Ikou Koike. Dalam mengungkapkan maksudnya tersebut Minoru mampu mengucapkan ragam kata benda atau meishi. Dan kalimat tersebut dibenarkan dengan teori Dardjowidjoj dan Syamsu Yusuf.

### Data 16

(08:17 – 08:31)

まゆみ先生	:みのるくん、おはよう。
<i>Mayumi Sensei</i>	: <i>Minoru kun, ohayou.</i>
Guru Mayumi	: Minoru kun, selamat pagi.
みのる	: <u>あゆじゃまー。</u>
<i>Minoru</i>	: <i>Ayujyamaa.</i>
Minoru	: Selamat pagi.

- まゆみ先生 :みのるくん元気ないですね。
- Mayumi Sensei* : *Minoru kun genkinaidesune.*
- Guru Mayumi : Sepertinya hari ini, Minoru kun tidak terlihat ceria.
- パパ :あの、たくやとお喧嘩まして。じゃ、よろしくお願いいたします。
- Papa* : *Ano, Takuya to okenkashimashite. Jya, yoroshiku onegaiitashimasu.*
- Papah : Aa, Minoru sedang bertengkar dengan Tajuya. Baiklah, mohon bantuannya ya.
- まゆみ先生 :はい、お仕事頑張ってください。
- Maumi Sensei* : *Hai, oshigoto ganbattekudasai.*
- Guru Mayumi : Baik, semangat ya bekarjanya.

Analisis :

Karena Takuya masih marah dengan Minoru, Takuya tidak mau mengantar Minoru ke sekolah. Minoru diantar oleh papahnya, Harumi Enoki. Sesampai di sekolah, Mayumi sensei memberikan salam kepada Minoru kun dengan mengucapkan おはよう ございます (ohayou gozaimasu) dan Minoru menjawabnya dengan kalimat あゆじゃまー (ayujyamaa) yang mengandung makna selamat pagi.

Dalam data 16 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan salam atau aisatsu kepada gurunya, yaitu あゆじゃまー (ayujyamaa). Namun

dalam pengucapan Minoru huruf あゆじゃまー (ayujyamaa) pada kata おはよう ございます (ohayou gozaimasu) dilesapkan supaya mudah diucapkan menjadi あゆじゃまー (ayujyamaa). Dalam hal tersebut kata あゆじゃまー (ayujyamaa) tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dan mampu mengucapkan sebuah kata dengan benar, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur kalimatnya yang belum sempurna. Dalam hal mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

### **Data 17**

(17:32 – 17:44)

まゆみ先生 :みのるくん、まだお兄ちゃんと喧嘩するの？

*Mayumi Sensei* : *Minoru kun., mada oniichan to kenkasuruno?*

Guru Mayumi : Minoru kun, masih bertengkar dengan kakakmu?

- みのる : みに行く?
- Minoru : *Miniiku?*
- Minoru : Apakah akan datang ?
- まゆみ先生 : もちろん、とつても行こうよ!
- Mayumi Sensei : *Mochiron, tottemo ikouyo!*
- Guru Mayumi : Pasti, pasti akan datang !

Analisis :

Karena masih bertengkar dengan Takuya, Takuya tidak ingin menghadiri ke pertunjukkan Tarian Nyangko no Nyangko yang akan dibawakan oleh anak-anak TK nol kecil termasuk Minoru. Karena melihat Minoru yang tampak sedih, guru Mayumi menghampirinya. Minoru pun bertanya kepada guru Mayumi, *みに行く* (mini iku) yang mengandung arti apakah akan datang ?

Dalam data 17 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata kerja atau doushi, yaitu *みに行く* (mini iku). Kata pada *みに行く* (mini iku) diucapkannya dengan benar tidak dilesapkan dan tidak dihilangkan pada salah satu hurufnya. Dalam kalimat tersebut, kata *みに行く* (mini iku) termasuk kata yang mudah dilafalkan dan tidak terdapat huruf sulit yang sulit diucapkan seperti huruf た yang diucapkan menjadi ちゃ, sehingga Minoru dengan mudah mengucapkan kata tersebut. Dalam mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dalam kalimat tersebut

Minoru mampu mengucapkan kata kerja. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

Episode 5

**Data 18**

(02:05 – 02:39)

たくや	: ふじくん。
<i>Takuya</i>	: <i>Fuji kun.</i>
Takuya	: Fujikun.
ふじ	: 今帰るか。
<i>Fuji</i>	: <i>Kaeruka ?</i>
Fuji	: Bukan kah kamu mau pulang ?
たくや	: うん、ふじくんは ?
<i>Takuya</i>	: <i>Un, Fujikun wa ?</i>
Takuya	: Ya, kalau Fuji kun ?
ふじ	: おふろこに買い物ちゃって。まぼあ いさつするよ。
<i>Fuji</i>	: <i>Ofuroko ni kaimono chatte. Mabo aisatsusuruyo.</i>
Fui	: Ibu memintaku, untuk membelikan barang belanjaan pesanannya. Mabo berikansalam.
まぼ	: こんにちは。

- Mabo* : *Konnichiwa.*
- Mabo* : Selamat siang.
- みのる : こっちや。
- Minoru* : *Koccha.*
- Minoru* : Halo.
- まぼ : 僕、ふじまさきです。いつもお兄が  
おせ わになってます。
- Mabo* : *Boku, Fujimasaki desu. Itsumo oniichan*  
*osewani nattemasu.*
- Mabo* : Aku adalah Fujimasaki. Terima kasih atas  
segala yang telah kau lakukan pada  
kakakku.
- たくや : ごてんにどうも。
- Takuya* : *Goten ni doumo.*
- Takuya* : Aku.. tidak masalah.
- ふじ : まぼ、行くぞ。
- Fuji* : *Mabo, Ikuzo.*
- Fuji* : Mabo, ayo pulang.
- まぼ : Bye bye.
- Mabo* : *Bye bye.*
- Mabo* : Dadah.
- みのる : Bye bye.

- Minoru* : *Bye bye.*
- Minoru* : Dadah.
- たくや : ふじくんの弟につてわずいぶんくち  
がたいっしやなあ。
- Takuya* : *Fuji kun no otouto ni tsutewa zuibun kuchi  
gata isshanaa.*
- Takuya* : Adiknya Fuji kun untuk anak  
seumurannya bicaranya tadi lancar sekali.

Analisis :

Pada bagian ini adalah dimana adiknya Fuji yang sedang melakukan perkenalan kepada Minoru dan Takuya. Ketika Mabo mengucapkan salam seperti こんにちは (konnichiwa) dibalas dengan Minoru dengan こっちや (koccha).

Dalam data 18 terlihat bahwa perbedaan yang sangat menonjol antara Minoru dengan Mabo dalam berbicara. Mabo adalah adik dari Fuji, yang seumuran dengan Minoru, namun dari segi bicara, Mabo jauh lebih pandai dalam mengungkapkan sebuah kalimat yang panjang dibandingkan dengan Minoru.

Perbedaan pada kedua anak tersebut adalah salah satu faktor keluarga yang sangat mempengaruhi. Mabo menjadi anak yang pandai dalam berbicara karena Mabo di didik, dilatih dengan kedua orang tuanya yang masih utuh ditambah dengan keempat kakaknya yang selalu mengajarkan pengetahuan. Sedangkan Minoru hanya dirawat dan di didik

oleh Takuya sebagai kakaknya dan papahnya, Harumi Enoki yang sibuk dengan pekerjaan. Oleh karena itu, kurangnya pendidikan dari keluarga dan kasih sayang dari orang tua menjadikan salah satu faktor dalam pembentukan bahasa kepada anak-anak usia dini atau balita. Dalam permasalahan tersebut sesuai dengan teori Sakoda Komiko dan Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Joseph C. Mukael. Pengungkapan kalimat yang dikatakan oleh Mabo adalah salah satu faktor dalam membentuk kosakata dan membuat kalimat pada anak-anak. Dan kalimat tersebut dibenarkan dengan teori Sakoda Komiko dan Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi.

### **Data 19**

(05:42 – 06:13)

ごんちゃん : みのるのやつ てれてれぞ。

*Gonchan* : *Minoru no yatsu tereterezo.*

Gonchan : Minoru kelihatannya tersipu.

たくや : そんなはずを？

*Takuya* : *Sonna hazu wo ?*

Takuya : Minoru tersipu ?

ごんちゃん : 何だよ。

Gonchan : Nandayo.

*Gonchan* : *Ada apa denganmu ?*

- いちか : ごめんなさい。みのるちゃん。
- Ichika* : *Gomennasai. Minoru chan.*
- Ichika : Permisi.. Minoru chan.
- ひろ : だめ。
- Hiro* : *Dame.*
- Hiro : Jangan.
- いちか : 何を？
- Ichika* : *Naniwo?*
- Ichika : Kamu kenapa ?
- みのる : いいちゃん、いいちゃん。
- Minoru* : *Iichan, iichan.*
- Minoru : Kakak, kakak.
- いちか : みのるくんお兄ちゃんは？どうも始めまして、いちかと申します。大学カメです。あたしはみのるちゃんの結婚したいになるです。だから、お兄ちゃんのまかせてくださいね。
- Ichika* : *Minoru kun oniichan wa ? Doumo hajimemashite, Ichika to moushimasu. Daigaku kame desu. Atashi wa Minoru chan no kekkonshitai ni naru desu. Dakara, oniichan no makasete kudasai.*

Ichika : Jadi anda kakaknya Minoru chan ? Senang bertemu dengan anda, perkenalkan aku Ichika. Aku dari TK nol kecil kelas kura-kura. Aku akan menikah dengan Minoru chan. Jadi, aku harap anda bisa mengizinkanku memanggil anda kakak.

Analisis :

Pada bagian ini, saat Gonchan dan Takuya ingin menjemput Hiro dan Minoru. Takuya dan Gonchan melihat Minoru sedang bermain dengan Takuya. Gonchan mengetahui kalau Hiro menyukai Minoru, sejak pertama kali bertemu. Oleh karena itu, Gonchan mengatakan kalau Minoru tersipu. Saat Takuya dan Hiro sedang berbicara tentang Minoru dan Hiro, tiba-tiba datang Ichika. Ichika adalah teman Minoru dari kelas kura-kura, Ichika juga menyukai Minoru. Ichika langsung memperkenalkan diri kepada Takuya dengan jelas dan lengkap.

Dalam data 19 terlihat bahwa Ichika sebagai anak perempuan mampu mengucapkan sebuah kalimat yang sangat panjang dan lebih aktif dibandingkan dengan Minoru, Minoru adalah anak laki-laki namun belum mampu mengucapkan seperti kalimat yang disampaikan Ichika meskipun usia Minoru dan Ichika sama. Jelas sekali perbedaan antara anak laki-laki dengan perempuan dalam berkomunikasi dan lebih aktif. Dalam masalah tersebut sesuai dengan teori Nurdin, S.Pd., S.Sos., M.Com. Selanjutnya dalam permasalahan tersebut penulis interpretasikan dengan teori Nurdin,

S.Pd., S.Sos., M.Com. Kemampuan berbahasa dan perasaan yang halus pada wanita memberikan kemampuan kepada seorang wanita untuk bisa menjelaskan perasaannya dengan lebih mengesankan dibandingkan kebanyakan lelaki. Secara struktural otak wanita memiliki saraf penghubung antara otak kanan dan kirinya lebih tebal dibandingkan pria. Kenyataan ini juga menjelaskan bagaimana wanita jadi makhluk yang susah berhenti untuk bicara. Permasalahan tersebut dibenarkan dengan teori dari Nurdin, S.Pd., S.Sos., M.Com.

### Data 20

(07:28 – 08:23)

いちか : ひどいなんことするなよ。昨日あなたのライベル決めてびぜかったよね。あなたにみのるちゃんはいさつくつないわ。

*Ichika : Hidoi nante koto suru nayo. Kinou anata no raiberu kimete bizekattayone. Anatani Minoru chan ha aisatsukutsu naiwa.*

ひろ : ぶしゅ。

*Hiro : Bushu.*

Hiro : Jelek.

いちか : ぶしゅ？あなた自分が美しいとてもも  
ってるの？あたしじまじゃないけど、い  
つもみんなからかわいい言われてなよ。  
美人が有名なから、あなたぶしゅなんて  
いわれるのおかしいひとのなよ。いかせ  
ないですよ。

*Ichika : Bushu ? Anata jibun ga utsukushii totemo*  
*motteruno ? atashi wa jima jyanaikeedo,*  
*itsumo minna kara kawaii iwaretenayo. Bijin*  
*ga yuumei na kara, anata bushu nante*  
*iwareru no okashii hito no nayo. Ikasenaiyo.*

Ichika : Jelek ? Dan aku harus bilang kamu cantik gitu? Kenapa, padahal telah banyak orang yang mengatakan kalau aku ini manis dan lucu semenjak lahir. Aku ini orang terkenal. Pasti ada sesuatu yang salah di otakmu, sebanding dengan wajahmu yang jelek itu. Kamu pasti akan menyesal jika kamu tidak menarik ucapanmu yang tadi !

みのる : 喧嘩ないよ。

*Minoru* : *Kenka naiyo.*

Minoru : Jangan berkelahi.

ひろ : ぶしゅ,ぶしゅ。

*Hiro* : *Bushu, Bushu.*

Hiro : Jelek, jelek.

いちか : また、言ったわね!

*Ichika* : *Mata, ittawane !*

Ichika : Coba ucapkan sekali lagi !

みのる : 喧嘩めよ。いいちゃんめの!止めよ!

*Minoru* : *Kenka meyo. Iichan meno ! Yameyo !*

Minoru : Jangan berkelahi. Jangan berkelahi !  
hentikan !

Analisis :

Minoru dan Hiro sedang bermain bersama, mereka bermain jungkat-jungkit. Lalu Hiro tiba-tiba pergi ketika Minoru sedang berada diatas,

Minoru jatuh kebawah dan menangis. Hiro pergi, dan bertemu dengan Ichika. Ichika pun marah-marah karena melihat kejadian yang tadi. Hiro dan Ichika pun bertengkar. Minoru berusaha melerai Hiro dan Ichika. Namun tetap mereka bertengkar.

Dalam data 20 terlihat bahwa Ichika sangat menonjol saat berkomunikasi. Dan Ichika sebagai anak perempuan mampu mengungkapkan kalimat yang sangat panjang dengan jelas dan benar. Sama seperti dalam data 19, ini sebagai bukti bahwa anak perempuan memang lebih unggul dalam keterampilan verbal. Dalam masalah tersebut sesuai dengan teori Nurdin, S.Pd., S.Sos., M.Com. Selanjutnya dalam permasalahan tersebut penulis interpretasikan dengan teori Nurdin, S.Pd., S.Sos., M.Com. Faktor genetik atau hormonal sangat memengaruhi fungsi otak, sehingga membedakan reaksi anak laki-laki dan perempuan terhadap keterampilan verbal. Anak perempuan cenderung lebih mahir membaca tanda-tanda non verbal, seperti intonasi dan ekspresi, sehingga secara umum anak perempuan lebih terampil berkomunikasi, terutama yang melibatkan emosi dan penguasaan kata-kata. Permasalahan tersebut dibenarkan dengan teori dari Nurdin, S.Pd., S.Sos., M.Com.

## Data 21

(15:04 – 16:35)



いちか

: みのるちゃん、きれいに書いてね。あ  
たし絶対みのるちゃん絵の際のおもう。  
将来トピック書きたになるちがいがないわ  
ね。

Ichika

: *Minoru chan, kirei ni kaite ne. Atashi zettai Minoru chan e no sai toomono. Shorai topiku kakita ni naru chigai ni naiwane.*

Ichika

: Minoru chan, gambar yang bagus ya. Aku rasa kamu punya jiwa seni yang hebat. Aku yakin di masa depan kamu menjadi seniman yang hebat.

- みのる : できちやな!
- Minoru* : *Dekichana!*
- いちか : どれどれ。ね、ね。みのるちゃん上か  
あたしでしょう。ひろちゃん眉毛つなが  
っているよ。笑。みのるちゃん上手!
- Ichika* : *Dore dore. Ne, ne. Minoru chan ue ka  
atashi deshou. Hiro chan mayuge  
tsunagatteiruyo. Ha ha. Minoru chan,  
jyouzu!*
- Ichika* : *Aku mau lihat, aku mau lihat. Eh, eh.  
Minoru chan gambar yang atas itu aku kan.  
Hiro chan kan alisnya nyambung. Ha ha.  
Minoru chan, pintar!*
- ひろ : (怒って それで絵を破って)
- Hiro* : *(Okotte sorede e wo yabutte)*
- Hiro* : *(Marah lalu menyobek gambarnya)*

いちか : なんてことするなよ！あたしの顔を破っている！あたし、あなたの顔をも破って！

*Ichika : Nante koto suru nayo! Atashi no kao wo yabutteieu ! Atashi, anata no e wo mo yabutte!*

Ichika : Berani-beraninya kamu lakukan ini ! Kamu menyobek gambar yang ada muka aku ! Baik, aku jug akan menyobek gambar kamu !

みのる : (絵を破ってですから、怒って)  
いちかとひろ、きやい!

*Minoru : (E wo yabutte desukara, okotte)*

*Ichika to Hiro, kiyai !*

Minoru : (Karena gambarnya sobek, Minoru marah)

Ichika dan Hiro, aku benci kalian !

Analisis :

Minoru, Ichika, dan Hiro sedang bermain bersama di sekolah. Karena Minoru suka menggambar, lalu Minoru menggambar wajah Ichika dan Hiro, Minoru pun menyelesaikan gambar dan berkata *できちやな!* (dekichana!). Ichika dan Hiro melihatnya, Ichika menertawakan gambar Hiro karena alis Hiro yang nyambung, Hiro pun marah. Dan akhirnya gambar yang dibuat Minoru sobek karena pertengkaran Ichika dan Hiro. Minoru yang melihat gambarnya sobek pun marah dan berkata *きやい!* (kiyai!).

Dalam data 21 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata kerja dan kata sifat *い*. Kata sebenarnya adalah *できたな* (dekitana) dan *きらい* (kirai), yang mengandung arti telah selesai dan benci. Dalam pengucapan Minoru huruf *ちやな* (cha) pada kata *できちやな* (dekichana) serta huruf *やい* (yai) pada kata *きやい* (kiyai), dilesapkan menjadi lebih mudah dalam pengucapan yaitu *できちやな* (dekichana) dan *きやい* (kiyai). Dalam kalimat tersebut kata *できちやな* (dekichana) dan *きやい* (kiyai) tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dan mampu mengucapkan sebuah kata dengan benar, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur kalimatnya yang belum sempurna. Selain itu pada data diatas terlihat bahwa kegiatan menggambar yang dilakukan oleh Minoru adalah sebuah kegiatan tumbuh kembang anak pada usia 2 tahun. Pada usia 2 tahun anak sudah mulai merekam, mengingat, dan mendengar

sesuatu yang baru atau yang dilakukan secara terus-menerus. Dalam mengungkapkan maksudnya tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato. Minoru mampu mengucapkan kata kerja dan kata sifat い、 serta Kegiatan menggambar yang dilakukan oleh Minoru adalah sebuah fungsi inteligensi yang sudah mulai tampak dalam tingkah lakunya. Dalam hal ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

### **Data 22**

(22:16 – 22:30)

みのる : あのね、みのるパパ好き。

*Minoru* : *Anone, Minoru papa suki.*

Minoru : Eum, Minoru cinta papa.

はるみ えのき : パパもみのるくん好きだよ。

*Harumi Enoki* : *Papa mo Minoru kun suki dayo.*

Harumi Enoki : Papa juga cinta Minoru.

みのる : みの も みの も。

*Minoru* : *Mino mo, Mino mo.*

Minoru : Mino juga, Mino juga

はるみ えのき : パパ も パパ も。

*Harumi Enoki* : *Papa mo, papa mo.*

Harumi Enoki : Papa juga, papa juga

みのる : パパ、パンパイ !

Minoru : *Papa, panpai !*

Minoru : Papa, bersulang !

Analisis :

Pada malam hari, seperti biasa papah atau Harumi Enoki, Minoru dan Takuya makan bersama. Tiba-tiba Minoru berkata *みのるパパ好き* (Minoru, papah suki), lalu papah membalas dengan *パパもみのるくん好きだよ* (papa mo Minoru kun suki dayo) sambil menuangkan jus kedalam cangkir Minoru. Dan pada akhir kata Minoru mengucapkan *パンパイ* ! (panpai!).

Dalam data 22 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi, yaitu *パンパイ* ! (panpai!). Kata sebenarnya adalah *カンパイ* yang mengandung arti bersulang. Dalam kalimat tersebut kata *パンパイ* (panpai) tidak dibenarkan dalam pengucapan untuk orang dewasa atau anak-anak yang sudah jelas dan mampu mengucapkan sebuah kata dengan benar, namun untuk anak usia 2 tahun pada tokoh Minoru diperbolehkan dan dibenarkan karena struktur kalimatnya yang belum sempurna. Dalam kemampuan mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dalam mengucapkan kalimat tersebut menandakan bahwa Minoru mampu mengucapkan ragam meishi pada youjigo dalam bahasa

Jepang. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

Episode 6

**Data 23**

(03:13 – 03:30)

たくや : パパ、パパ、早く行くよ。パパ  
早く！

*Takuya* : *Papa, papa, hayaku ikuyo. Papa  
hayaku!*

Takuya : Papa, papa, ayo cepat kita pergi.  
Papa cepat !

みのる : はっく！

*Minoru* : *Hakku !*

Minoru : Cepat !

はるみ えのき : まだ荷物整理すんでたいだろ  
う！

*Harumi Enoki* : *Mada nimotsu seiri sundetai  
darou !*

Harumi Enoki : Papa belum selesai menyimpan  
barang bawaannya !

たくや : あのあとですんでいよ。

*Takuya* : *Nano atode sundeiyo.*

Takuya : Itu kan bisa ditunda.

みのる : うみ、うみ!

*Minoru* : *Umi, Umi!*

Minoru : Laut, laut!

Analisis :

Pada liburan musim panas, Harumi Enoki atau papah dari Minoru dan Takuya telah berjanji akan mengajak ke pantai. Sampailah Takuya, Minoru dan Harumi Enoki atau papah dari Minoru dan Takuya di penginapan. Sesampainya dipenginapan Takuya dan Hiro tidak sabar ingin pergi ke pantai dan melihat laut sedangkan Harumi Enoki belum selesai memebreskan pakaiannya. Saat Takuya berkata 早く (hayaku) Minoru juga berkata はっく (hakku) dan pada akhir kalimat Minoru berkata うみ、うみ (umi, umi).

Dalam data 23 terlihat bahwa Minoru dapat mengucapkan dua kata sekaligus yaitu kata keterangan dan kata benda atau meishi, yaitu kata はっく (hakku) dan kata うみ、うみ (umi, umi). Kata sebenarnya dari kata はっく (hakku) adalah 早く (hayaku), kata tersebut pada mulanya berawal dari kata sifat い(i) yang berubah menjadi kata keterangan く(ku). Dalam pengucapan tokoh Minoru kata 早く (hayaku) berubah menjadi はっく (hakku), huruf pada 早く (hayaku) dilesapkan supaya lebih mudah dalam mengutarakan sehingga menjadi kata はっく (hakku). Dan kata うみ、う

み (umi, umi) tidak mengalami perubahan pengucapan, karena kata うみ、  
うみ (umi, umi) termasuk kata benda yang mudah diucapkan tanpa ada  
kata yang sulit diucapkan seperti huruf た yang menjadi ちゃ. Dan kalimat  
tersebut dibenarkan sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.  
Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka  
Yoshi Sato. Minoru mampu mengucapkan dua kata sekaligus sesuai  
dengan youjigo dalam bahasa Jepang. Dalam hal ini sesuai dengan teori  
Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

#### Data 24

(07:31 – 08:00)

- みのる : ああ。。いいちゃん、いいちゃん  
ん こいこえ。。いいちゃん、い  
いちゃん こいこえ。
- Minoru* : *Aa.. Iichan, iichan koi koye.. Iichan,  
iichan koi koye.*
- Minoru : Hee.. Kakak, kakak lihat kesini.  
Kakak, kakak lihat kesini.
- たくや : あ。貝殻だよ。
- Takuya* : *A. Kaigara dayo.*
- Takuya : Ekh, ini adalah kerang.

Analisis :

Pada saat Minoru dan Takuya bermain dipantai. Minoru menemukan kerang, karena dianggap benda yang aneh dan unik, Minoru pun memanggil Takuya untuk melihatnya dengan berkata いいちゃん、いいちゃん こいこえ。。いいちゃん、いいちゃん こいこえ (Iichan, iichan koi koye.. Iichan, iichan koi koye).

Dalam data 24 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi, yaitu こいこえ(koikoye). Kata sebenarnya adalah こちら (kochira) yang mengandung arti sebelah sini. Namun dalam pengucapan tokoh Minoru kata こちら (kochira) berubah menjadi lebih mudah pengucapannya bagi Minoru yaitu こいこえ (koikoye) dengan maksud arti yang sama yaitu kesini. Dan kalimat tersebut dibenarkan sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato. Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi sesuai dengan youjigo dalam bahasa Jepang. Dalam hal ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

### **Data 25**

(09:51 – 10:24)

たくや

: みる, その貝殻どこかに持ってきた。食べ物もってないだろう。

- Takuya* : *Minoru, sono kaigara dokokani mottekita. Tabemono mottenai darou.*
- Takuya* : *Minoru, simpan kerang-kerang itu. Nanti kamu tidak bisa membawa makanannya.*
- みのる : あい。  
あげゆ。
- Minoru* : *Ai.*  
*Ageyu.*
- Minoru* : *Baik.*  
*Ini semuanya untukmu.*
- たくや : 貝殻は？
- Takuya* : *Kaigara wa ?*
- Takuya* : *Dimana kerang-kerangnya ?*
- みのる : あいちやも。
- Minoru* : *Aichamo.*
- Minoru* : *Sudah kusimpan.*
- たくや : そう、えらいね。
- Takuya* : *Sou, eraine.*
- Takuya* : *Bagus, anak pintar.*
- Analisis :

Setelah terlalu lama bermain dipantai, Takuya dan Minoru pergi membeli makanan. Saat ingin membeli makanan, Minoru membawa

kerang-kerang yang telah dikumpulkannya. Lalu Takuya menyuruh Minoru menyimpan kerang-kerang itu, Minoru pun menuruti perintah kakaknya. Namun Minoru menyimpan kerang-kerang itu diatas badan Edomae yang sedang berjemur. Edomae adalah bawahan Harumi Enoki, papah Takuya dan Minoru yang sama-sama juga berlibur liburan musim panas ke pantai. Saat meletakkan kerang-kerang itu tanpa sepengetahuan Edomae yang sedang tertidur, Minoru berkata あげゆ (ageyu). Minoru pun kembali ke Takuya yang bertanya 貝殻は (kaigara wa), dijawab dengan Minoru あいちやも (aichamo).

Dalam data 25 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata kerja yaitu あげゆ (ageyu) dan あいちやも (aichamo). Kata sebenarnya dari dua kata tersebut adalah 上げる (ageru) dan 預かる (azukaru) yang mengandung arti memberi dan menyimpan. Namun dalam pengucapan tokoh Minoru kata 上げる (ageru) dan 預かる (azukaru) berubah menjadi lebih mudah pengucapannya bagi tokoh Minoru yaitu あげゆ (ageyu) dan あいちやも (aichamo). Dan kalimat tersebut dibenarkan sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato. Minoru mampu mengucapkan kata kerja sesuai dengan youjigo dalam bahasa Jepang. Dalam hal ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

**Data 26**

(10:35 – 11:06)

- たくや : 大丈夫か、みのる？
- Takuya* : *Daijoubuka, Minoru ?*
- Takuya : Kau baik-baik sajakah, Minoru ?
- みのる : あい。
- あつ。いいちゃん、いいちゃん  
ちやまご。
- Minoru* : *Ai,*  
*AA. Iichan, iichan chamago.*
- Minoru : Iya.  
Hoo. Kakak, kakak telurku.
- 男の人 : 気を付く！バカるわ！
- Otoko no hito* : *Ki wo tsuku ! Bakarawa !*
- Anak laki-laki : Kalau jalan hati-hati ! dasar bodoh !
- みのる : いいちゃん、いいちゃんちやまご。
- Minoru* : *Iichan, iichan chamago.*
- Minoru : Kakak, kakak telurku.
- Analisis :

Takuya dan Minoru telah membeli makanan, Minoru membawa semangkuk makanan yang isinya ada telur bulatnya. Saat Takuya dan

Minoru sedang membawa makanan tiba-tiba ada dua orang anak laki-laki yang sengaja menabrak Takuya dan Minoru. Telur bulat yang dibawa oleh Minoru pun jatuh, lalu Minoru menangis dan berkata いいちゃん、いいちゃんちゃまご (Iichan, iichan chamago).

Dalam data 26 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi, yaitu ちゃまご (chamago). Kata sebenarnya adalah たまご (tamago) yang mengandung arti telur. Namun kata yang diucapkan oleh Minoru menjadi lebih mudah bagi tokoh Minoru, maka kata たまご (tamago) berubah menjadi ちゃまご (chamago). Dalam pengucapan Minoru huruf た pada kata たまご (tamago) dilesapkan menjadi huruf ちゃ dalam kata ちゃまご (chamago). Karena dalam pengucapan Minoru yang belum sempurna kata tersebut dibenarkan. Dan kalimat tersebut dibenarkan sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato. Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi sesuai dengan youjigo dalam bahasa Jepang. Dalam hal ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

### **Data 27**

(21:39 – 22:20)

たくや

: みる、アイス食べよ。

*Takuya*

: *Minoru, aisu tabeyo.*

- Takuya : Minoru, ayo kita makan ice.
- みのる : アイス?
- Minoru : *Aisu ?*
- Minoru : Ice ?
- たくや : その貝殻は置いて置いて。
- Takuya : *Sono kaigara wa oite oite.*
- Takuya : Tapi simpan dulu kerang-kerangnya.
- みのる : あい。
- Minoru : *Ai.*
- Minoru : Baik.

Analisis :

Kesekokan harinya, Takuya mengajak Minoru untuk pergi membeli ice. Minoru pun berkata アイス (aisu). Saat itu Minoru masih mengumpulkan kerang-kerang yang ada dipantai dan Takuya pun menyuruh untuk disimpan kerang-kerangnya.

Dalam data 27 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi, yaitu アイス (aisu). Kata pada アイス (aisu) diucapkannya dengan benar, tidak dilesapkan dan tidak dihilangkan pada salah satu hurufnya. Dalam kaima tersebut アイス (aisu) termasuk kata yang mudah dilafalkan dan tidak terdapat huruf yang sulit diucapkan seperti huruf た yang diucapkan menjadi ちゃ, sehingga Minoru dengan mudah mengucapkan kata tersebut. Dalam mengungkapkan kalimat

tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dalam kalimat tersebut Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi secara benar. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

#### Episode 7

#### **Data 28**

(02:52 – 03:11)

お祖母さん	: よこそ。
<i>Obaasan</i>	: <i>Yokoso.</i>
Obaasan	: Selamat datang
みのる	: あ。。。 <u>怖い、怖い。</u>
<i>Minoru</i>	: <i>A... Kowai, kowai.</i>
Minoru	: Huaaa... Takut, takut.
たくや	: みのる、見された！人間でしょ。
<i>Takuya</i>	: <i>Minoru, misareta ! Ningen desuyo.</i>
Takuya	: Minoru, lihatlah ! Itu manusia.
はるみ えのき	: すみません、うわるぎわないです。
<i>Harumi Enoki</i>	: <i>Sumimasen, uwarugiwana desu.</i>

Harumi Enoki : Maafkan kami, dia tidak bermaksud begitu.

Analisis :

Selanjutnya pada episode ini Takuya, Minoru, dan Harumi Enoki papah dari Takuya dan Minoru pergi ke penginapan pemandian air panas. Saat sampai ditempat penginapan tersebut, Minoru berjalan kedepan pintu masuk sendirian sedangkan Takuya dan Harumi Enoki berada dibelakangnya. Karena penginapannya terlihat tua dan seperti tempat bersejarah, penginapan itu pun terlihat menakutkan. Tiba-tiba terdengar suara langkah menghampiri pintu masuk itu, Minoru yang berada persis didepannya memperhatikan dengan serius, lalu muncullah nenek tua berpakaian kimono didepan pintu masuk itu, Minoru pun menangis karena ketakutan dan berkata 怖い、怖い (kawai, kawai).

Dalam data 28 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata sifat 怖い, yaitu 怖い(kawai). Kata pada 怖い(kawai) diucapkannya dengan benar, tidak dilesapkan dan tidak dihilangkan pada salah satu hurufnya. Dalam kata tersebut 怖い(kawai) termasuk kata yang mudah dilafalkan dan tidak terdapat huruf yang sulit diucapkan seperti huruf た yang diucapkan menjadi ちゃ, sehingga Minoru dengan mudah mengucapkan kata tersebut. Dalam mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dalam kalimat tersebut Minoru mampu mengucapkan kata sifat 怖い secara benar.

Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

### Data 29

(07:53 – 08:09)

- はるみ えのき : 大丈夫か、みのる！
- Harumi Enoki* : *Daijoubu ka, Minoru !*
- Harumi Enoki : Kamu tidak apa-apa kah, Minoru !
- たくや : わさびはみのるまだ早いね。
- Takuya* : *Wasabi wa Minoru mada hayai ne.*
- Takuya : Minoru terlalu cepat untuk memakan wasabi.
- お祖母さん : ピーナッツ豆持って来ましょう。
- Obaasan* : *Pinattsu mame motte kimashou.*
- Obaasan : Saya akan kembali membawa kembang gula kacang.
- はるみ えのき : みのる、ピーナッツ豆だって、いいな。
- Harumi Enoki* : *Minoru, pinattsu mame datte, iina.*
- Harumi Enoki : Minoru, dia akan membawakan kembang gula kacang.
- みのる : ピージマー?
- Minoru* : *Piiji maa?*

Minoru : Kembang gula kacang?

たくや : とてもうまいどぞ。

*Takuya* : *Totemo umai dozo.*

Takuya : Rasanya sangat manis.

Analisis :

Pada saat makan malam, Minoru menangis kepedasan karena telah memakan wasabi. Lalu nenek penjaga penginapan pergi untuk membawa ピーナッツ豆 (pinattsu mame). Harumi Enoki papah dari Takuya dan Minoru, berusaha menenangkan Minoru kalau nenek itu akan membawa ピーナッツ豆 (pinattsu mame), Minoru pun berkata ピージまー (piiji maa) dan Takuya pun berusaha meyakinkan Minoru bahwa ピーナッツ豆 (pinattsu mame) rasanya sangat manis.

Dalam data 29 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata benda atau mesih, ピージまー (piiji maa). Kata sebenarnya adalah ピーナッツ豆 (pinattsu mame) yang mengandung arti kembang gula kacang. Kata yang diucapkannya menjadi lebih mudah pada tokoh Minoru, maka kata ピーナッツ豆 (pinattsu mame) berubah menjadi ピージまー (piiji maa). Dalam pengucapan Minoru huruf ナッツ豆 pada kata ピーナッツ豆 (pinattsu mame) dilesapkan menjadi huruf ジまー dalam kata ピージまー (piiji maa). Karena dalam pengucapan Minoru yang belum sempurna kata tersebut dibenarkan. Dan kalimat tersebut dibenarkan sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini

penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato. Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi yang dilesapkan sesuai dengan youjigo dalam bahasa Jepang. Dalam hal ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

### Data 30

(17:20 – 18:30)

きくこ : あのね、兄ちゃん死んだだよ。  
お兄ちゃんなんか大嫌い。

*Kikuko* : *Anone, niichan shinda dayo.*  
*Oniichan nanka dai kirai.*

Kikuko : Kau tahu ? kakak akan meninggal.  
Aku sangat membencinya.

みのる : いいちゃん好き !

*Minoru* : *Iichan suki !*

Minoru : Aku menyayangi kakak !

きくこ : 好き？きくこ、お兄ちゃん嫌い！  
いつも悪意に満ちている。

*Kikuko* : *Suki ? Kikuko, oniichan kirai !*  
*Itsumo akuni ni michiteiru.*

*Kikuko* : *Sayang ? Kikuko, benci kakak !*  
 Dia selalu jahat ke aku !

*みのる* : *いいちゃん、いいちゃんいい子*  
*なの！！*

*Minoru* : *Iichan, iichan iiko nano !!*

*Minoru* : *Kakak, kakak anak yang baik !!*

Analisis :

Ternyata tidak hanya terlihat tua dan bersejarah saja tempat penginapan pemandian air panas itu, namun tempat tersebut memang memiliki cerita horor sendiri. Kikuko adalah keponakan si nenek penjaga penginapan yang mempunyai kakak bernama Tadaomi. Kikuko sudah meninggal karena kecelakaan ketika dia bermain. Sebelum meninggal kakaknya terlebih dahulu meninggal karena terkena penyakit TBC. Tidak mau tertular juga adiknya, akhirnya selama Tadaomi sakit, dia bersikap kasar dan jahat kepada Kikuko supaya Kikuko tidak mendekati Tadaomi. Sehingga Kikuko sangat membencinya. Dan akhirnya Tadaomi meninggal sebelum mendapatkan maaf dari Kikuko. Karena Takuya mirip dengan Tadaomi, oleh karena itu Kikuko mengganggu Takuya, sampai pada hari

kedua dipenginapan tersebut Takuya demam tinggi. Pada malam harinya, Minoru terbangun dan melihat Kikuko yang berada didekat Takuya. Kikuko memberitahukan bahwa kakak akan meninggal kepada Minoru, namun Minoru berkata kalau Minoru sayang kakak dan berkata いいちゃんいい子(iiichan, ii ko).

Dalam data 30 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi, yaitu いい子(ii ko). Kata pada いい子(ii ko) diucapkannya dengan benar, tidak dilesapkan dan tidak dihilangkan pada salah satu hurufnya. Dalam kata tersebut, いい子(ii ko) termasuk kata yang mudah dilafalkan dan tidak terdapat huruf yang sulit diucapkan seperti huruf た yang diucapkan menjadi ちゃ, sehingga Minoru dengan mudah mengucapkan kata tersebut. Dalam mengungkapkan kalimat tersebut sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato dan Ikou Koike. Dalam kalimat tersebut Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meisi secara benar. Dan kalimat tersebut dibenarkan dalam bahasa anak-anak didalam bahasa Jepang yang sesuai dengan teori Dardjowidjojo serta Syamsu Yusuf.

## Episode 8

**Data 31**

(02:36 – 02:55)

たくや : あれ？今日祭りあるかなあ。

*Takuya : Are ? Kyou omatsiuri aru kanaa.*

Takuya : Eh ? Perayaan sudah mulai kah ?

みのる : みのも、行きちやいも、おまち行きち  
やいの！

*Minoru : Mino mo, ikichai mo, omachi ikichai no !*

Minoru : Minoru juga, ingin pergi, inging pergi  
keperayaan.

たくや : いいけど。お弁とかちやったからお金  
あまりないよ。

*Takuya : Iikedo, obento kachatta kara okane amari  
naiyo.*

Takuya : Bagaimana ya? Uang kita tersisa sedikit sekali setelah dibelikan bekal makan malam, datang ke perayaan boleh saja.

Analisis :

Saat malam kembang api tiba, ada sebuah perayaan. Ketika Minoru dan Takuya dalam perjalanan pulang setelah membeli bekal makan malamnya, Takuya dan Minoru melihat ada kembang api. Dan Minoru meminta untuk datang ke perayaan itu dengan berkata おまち行きちゃいの (omachi ikichai no).

Dalam data 31 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan sebuah kalimat pendak yaitu おまち行きちゃい (omachi ikichai ). Kata sebenarnya adalah お祭り行きたい(omatsuri ikitai) yang mengandung arti ingin pergi ke perayaan. Kalimat yang diucapkannya menjadi lebih mudah bagi tokoh Minoru, maka kata お祭り行きたい(omatsuri ikitai) berubah menjadi おまち行きちゃい (omachi ikichai ). Dalam pengucapan Minoru huruf り(ri) dan たい(tai) pada kata お祭り行きたい (omatsuri ikitai) dilesapkan menjadi ち(chi) dan ちゃい(chai) dalam kata おまち行きちゃい (omachi ikichai ). Karena dalam pengucapan Minoru yang belum sempurna kata tersebut dibenarkan. Dan kalimat tersebut dibenarkan sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka

Yoshi Sato. Minoru mampu mengucapkan kalimat pendek yang dilesapkan sesuai dengan youjigo dalam bahasa Jepang. Dalam hal ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

### Data 32

(06:05 – 06:23)

- |               |                                  |
|---------------|----------------------------------|
| みのる           | : <u>ポンポン</u> いいちゃん。             |
| <i>Minoru</i> | : <i>Pon pon iichan.</i>         |
| Minoru        | : Pon pon kakak.                 |
| たくや           | : ポンポン?                          |
| <i>Takuya</i> | : <i>Pon pon ?</i>               |
| Takuya        | : Pon pon?                       |
| みのる           | : ポンポン. (走ながら)                   |
| <i>Minoru</i> | : <i>Pon pon. (Hashi nagara)</i> |
| Minoru        | : Pon pon. (sambil berlari)      |
| たくや           | : ちよつと。                          |

- Takuya* : *Chotto.*
- Takuya : Tunggu.
- みのる : あれ!
- Minoru* : *Are!*
- Minoru : Itu!
- たくや : あ。ヨーヨーね。
- Takuya* : *A. Yooyoo ne.*
- Takuya : Oh. Yoyo.

Analisis :

Saat Minoru dan Takuya datang ke perayaan, Minoru melihat orang lain membawa yoyo. Lalu meminta Takuya untuk membeli yoyo itu, dan berkata ポンポン (pon pon).

Dalam data 32 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi, yaitu ポンポン (pon pon). Kata sebenarnya adalah ヨーヨー (yooyoo) yang mengandung arti yoyo. Namun dalam pengucapan tokoh Minoru kata ヨーヨー (yooyoo) berubah menjadi lebih mudah dan karena permainan ヨーヨー (yooyoo) dimainkannya dengan keatas

kebawah Minoru menyebutnya yaitu ポンポン (pon pon), dianggap nya sebagai benda yang jika dinaik turunkan berbunyi ポンポン (pon pon). Dan kalimat tersebut dibenarkan sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Yasuhiro Minami dan Tessei Kobayashi dan Tanaka Yoshi Sato. Minoru mampu mengucapkan kata benda atau meishi sesuai dengan youjigo dalam bahasa Jepang. Dalam hal ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

Episode 9

### Data 33

(02: 21 – 02:24)



みのる

: きちや!

Minoru

: Kicha!

Minoru : Mereka datang !

Analisis :

Pada episode 9 ini,, Minoru sedang menonton acara televisi kesukaannya yaitu Sentaku Sentai, Shabon Five. Dalam serial TV tersebut ada anak kecil yang ditangkap oleh monster, lalu datang Shabon Five dan Minoru berkata きちゃ.

Dalam data 33 terlihat bahwa Minoru mampu mengucapkan kata kerja atau doushi, yaitu きちゃ (kicha). Kata yang sebenarnya adalah きた (kita) yang mengandung arti datang. Kata pada huruf た berubah dan dilesapkan menjadi ちゃ (cha) pada kalimat きちゃ (kicha). Karena dalam pengucapan Minoru yang belum sempurna kata tersebut dibenarkan. Dan kalimat tersebut dibenarkan sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf. Selanjutnya dalam kalimat ini penulis interpretasikan dengan teori Tanaka Yoshi Sato. Minoru mampu mengucapkan kata kerja atau doushi yang dilesapkan sesuai dengan youjigo dalam bahasa Jepang. Dalam hal ini sesuai dengan teori Dardjowidjojo dan Syamsu Yusuf.

### C. Interpretasi Data

Untuk memudahkan memahami hasil analisis yang dilakukan penulis terhadap ragam *youjigo* dalam anime *Akachan to Boku* karya Ragawa Morimo, maka penulis menginterpretasikan hasil analisis yang didapat sebagai berikut :

1. Tuturan yang diucapkan oleh tokoh Minoru dalam anime *Akachan to Boku* :

Data yang didapat dari data 1, 2, 3, 4, 5, 6, : Minoru selaku tokoh utama balita yang berusia 2 tahun, banyak menggunakan jenis kata benda atau 名詞 (meishi). Kata benda atau 名詞 (meishi) ini adalah kata yang paling banyak diucapkan oleh Minoru. Kata kerja atau 動詞 (Doushi) menjadi urutan kedua yang diucapkan oleh Minoru. Selanjutnya kata Sifat い atau 形容詞 い (Keiyoushi i) , オノマトペ (Oomatope), Salam atau 挨拶, Kata Keterangan atau 副詞 (Fukushi), Membuat Kalimat Pendek adalah kata yang tidak terlalu banyak diucapkan oleh Minoru. Dalam pengucapan Minoru tersebut banyak semua jenis kata *youjigo* tidak sesuai dengan bahasa Jepang aslinya atau padanannya. Ini dikarenakan struktur pengucapan pada anak usia 2 tahun yang belum sempurna terutama pada tokoh Minoru. Ragam *youjigo* pada semua jenis kata *youjigo* ini digunakan oleh Minoru untuk semua orang yang dijumpainya, dari teman sebaya, remaja dan orang dewasa. Dalam ragam *youjigo* yang

digunakan oleh Minoru bermaksud untuk memberikan penjelasan apa yang dikatakan oleh Minoru meskipun semua jenis kata tersebut tidak sesuai dengan bahasa Jepangnya. Dalam teori Soenjono Dardjowidjojo dan Dr. H. Syamsu Yusuf LN., M.Pd bahwa ragam youjigo tidak menjadi patokan umur dari minggu, bulan, dan tahun seperti yang diberikan di atas haruslah dianggap relatif karena faktor biologi pada manusia itu tidak semuanya sama. Yang penting dari patokan itu adalah bahwa urutan pemerolehan bahasa pada anak itu sama dari dekutan, ke celotehan, ke ujaran satu kata, dan kemudian ke ujaran dua kata, dan seterusnya. Dan sesuai dengan teori dari Dr. H. Syamsu Yusuf LN., M.Pd bahwa bayi mengenal objek-objek yang berada di lingkungannya melalui sistem pengindraan (seperti, penglihatan dan pendengaran) dan gerakan motoriknya (refleks, seperti mengenyot, dan menggerakkan kepala ke arah sumber rangsang).

**Tabel 4.6 Interpretasi Data**

<b>No.</b>	<b>Jenis Kalimat Youjigo</b>	<b>Ragam Youjigo</b>	<b>Padanan Bahasa Jepang</b>
1 .	Kata Benda atau 名詞 (Meishi)	いいちゃん。  あい。	兄ちゃん。  はい。

		ていねい。 ジュジュ。 パンパイ。 うみ うみ。 ちやまご。 アイス。 ピージマー。 いい子。 ポンポン	先生。 ジュス。 カンパイ。 うみ、うみ。 卵。 アイス。 ピナッツ豆。 いい子。 ヨーヨー
2.	kata Kerja atau 動詞 (Doushi)	こう。 できちゃ。 あげゆ。 あいちやも。 きちゃ。	こう。 できた。 あげる。 預かる。 来た。
3.	Kata Sifat い atau 形 容詞 い(Keiyoushi i)	いちゃい。 おいしい。 きやい。 怖い。	痛い。 おいしい。 嫌い。 怖い。
4.	オノマトペ (Onomatopoeia)	ミヤニヤ、ミヤ ニヤ。	ミヤニヤ、ミヤ ニヤ。

		Tuttu. Tatta. Tuttu.Tatta.. Da. Ao Bu. Au Ao.Aw ワンワンワンワ ン。	Tuttu. Tatta. Tuttu.Tatta.. Da. Ao Bu. Au Ao.Aw ワンワンワンワ ン。
5.	Salam atau 挨拶	いっちゃんあま ー。 こっちゃん。 おめちゃん。 あゆじゃまー。	いって来ます。 こんいちは。 ごめんなさい。 おはようござい ます。
6.	Kata Keterangan atau 副詞 (Fukushi)	はっく。 こいこえ。	早く。 こちら。

2. Faktor yang mempengaruhi pembentukan ragam youjigo dalam anime *Akachan to Boku* :

Data yang didapat dari data 10, Dalam data 10 terlihat bahwa pembentukan ragam youjigo atau bahasa anak-anak sangat terpengaruhi oleh faktor keluarga. Pada data tersebut Mabo adalah adik dari Fuji, teman sekelas Takuya yang usianya sama

dengan Minoru. Mabo mampu memperkenalkan dirinya kepada Minoru dengan sempurna dan lancar. Sedangkan Minoru hanya mampu mengucapkan hal yang diutarakan saja, belum mampu mengungkapkan sebuah kalimat apalagi memperkenalkan diri dengan sempurna dan lancar. Dalam hal tersebut sesuai dengan teori dari Joseph C. Mukael bahwa faktor-faktor yang mempengaruhi dalam pembelajaran bahasa pertama adalah sebuah analisis kondisi dimana bahasa pertama mempengaruhi pembelajaran bahasa asli. 1. Lingkungan fisik mempengaruhi proses pembelajaran bahasa pertama. Lingkungan materi seorang anak berkaitan dengan apa dia mengambil bahasa sebagai bahasa pertamanya. 2. Lingkungan sosial mempengaruhi bahasa pertamanya, ketika sedang belajar. Keluarga dan lingkungan adalah unsur-unsur sosial yang paling penting untuk pertumbuhan bahasa natural dari faktor-faktor sosiological yang lebih penting dari pada hal-hal lain dalam proses pembelajaran bahasa pertama.

**Tabel 4.7 Interpretasi Data**

<b>No.</b>	<b>Bentuk Bahasa pada Anak</b>	<b>Ragam Youjigo</b>	<b>Penjelasan</b>
1.	Pembentukan Bahasa pada anak	僕、ふじま さきです。	Perkenalan yang dilakukan oleh

		いつもお兄 がおせ わに なつてま す。	Fuji Masaki yang dipanggil Mabo, dan berusia sama dengan Minoru, 2 tahun.
--	--	-------------------------------	--

3. Perbandingan ragam youjigo antara anak perempuan dan anak laki-laki dalam anime *Akachan to Boku*:

Data yang didapat dari data 19, 20, 21 : terlihat bahwa perbedaan antara bahasa anak laki-laki dan bahasa anak perempuan dalam mengutarakan kalimat yang sangat panjang dan dengan pola yang aktif. Diketahui pada data tersebut adalah seorang anak perempuan, kelas TK nol kecil yang seumurannya dengan Minoru, bernama Ichika. Ichika sangat aktif dan baik dalam mengutarakan kalimat yang sangat panjang tersebut. Disini terlihat jelas perbandingan ragam youjigo antara anak perempuan dan anak laki-laki. Dalam mengutarakan kalimat tersebut semua kalimatnya sesuai dengan bahasa Jepang aslinya atau padanannya. Dan dalam mengutarakan kalimatnya tersebut digunakan untuk semua orang baik teman sebaya, remaja, dan

orang dewasa. Kemampuan tersebut sesuai dengan Menurut Nurdin, S.Pd., S.Sos., M.Com bahwa Faktor genetik atau hormonal sangat memengaruhi fungsi otak, sehingga membedakan reaksi anak laki-laki dan perempuan terhadap keterampilan verbal. Anak laki-laki cenderung lebih lambat berbicara dan memiliki kosa kata yang lebih sedikit daripada anak perempuan. Anak perempuan cenderung lebih mahir membaca tanda-tanda non verbal, seperti intonasi dan ekspresi, sehingga secara umum anak perempuan lebih terampil berkomunikasi, terutama yang melibatkan emosi dan penguasaan kata-kata.

**Tabel 4.8 Interpretasi Data**

<b>No.</b>	<b>Perbandingan Kalimat</b>	<b>Ragam Youjigo</b>	<b>Penjelasan</b>
1.	Perbandingan dengan Bahasa Anak Perempuan	みのるくんお兄ちゃん は？どうも始めま して、いちかと申し ます。大学カメで す。あたしはみのる ちゃんの結婚したい になるです。だか	Saat Ichika memperkenalkan dirinya ke pada Takuya, kakak Minoru.

2.		<p>ら、お兄ちゃんのまかせてくださいね。</p> <p>ひどいなんことするなよ。昨日あなたのライベル決めてびぜかったよね。あなたにみのるちゃんはいさつくつないわ。</p>	<p>Saat Ichika memarahi Hiro, karena sudah bersikap jahat kepada Minoru.</p>
3.		<p>みのるちゃん、きれいに書いてね。あたし絶対みのるちゃん絵の際のおもう。</p> <p>将来トピック書きたになるちがいがないわね。</p>	<p>Saat Ichika memuji gambar Minoru</p>

4. Dalam menganalisis anime *Akachan to Boku*, penulis menemukan data tentang perkembangan motorik pada anak laki-laki :

Data yang didapat dari data 9 dan 21, terlihat bahwa Minoru mampu menggambar hal yang dia lihat dan dia rasakan, meskipun gambar tersebut tidak memiliki kesamaan yang sempurna, namun dalam kegiatan tersebut termasuk kedalam perkembangan motorik bagi anak usia 2 tahun terutama pada tokoh Minoru. Pada gambar tersebut hanya ada gambar Takuya, kakak Minoru dan Ichika serta Hiro teman sekelas Minoru. Kemampuan tersebut sesuai dengan Dr. H. Syamsu Yusuf LN., M.Pd. Perkembangan kemampuan motorik pada anak yang cerdas dimulai pada usia 12 bulan, anak yang sedang pada usia 15 bulan, yang moron 22 bulan, dan yang idiot 30 bulan, untuk anak laki-laki yang meliputi berlari, melompat, dan keseimbangan, cenderung berkembang lebih cepat dibandingkan anak perempuan, yang justru lebih cepat mengembangkan motorik halus nya, seperti memegang pensil dan menulis.

**Tabel 4.9 Interpretasi Data**

No.	Jenis Perkembangan	Objek	Penjelasan
1.	Perkembangan Motorik		Gambar Takuya yang dibuat oleh Minoru.
2.			Gambar Hiro dan Ichika yang dibuat oleh Minoru.

5. Dalam analisis ini, penulis pun menemukan kalimat pendek yang mampu diucapkan oleh Minoru.

Data yang didapat dari data 17 dan 31, Meskipun dapat mengungkapkan kalimat, namun Minoru hanya mampu mengungkapkan kalimat pendek. Berbeda hanya dengan Mabo dan Ichika teman seumuran Minoru yang dapat mengucapkan kalimat panjang dan jelas.

Tabel 4.10 Interpretasi Data

NO.	Jenis Kalimat	Ragam Youjigo	Padanan Bahasa Jepang
1.	Membuat Kalimat Pendek	みに行く。 おまち行きちゃ い。	みに行く。 お祭り行きた い。

## BAB V

### KESIMPULAN DAN SARAN

#### A. Kesimpulan

Penulis akan menjabarkan kesimpulan berdasarkan hasil analisis atau berbentuk narasi dialog yang telah dilakukan pada penelitian tentang ragam *youjigo* dalam bahasa Jepang pada anime *Akachan to Boku* karya Ragawa Morimo episode 1 – 9, penulis menjabarkan kesimpulan yang diperoleh setelah melakukan analisis pada bab IV.

1. Masa bayi adalah masa perkembangan yang terpendek dalam kehidupan manusia. Dalam perkembangannya ada beberapa fase, dari setiap fase memiliki tingkat perkembangan yang berbeda tergantung kondisi psikologi anak. Salah satu fase terpenting adalah komunikasi. Ketika anak mampu mengucapkan kata sepatah sampai dua kata adalah sebuah perkembangan yang sangat baik. Dalam komunikasi terutama pada bahasa Jepang, bahasa anak-anak disebut *youjigo*. *Youjigo* adalah bahasa yang digunakan oleh anak-anak, dari usia 0 sampai 5 tahun. Bahasa anak-anak memiliki karakteristik yang berbeda dari bahasa orang dewasa, saat anak-anak mengucapkan kalimat atau kata yang tidak sesuai dengan gramatikalnya itu diperbolehkan, ini dikarenakan struktur pengucapan pada masa anak-anak atau balita yang belum sempurna. *Youjigo* mempunyai ragam

bentuk bervariasi. Ragam *youjigo* yang terdapat dalam anime *Akachan to Boku* karya Ragawa Morimo, yaitu kata benda atau 名詞 (*meishi*) memiliki 11 data, kata kerja atau 動詞 (*doushi*) memiliki 5 data, kata sifat い atau 形容詞い (*keiyoushi*) memiliki 4 data, オノマトペ (*Oomatope*) memiliki 4 data, salam atau 挨拶 memiliki 4 data, kata keterangan atau 副詞 memiliki 2 data, membuat kalimat pendek memiliki 2 data, perbandingan ragam *youjigo* pada anak laki-laki dan perempuan memiliki 2 data, perkembangan motorik berupa gambar memiliki 2 data, dan pembentukan bahasa pada anak memiliki 1 data. Secara jelas temuan ragam *youjigo* ditemukan pada anime *Akachan to Boku* sebagai berikut :

- a. Kata benda atau 名詞 (*meishi*), data 1: いいちゃん, data 3: あい data 5: ていねい, data 11: ジュジュ, data 22: パンパイ, data 23: うみ うみ, data 26: ちゃまご, data 27 : アイス, data 29 : ピージマー, data 30: いい子, data 32: ポンポン.
- b. Kata kerja atau 動詞 (*doushi*), data 7: こう, data 21: できちゃ, data 25: あげゆ, data 25: あいちゃも, data 33: きちゃ.
- c. Kata sifat い atau 形容詞い (*keiyoushi*), data 13: いちゃい, data 6: おしい, data 21: きやい, data 28: 怖い.

- d. オノマトペ (*Oomatope*), data 1: ミヤニヤ、ミヤニヤ, data 8: Tuttu. Tatta. Tuttu.Tatta, data 12: Da. Ao Bu. Au Ao.Aw, data 14: ワンワンワンワン.
- e. Salam atau 挨拶 (*aisatsu*), data 4: いっちやあまー, data 10: こっちや, data 15: おめちやい, data 16: あゆじやまー.
- f. keterangan atau 副詞 (*fukushi*), data 23 : こいこえ, data 24: はっく.
- g. Membuat kalimat pendek memiliki, data 17: みに行く, data 31: おまち行きちやい.
- h. Perbandingan ragam youjigo pada anak laki-laki dan perempuan, Data 19: みのるくんお兄ちゃんは? どうも始めまして、いちかと申します。大学カメです。あたしはみのるちゃんの結婚したいになるです。だから、お兄ちゃんのまかせてくださいね。Data 20: ひどいなんことするなよ。昨日あなたのライベル決めてびぜかったよね。あなたにみのるちゃんはいさつくつないわ。Data 21: みのるちゃん、きれいに書いてね。あたし絶対みのるちゃん絵の際のとおもう。将来トピク書きたになるちがいにないわね。
- i. Perkembangan motorik,



Data 9



Data 21

- h. Pembentukan bahasa pada anak, data 18 僕、ふじまさきです。いつもお兄がおせ わになってます。

2. Ragam pengucapan youjigo dalam bahasa Jepang dapat disimpulkan bahwa patokan pada usia minggu, bulan, dan tahun haruslah dianggap relatif karena faktor biologi pada manusia itu tidak semuanya sama. Yang terpenting dari patokan tersebut adalah celoteh, ujaran satu kata dan ujaran sampai dua kata. Selain itu dalam perkembangan pengucapan pada anak-anak ada beberapa faktor yang sangat berpengaruh dalam pertumbuhan terutama dalam komunikasi. Salah satunya adalah lingkungan fisik dalam pembelajaran bahasa pertama, lingkungan sosial berupa keluarga, serta sumber daya fisik dan ekonomi dalam proses pembelajaran. Lingkungan sosial berupa keluarga sangatlah penting dalam membentuk karakter, dan tingkat komunikasi pada anak. Karakter dan tingkat komunikasi yang dibentuk dengan keluarga yang utuh dan perhatian yang lebih pada anak usia nol sampai balita usia 5 tahun akan menentukan karakter dan tingkat komunikasi pada anak tersebut dimasa depan. Anak yang kekurangan kasih sayang dan perhatian dari keluarga terutama orang tua akan mempunyai perilaku yang tidak baik, serta cara bicara yang kasar terhadap orang lain.
3. Dalam perbandingan bahasa pada anak laki-laki dan anak perempuan adalah salah satu perkembangan motorik yang memang cenderung berkembang lebih cepat pada anak perempuan dibandingkan anak laki-laki. Anak laki-laki cenderung lebih lambat berbicara dan memiliki kosa kata yang lebih sedikit daripada anak perempuan.

4. Pengucapan ragam youjigo dalam bahasa Jepang yang digunakan oleh tokoh Minoru dan teman sebayanya dalam anime *Akachan to Boku* sesuai dengan bahasa anak-anak pada bahasa Jepang dalam anime tersebut.

## **B. Saran**

Setelah menyimpulkan, berdasarkan penelitian yang telah dilakukan penulis bermaksud menyampaikan saran, sebagai berikut :

1. Bagi pembelajar bahasa Jepang, penelitian ini dapat menambah khasanah kebahasaan bahasa Jepang terutama mengenai ragam youjigo. Dalam penggunaan ragam youjigo sebaiknya perlu memperhatikan faktor yang paling berpengaruh dalam perkembangan komunikasi pada anak. Penelitian ini dapat dijadikan bahan masukan bagi para pembelajar bahasa Jepang.
2. Bagi penulis, dengan membaca hasil penelitian yang penulis lakukan yaitu Ragam Youjigo dalam Bahasa Jepang pada Anime *Akachan to Boku*, diharapkan ada pembelajaran bahasa Jepang lain yang berminat untuk melakukan penelitian lebih lanjut mengenai ragam youjigo dalam bahasa Jepang untuk melengkapi kekurangan (Teori atau Referensi) dalam penelitian ini.
3. Sebagai masukan kepada STBA JIA, agar menambah koleksi buku mengenai linguistik terutama linguistik bahasa Jepang, karena penulis mengalami kesulitan menemukan buku linguistik bahasa Jepang selama penulis melakukan penelitian ini.

## DAFTAR ACUAN

- Chaer, Abdul.2009.*Psikolinguistik:Kajian Teoritik*.Jakarta:Rinenka Cipta.
- Chaer,Abdul& Agustina, Leonie.2010.*Sosiolinguistik:Perkenalan awal* .Jakarta:Rineka Cipta.
- Darjowidjojo, Soejono.2016.*Psikolinguistik:Pengantar Pemahaman Bahasa Manusia*.Jakarta:Yayasan Pustaka Obor Indonesia.
- Mar'at, Samsunuwiyati.2015.*Sosiolinguistik:Suatu Pengantar*. Bandung:PT.Refika Aditama.
- Ohoiwutun, Paul.2007.*Sosiolingistik:Memahami Bahasa Dalam Konteks Masyarakat Dan Kebudayaan*.Jakarta:Kesaint Blanc.
- Sudjianto & Dahidi Ahmad.2009.*Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*.Jakarta: Kesaint Blanc.
- Sudjianto, Dahidi Ahmad.2004.*Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*.Jakarta: Kesaint Blanc.
- Sutedi, Dedi.2008.*Dasar-dasar Linguistik Bahasa Jepang:Nihongo Gaku No Kiso*. Bandung:Humaniora.
- Wijan & Rohmadi.2013.*Sosiolinguistik:Kajian Teori dan Analisis*.Yogyakarta: Pustaka Pelajar.

Yusuf Saymsu.2004.*Psikologi Perkembangan Anak dan Remaja*.  
Bandung:PT Remaja Rosdakarya.

**WEB :**

File.upi.edu>7. buku sosiolinguistik.pdf diakses pada : Kamis ,15 Maret  
2018 jam : 20.00, Bekasi.

File.upi>psikolinguistik-andhika.pdf diakses pada : Kamis ,15 Maret  
2018 jam : 20.00, Bekasi.

http://ejournal.unp.ac.id/index.php/linguadidaktika/article/view/7406&grq  
id=qtpxMfn6&s=1&hl=id-ID diakses pada : Jum'at 24 November 2017,  
jam : 19.00 WIB, Bekasi.

http://ejournal.unp.ac.id/index.php/linguadidaktika/article/view/7406&grq  
id=qtpxMfn6&s=1&hl=id-ID jam : 19.00 WIB, Jum'at 24 November  
2017, Bekasi.

http://hukum.unsrat.ac.ic/uu/uu\_4\_79.htm&hl=id-ID jam : 20.00 WIB,  
Kamis 15 Maret 2018, Bekasi.

journal.unair.ac.id/download-fullpapers-japanology7a003c8a822full.pdf  
diakses pada : Kamis ,15 Maret 2018 jam : 20.00, Bekasi.

http://download.portalgaruda.org/article.php%3Farticle%3D185674%26v  
al%3D6439%26title%3DSEGREGASI%2520DALAM%2520PENGAJA

[RAN%2520%2520DAN%2520PENGUASAAN%2520BAHASA&ved=2ahUKEwj7vu6a8DcAhXSeisKHdOMChgQFjAAegQIARAB&usg=AOvVaw1yV2YjkYHFihwiw3ws7I](https://www.google.com/search?q=RAN%2520%2520DAN%2520PENGUASAAN%2520BAHASA&ved=2ahUKEwj7vu6a8DcAhXSeisKHdOMChgQFjAAegQIARAB&usg=AOvVaw1yV2YjkYHFihwiw3ws7I) diakses pada: Rabu, 25 Juli 2018, Bekasi

<http://journal.unair.ac.id/download-fullpapers-japanology7a003c8a822full.pdf> diakses pada 30 April 2018. Bekasi

[http://file.upi.edu/Direktori/FPBS/JUR.\\_PEND.\\_BAHASA\\_JEPANG/195906051985031-SUDJIANTO/7.\\_Buku\\_Sosiolinguistik.pdf](http://file.upi.edu/Direktori/FPBS/JUR._PEND._BAHASA_JEPANG/195906051985031-SUDJIANTO/7._Buku_Sosiolinguistik.pdf) diakses pada 30 April 2018. Bekasi

[http://file.upi.edu/Direktori/FPBS/JUR.\\_PEND.\\_BHS.\\_DAN\\_SASTRA\\_INDONESIA/198001292005011-ANDIKA\\_DUTHA\\_BACHARI/psikolinguistik-andika.pdf](http://file.upi.edu/Direktori/FPBS/JUR._PEND._BHS._DAN_SASTRA_INDONESIA/198001292005011-ANDIKA_DUTHA_BACHARI/psikolinguistik-andika.pdf) diakses pada 30 April 2018. Bekasi.

## Daftar Riwayat Hidup



Nama : Nurul Hasanah

Tempat, Tanggal Lahir : Jakarta, 01 Juni 1993

Alamat : Alexindo Kav.Rawa Bambu Jl.A1-Kautsar V  
RT07 RW016 NO.77 Harapan Jaya Bekasi  
Utara

Email : [nurul.hasanah.nh377@gmail.com](mailto:nurul.hasanah.nh377@gmail.com)

No.Telp : 08980038660  
085216169636

### Riwayat Pendidikan Formal

2001 – 2006 : MI Sullamul Istiqomah

2006 – 2009 : SMP SEROJA BEKASI

2009-2012 : SMK MANDIRI BEKASI

### Riwayat Pekerjaan

PT.Matahari Department Store Tbk.

PT.Mandom Indonesia Tbk.

## Daftar Riwayat Hidup



Nama : Nurul Hasanah

Tempat, Tanggal Lahir : Jakarta, 01 Juni 1993

Alamat : Alexindo Kav.Rawa Bambu Jl.AI-Kautsar V  
RT07 RW016 NO.77 Harapan Jaya Bekasi  
Utara

Email : [nurul.hasanah.nh377@gmail.com](mailto:nurul.hasanah.nh377@gmail.com)

No.Telp : 08980038660  
085216169636

### Riwayat Pendidikan Formal

2001 – 2006 : MI Sullamul Istiqomah

2006 – 2009 : SMP SEROJA BEKASI

2009-2012 : SMK MANDIRI BEKASI

### Riwayat Pekerjaan

PT.Matahari Department Store Tbk.

PT.Mandom Indonesia Tbk.